

高知県立大学
University of Kochi

社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第 1 9 号

2 0 1 7 年

(2016年度自己点検評価資料)

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515 高知市池2751-1

Tel 088-847-8700 (大学代表)

Tel 088-847-8757 (学部代表)

Fax 088-847-8672 (学部専用)

<http://www.u-kochi.ac.jp/>

学部理念・目的・ポリシー

【理念・目的】

教育理念

福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉の実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を育成する。

教育目的

(1) 地域・家族のもつ福祉課題への対応能力の養成

ノーマライゼーションを基本的視点として、人権を基礎とする福祉理念を理解させる。また、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために、これまで地域や家族が補完しあいつながら担ってきた機能を再編成し、これを支援していく能力の開発が求められている。こうした問題に対応できる専門的知識を身に付けさせる。

(2) 社会福祉実践能力の養成

各種の福祉ニーズに対応できる専門的スキルを修得し、科学的な根拠に基づく主体的な福祉援助を実践しうる能力を養う。

(3) 保健・医療・福祉の効果的な連携をめざした社会福祉専門職の養成

高知県において急速に進行している少子・高齢化問題に対応するため、保健・医療・福祉の効果的な連携を図ることとし、そのために必要な専門的知識を有し、福祉援助を可能とする社会福祉専門職を養成する。

【ディプロマ・ポリシー】

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

- 1 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
- 2 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

(汎用的・実践的技能)

- 3 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
- 4 コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

(態度・志向性)

- 5 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
- 6 ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

- 7 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
- 8 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

【カリキュラム・ポリシー】

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2 専門教育科目

(カリキュラムの構造・教育内容)

専門教育科目については、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだところの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「相談援助基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「相談援助実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

(履修方法・順序)

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域における相談援助に必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験

資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

(教育方法)

各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

(評価)

学部の理念・目標に基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

【アドミッション・ポリシー】

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

- 1 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
- 2 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔理解力・洞察力・表現力〕
- 3 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔理解力・洞察力・表現力〕
- 4 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
- 5 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲・協働性〕

入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般入試（前期日程・後期日程）、推薦入試（県内・全国）、社会人入試、私費外国人留学生入試があります。

・一般入試（前期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入試センター試験教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行い、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受

験者の理解力・洞察力・表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

・一般入試（後期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入試センター試験教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己 PR 書の内容を中心とした個別形式で行い、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の理解力・洞察力・表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

・推薦入試（県内・全国）

高等学校からの推薦者を対象として、基礎学力を把握する観点から調査書の評定平均値を点数化するとともに面接を行います。面接は、志望動機書及び推薦書を中心とした個別形式で行い、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の理解力・洞察力・表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

・社会人入試

社会人の経験を有する者を対象として、小論文を課すとともに面接を行います。小論文は、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行い、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の理解力・洞察力・表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

・私費外国人留学生入試

日本国籍を有しない者を対象として、日本学生支援機構が実施する日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行い、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の理解力・洞察力・表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

目 次

I. 2016年度を振り返る

1. 2016年度 社会福祉学部活動概括	1
2. 2016年度 社会福祉学部主要の行事	3
3. 2016年度 社会福祉学部時間割	4

II. 社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）他

2016年度社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧	6
1. 杉 原 俊 二	8
2. 田 中 き よ む	12
3. 長 澤 紀 美 子	16
4. 丸 山 裕 子	18
5. 宮 上 多 加 子	20
6. 鈴 木 孝 典	22
7. 中 嶋 洋	25
8. 西 内 章	29
9. 西 梅 幸 治	32
10. 山 村 靖 彦	34
11. 井 上 健 朗	37
12. 河 内 康 文	40
13. 遠 山 真 世	42
14. 鳩 間 亜 紀 子	44
15. 福 間 隆 康	46
16. 三 好 弥 生	48
17. 上 田 恵 理 子	50
18. 片 岡 妙 子	52
19. 加 藤 由 衣	54
20. 鈴 木 裕 介	56
21. 田 中 眞 希	58
22. 二 本 柳 覚	60
23. 橋 本 力	62

Ⅲ. 社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動報告書）

2016年度社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧	64
1. 教 務 委 員 会	65
2. 入 試 委 員 会	67
3. 学 生 委 員 会	69
4. 実 習 委 員 会	70
5. 就 職 委 員 会	72
6. 広 報 委 員 会	74
7. 介 護 人 材 確 保 部 会	75
8. キャリア支援委員会	82
9. 健康長寿センター	85
10. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会	89
11. 災害対策プロジェクト	91
12. 総務・予算委員会	93
13. 国試対策支援委員会	94

Ⅳ. 学生を中心とした活動

1. 国家試験に向けての取り組み	96
2. 国 際 交 流	97
3. 学 外 イ ベ ン ト へ の 参 加	99
4. 太 鼓 部	100
5. 池 手 話 サ ー ク ル	101
6. い け と べ !	102
7. イ ケ あ い	103
8. ハ モ ☆ イ ケ	104
9. か ん き も ん	105
10. ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	106
11. 特別支援学校修学旅行ボランティア	108

Ⅴ. 卒業論文題目一覧（2016年度）

編 集 後 記

I

2016年度を振り返る

2016年度 社会福祉学部活動概括

学部長 宮上多加子

1. 教員体制

- ・2016年度は新採用2名が加わり教員数25名。
職位構成は教授6名、准教授5名、講師6名、助教8名。
担当分野構成は福祉基礎4名、社会福祉11名、介護福祉6名、精神保健福祉4名。

2. 教育

- ・2014年度入学生より新カリキュラムを導入しており、履修モデルに基づいて履修指導を実施。
- ・授業評価および学部独自の2つのアンケートを実施し、結果を分析したうえで、担当教員の授業方法改善に取り組んだ。
- ・ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーについて、新年度の学部ガイダンス資料に掲載し周知。全学的に3ポリシーを検討し、改正した3ポリシーを学部HPに掲載。
- ・8月から10月にかけて3回生と介護・社会福祉コースの4回生が相談援助実習を、精神・社会福祉コースの4回生が精神保健福祉援助実習を行い、2月に実習報告会、3月に実習先担当者を招いて実習連絡協議会を開催。
- ・介護・社会福祉コース2回生の介護実習Ⅱが終了した後、10月に介護実習連絡協議会に引き続き介護実習報告会を開催。3回生の介護実習Ⅲを2月から3月にかけて実施。
- ・4回生の卒業研究では、5月に構想発表会、10月にポスター形式による中間報告会を経て、12月20日締切りで論文提出、卒論発表会を2月に開催。

3. 研究

- ・研究成果としては著書11編、査読付論文18編、その他28編、学会発表等23件。
- ・「高知県立大学紀要(社会福祉学部編)」第66巻に9編掲載。
- ・科学研究費は平成28年度8件応募、4件採択で採択率50.0%、平成29年度は9件応募。
- ・科研費での他大学教員との共同研究は、研究代表者2名、研究分担者8名。
- ・若手研究者を育成するために研究費を職位に対して逆傾斜配分。

4. 自己点検評価とファカルティ・デベロップメント(FD)

- ・自己点検評価資料として位置付けている「社会福祉学部報」第18号を作成・公表。
- ・学部懇談会の場を活用して、研究・教育面での学部FD研修会を年4回開催。
- ・教育面の学外研修では、「日本社会福祉士養成校協会中国四国ブロックセミナー」(1名)、「日本精神保健福祉士養成校協会全国研修会」(1名)、「全国社会福祉教育セミナー」(2名)、「介護福祉士養成施設協会中国四国ブロック研修会」(5名)、介護教員講習会(1名)、「公立大学協会社会福祉学系部会連絡会」(2名)参加。
- ・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)関連の研修では、「SPODフォーラム2016」(1名)、「SPODセミナー」(1名)に参加。

5. 入学生と2016年度入学試験

- ・4月に第20期生74名(県内出身35名、男子13名、社会人2名、留学生1名)が入学。
- ・推薦入試では、県内枠への志願者が27名(+5)で志願倍率1.4倍、全国枠は30名(+8)で3.0倍。出願者は昨年度より増加。
- ・一般入試の志願者は、前期日程・後期日程ともに大幅に減少した。前期日程が94名(-34)で志願倍率2.7倍、合格倍率2.3倍、後期日程が68名(-85)で志願倍率13.6倍、合格倍率4.5倍。

2016 年度を振り返る

- ・私費外国人入試に3名の応募があり、2名合格し1名入学。
 - ・社会人入試に3名の応募があり、2名合格。
- 6. 卒業生と就職状況**
- ・3月に第16期生71名（男子14名）が卒業。
 - ・4回生の学年担当と卒業研究を指導するゼミ担当教員が連携して就活を支援。
 - ・就職希望者71名の内71名(100%)の就職が3月末までに決定し、30名(42%)が県内に就職。
 - ・就職先の内訳は、福祉施設等45%、医療機関14%、社会福祉協議会11%、公務員等16%、一般企業14%。
- 7. 3 福祉士資格と国家試験**
- ・国試対策支援委員会が4回生に国家試験に関するオリエンテーションや個別面談、社会福祉士養成校協会の模擬試験を実施。
 - ・国試対策勉強会を1月に2泊3日で実施。いの町の高知県立高知青少年の家を利用し、4回生36名が参加。
 - ・1月末に実施された第29回社会福祉士国家試験に70名受験して49名合格(合格率70.0% / 平均25.8%)、第19回精神保健福祉士国家試験に27名受験して27名合格(合格率100.0% / 平均62.0%、24名が社会福祉士国家試験にも合格)。
 - ・新卒の合格率は、社会福祉士(受験者50人以上の福祉系大学等)が70校中4位、精神保健福祉士(受験者20人以上)が26校中1位。
 - ・20名が介護福祉士資格を取得(13名が社会福祉士国家試験合格)し、その内の15名(75.0%)が介護職に就職。
- 8. 地域貢献活動・卒業生への支援**
- ・「社会福祉学部リカレント教育講座」として3講座を10月から12月に掛けて開催、延べ51名の福祉関係者等が参加。
 - ・オープンキャンパスを7月31日(日)に開催し、社会福祉学部の参加者194名(うち高校生155名)。
 - ・高知県との連携事業(補助金)として「高知県キャリア教育推進事業」を実施。9月17日と10月23日に開催した「高校生と保護者のための公開講座」には合計123名参加。学部提案型出前講座を安芸高校、岡豊高校、高知南高校、山田高校、嶺北高校で実施。
 - ・健康長寿センター体験型セミナーを看護学部・健康栄養学部と協働して実施。
 - ・学部にキャリア支援委員会を組織し、卒業生に対する支援を実施。平成27年度より実施している領域別リカレント研究会は、新規4分野を含めて6分野で実施。
- 9. 広報活動**
- ・学部広報に活用する社会福祉学部のパンフレット2016版を刷新したデザインで作成。
 - ・学部の広報委員会を組織編制し、入試広報部会と介護人材確保事業部会を設置。入試広報担当者等で高知県内の高校20校を訪問。学部の説明を行うとともに、各校の進路希望状況について情報収集。
 - ・3福祉士国家資格への対応や全国卒の推薦入試などを高校にPRするため、県外出身の学生21名が夏休み期間中に出身高校を訪問。
 - ・学部ホームページの大幅改定作業に着手し、2017年度から運用開始。
- 10. 国際交流活動**
- ・タイのウボンラーチャタニ大学と高知県立大学との協定書を締結。
 - ・エルムズ大学短期研修に1回生1名が参加。
 - ・ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学短期研修に1回生1名が参加。

2016年度社会福祉学部の主要行事

4月	4日(月)	入学式(県民文化ホール、19期生76名)
	5-6日(火-水)	学生ガイダンス
	8日(金)	前期授業開始(～8月8日)
	11日(月)	第1回連絡会・教授会
	21日(火)	新入生バスハイク(南喜ヶ峰森林公園)
	25日(月)	第2回連絡会・教授会
5月	2日(月)	介護福祉実習(介護実習Ⅰ)報告会
	9日(月)	第1回懇談会／第3回連絡会・教授会
	16日(月)	タイ国際SW研修報告会
	18日(水)	卒業研究構想発表会
	23日(月)	第4回連絡会・教授会
6月	11日(土)	学年間交流会
	13日(月)	第2回懇談会
	27日(月)	第5回連絡会・教授会
7月	11日(月)	第3回懇談会／第1回FD研修会
	31日(日)	オープンキャンパス
8月	1日(月)	第6回連絡会・教授会
	29日(月)	第7回連絡会・教授会
9月	17日(土)	高校生と保護者のための公開講座／創基70周年記念事業社会福祉学部公開講座
	26日(月)	第8回連絡会・教授会
10月	3日(月)	後期授業開始(～2月17日)
	8日(土)	第1回リカレント教育講座
	23日(日)	高校生と保護者のための公開講座
	24日(月)	第9回連絡会・教授会
	26日(水)	卒業研究中間発表会
	31日(月)	介護福祉実習連絡協議会／介護福祉実習(介護実習Ⅱ)報告会
11月	13日(日)	第2回リカレント教育講座
	19-20日(土-日)	推薦入学試験・社会人入学試験
	28日(月)	第10回連絡会・教授会
12月	3日(土)	第3回リカレント教育講座
	10日(土)	第4回リカレント教育講座
	12日(月)	第4回懇談会／第2回FD研修
	21日(水)	第3回FD研修
	26日(月)	第13回連絡会・教授会
1月	9-11日(月-水)	国試対策勉強会(高知青少年の家:いの町)
	23日(月)	第14回連絡会・教授会
	28-29日(土-日)	第29回社会福祉士国家試験・第19回精神保健福祉士国家試験
2月	8日(水)	卒業研究発表会／4回生を送る会
	9日(木)	相談援助実習報告会
	13日(月)	第5回懇談会／第4回FD研修会
	25-26日(土-日)	前期日程入学試験／私費外国人入試
	27日(月)	第15回連絡会・教授会
3月	2日(木)	第16回連絡会・教授会
	6日(月)	第17回連絡会・教授会
	7日(火)	相談援助実習連絡協議会
	12日(日)	後期日程入学試験
	15日(水)	精神保健福祉援助実習連絡協議会
	19日(日)	第19回連絡会・教授会
	21日(火)	卒業式(県民文化ホール、16期生71名卒業)
27日(月)	第20回連絡会・教授会	

平成28年度 社会福祉学部 時間割 <後期>

月	1時限			2時限			3時限			4時限			5時限		
	8:50~10:20	10:30~12:00	教室	13:00~14:30	教室	14:40~16:10	教室	16:20~17:50	教室	17:50~19:20	教室	19:30~21:00	教室		
1	英語コミュニケーションIB	英語コミュニケーションIB	教室	土佐の食と健康 土佐の自然と暮らし 福祉研究入門	教室 A306 A319	健康スポーツ科学II健康	清原		体育館						
2	英語コミュニケーションIB	英語コミュニケーションIB	教室	ケアマネジメント論	E103	健康スポーツ科学II看護 資源とエネルギー 相談援助の基礎と専門職	宮本・清原 大村		体育館 A318 大講義室						
3		福祉行財政と福祉計画	大講義室	ケアマネジメント論	E102	相談援助演習II	丸山・船木孝・二本柳		D21, D22 E103, E104						
4		福祉行財政と福祉計画	大講義室	ケアマネジメント論	E102	相談援助演習II	丸山・船木孝・二本柳		D21, D22 E103, E104						
火	1	日本現代史 科学と人間 相談援助の基礎と専門職 ※12月6日から「人体の構造と機能及び疾病(医学)」	清水 一色 西内・西橋・加藤	現代社会と福祉II 経済学 高齢者福祉論I	A318 A319 E103	地球の科学 精神保健福祉援助実習指導II	一色・大村 細居 嶋間		体育館 A318 大講義室				体育館 体育館 A318		
2		介護介護過程III	三好	(介護)介護過程I (介護)介護過程II	F110	地域福祉論II	山村		E102				相談援助実習指導II 西橋ほか		
3		精神保健福祉援助実習指導I	井上	(介護)介護総合演習III 精神保健福祉援助実習指導I	E204 F110・F207	(介護)医療的ケアI	三好・片岡		F104						
4		チームアプローチ	井上	精神保健福祉援助実習指導II	D222	精神保健福祉援助演習	丸山・船木孝・二本柳		F110・F207						
水	1	社会福祉基礎演習	山村・上田・嶋間・清本	健康とヘルスプロモーション 社会保険論II	E103 大講義室	情報リテラシー 人体の構造と機能及び疾病 ※1月4日から「相談援助の基礎と専門職(医学)」	風間 谷口		A318 E103				F110		
2		相談援助の理論と方法III	加藤	相談援助の理論と方法II	E102	精神保健福祉援助技術総論	丸山 田中真・三好		F110						
3		(介護)介護過程IV	三好	福祉サービスへの組織と経営	F110	福祉サービスへの組織と経営	福間		E102						
4		事例研究法	西内		E103								福祉研究演習III 担当教員		
木	1	英語コミュニケーションIB ジェンダーとキャリア	野辺	倫理学 文学 介護介護総合演習I 福祉NPO論	A306	哲学 心の科学 (介護)ここからからのしくみII	吉川 東原 田中真・山村		大講義室 A306 F110 E102				吉川 増田 片岡	名和 増田 増田	
2		英語コミュニケーションIB		福祉NPO論	E102				E102						
3		(介護)障害の理解II	河内	ケアマネジメント演習	F110	ケアマネジメント演習	鈴木裕		E103				西橋ほか 西橋ほか	国際福祉論 長澤 E103	
4															
金	1	(介護)コミュニケーション技術 介護生活支援技術IV 精神保健福祉論I	河内 田中真・川口・荒牧 鈴木孝	(介護)コミュニケーション技術 介護生活支援技術IV 精神保健福祉論I	E103 F110 E102	住まいと健康と安全 (介護)認知症の理解II	宇野 宮上・片岡		A318 F110				宮上 田中真	清水 大講義室	
2		精神保健福祉論I	鈴木孝	精神保健福祉論I	E102	精神保健福祉論II	鈴木孝・宮上・二本柳		F110						
3		精神科リハビリテーション学	二本柳	精神科リハビリテーション学	F207	精神保健学II	鈴木孝・宮上・二本柳		E102					精神科リハビリテーション学 ※精神医学Iが入ることもある	
4														※精神医学IIが入ることもある	
集中講義	科目名等	教員	開講月日												
1	専門基礎演習	西内・他	12/16・12/19・12/20・12/21												
2	チーム形成論	山中 他	2/21・2/22・2/23・3/1												
3	地域学実習II	一色・他	表示												
4	介護実習I	表示	表示												
5	介護実習II	表示	表示												
6	精神保健福祉援助技術各論	未定	表示												
7	精神医学I	山崎	表示												
8	精神医学II	山崎	表示												
9	社会福祉士お祝い実習	加藤	表示												
10	地域福祉活動	山村	表示												
11	福祉研究演習II	未定	表示												

[備考]

人体の構造と機能及び疾病のうち、奥谷先生分は、12月6、13、20日、1月10、17、24、31日の火曜日1限に開講する(相談援助の基礎と専門職の時間に)

(※社会福祉学部学生履修不可)

水曜日 1限 社会保険と生活(田中真)

木曜日 1限 現代社会論(中島)

金曜日 2限 社会保険と看護(田中真)

社会福祉学部開講科目

金曜日 2限 社会保険と看護(田中真)

II

社会福祉学部教員の教育研究活動
(教育研究活動報告書)他

2016年度 社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧

職 位	氏 名	学 位	専 門 分 野
教 授	杉 原 俊 二	博 士（医 学）	児 童・家 族 福 祉 論／心 理 療 法
教 授	田 中 きよむ	修 士（経 済 学）	福 祉 行 財 政 論
教 授	長 澤 紀 美 子	博 士（学 術）	福 祉 政 策 論／国 際 比 較 研 究
教 授	※ 林 美 朗	博 士（医 学） 博 士（文 学）	精 神 医 学
教 授	丸 山 裕 子	博 士（社会福祉学）	ソ ー シ ャ ル ワ ー ク 論
教 授	宮 上 多 加 子	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
准教授	鈴 木 孝 典	博 士（人 間 学）	精 神 保 健 福 祉 論
准教授	中 畠 洋	博 士（医療福祉学）	児 童・家 庭 福 祉 論
准教授	西 内 章	博 士（臨床福祉学）	社 会 福 祉 援 助 技 術 論
准教授	西 梅 幸 治	博 士（福祉社会学）	社 会 福 祉 援 助 技 術 論
准教授	山 村 靖 彦	博 士（社会福祉学）	地 域 福 祉 論
講 師	井 上 健 朗	修 士（福祉社会学）	医 療 福 祉 論
講 師	河 内 康 文	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
講 師	遠 山 真 世	博 士（社会福祉学）	障 害 者 福 祉 論
講 師	鳩 間 亜 紀 子	博 士（社会福祉学）	高 齢 者 福 祉 論
講 師	福 間 隆 康	博 士（マネジメント）	社 会 福 祉 運 営 論
講 師	三 好 弥 生	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論

教育研究活動報告書（教員一覧）

助 教	※稲垣 佳代	修 士（社会福祉学）	精神保健福祉援助技術論
助 教	上田 恵理子	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
助 教	片岡 妙子	修 士（看 護 学）	介 護 福 祉 論
助 教	加藤 由衣	博 士（福祉社会学）	社会福祉援助技術論
助 教	鈴木 裕介	博 士（社会福祉学）	医 療 福 祉 論
助 教	田中 眞希	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
助 教	二本柳 覚	修 士（福祉マネジメント）	精神科リハビリテーション学
助 教	橋本 力	博 士（学 術）	高 齢 者 福 祉 論

※ 林美朗は休職中

※ 稲垣佳代は育児休暇中

杉原 俊二

Shunji SUGIHARA

○ 研究活動

（原著）※査読有り（1件）

杉原俊二「テーマ分析をきっかけとしてセルフケアをおこなった母親－『虐待リスク』を抱える保護者支援法の一事例－」『K J 法学会会報 積乱雲』105, 4-7. (2017年2月)

（研究ノート、事例報告など）（12件）

（1）研究ノート

1. 杉原俊二「自分の再構築のための自分史（7）－修士時代（後篇）－」『人間科学』62, 2-7. (2016年5月)
2. 杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（Ⅱ）－博士号取得と私立大学での非常勤講師－」『人間科学』62, 8-13. (2016年5月)
3. 杉原俊二「自分の再構築のための自分史（8）－心理カウンセラー時代（前篇）－」『人間科学』63, 2-7. (2016年7月)
4. 杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（Ⅲ）－職位と結婚－」『人間科学』63, 8-13. (2016年7月)
5. 杉原俊二「自分の再構築のための自分史（9）－心理カウンセラー時代（後篇）－」『人間科学』64, 2-7. (2016年9月)
6. 杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（Ⅳ）－Tさんの年表を通しての語り－」『人間科学』64, 8-13. (2016年9月)
7. 杉原俊二「自分の再構築のための自分史（10）－専門学校講師時代（前篇）－」『人間科学』65, 2-7. (2016年11月)
8. 杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（Ⅴ）－Sさんの年表を通しての語り－」『人間科学』65, 8-13. (2016年11月)
9. 杉原俊二「自分の再構築のための自分史（11）－専門学校講師時代（後篇）－」『人間科学』66, 2-7. (2017年1月)
10. 杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（Ⅵ）－Sさんの修士修了1年目－」『人間科学』66, 8-13. (2017年1月)
11. 杉原俊二「自分の再構築のための自分史（12）－その後の話－」『人間科学』67, 2-7. (2017年3月)
12. 杉原俊二「友人を通して語る自分史の展開（Ⅶ）－Sさんの修士修了2年目－」『人間科学』67, 8-13. (2017年3月)

（2）学会発表等（8件）

1. 杉原俊二「『虐待リスク』を抱える保護者支援法（4）－子どもを骨折させてしまった母親のテーマ分析－」第40回K J法経験交流会（川喜田研究所）2016年5月15日

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

2. 杉原俊二「『虐待リスク』を抱える保護者支援法（3）－事例を通しての検討（その2）－」
日本家族研究・家族療法学会第33回長崎大会（ハウステンボス）2016年9月17日
3. 杉原俊二「『虐待リスク』を抱える保護者支援法（5）－テーマ分析をきっかけとしてセルフケアをおこなった母親－」第39回KJ法学会（川喜田研究所）2016年10月16日
4. 杉原俊二「『虐待リスク』を抱える保護者支援法の洗練化－テーマ分析を使用した簡便な方法の模索－」（呈示発表）第39回KJ法学会（川喜田研究所）2016年10月16日
5. 杉原俊二「セルフケアを高める自分史分析」（シンポジウム2『自分史の活用法』）自分史研究会第3回学術大会（玉川大学）2016年12月24日
6. 杉原俊二「自分史分析と雑談療法の関連（3）－軍事研究者と愛好家5人のオフ会を通して－」（呈示発表）自分史研究会第3回学術大会（玉川大学）2016年12月24日
7. 杉原俊二「雑談療法序説」（シンポジウム『これからの人間科学とは何か』）日本人間科学研究会第11回学術大会（聖学院大学）2017年1月8日
8. 杉原俊二「自分史分析（4テーマ分析法）の進め方（4）－支援者としての自己再構築のために（その2）－」（呈示発表）日本人間科学研究会第11回学術大会（聖学院大学）2017年1月8日

○教育活動

- (1) 学部：「発達と老化の理解Ⅰ」（2年生）「相談援助実習指導Ⅲ」（3年生）「相談援助実習」「相談援助演習（事後実習）」（3年生）「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」「福祉研究演習Ⅲ」（4年生7名、3年生5名）「スーパービジョン」（4年生履修者なし）
- (2) 大学院 人間生活学研究科（博士前期課程）：「児童福祉論」「児童福祉演習」「課題研究演習」（主指導2名、うち学位取得1名）「データ解析論（7コマ分）」
- (3) 大学院 人間生活学研究科（博士後期課程）：「児童・家族福祉学」「障害者福祉学（30コマ中15コマ分）」「社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ」（主指導2名、副指導2名）

○委員会活動

(1) 全学

「人間生活学研究科長」（部局長会議、教育研究審議会、大学院入試実施委員会、自己点検・評価運営委員会、非常勤講師審査委員会、人事委員会、入学試験委員会、発明委員会、研究倫理審査委員会、大学院研究助成金審査委員会、奨学金返済免除学内選考委員会）

「紀要委員長」「動物実験委員」

(2) 学部

「人事関係検討会委員」「自己点検委員」「紀要委員」

○社会的活動

(1) 社会活動

高知県教育委員会 スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー、高知県教育委員会
高知県いじめ問題調査委員

(2) 学会など

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

日本人間科学研究会 常務理事、K J 法学会 運営委員・編集委員、日本社会福祉学会中国四国地域ブロック運営委員（監事）、所属学会などの学会誌編集協力（査読者）

（3）講演など

1. 香美市教育委員会スクールソーシャルワーカー研修（単独事業）（7月8日、11月11日各3時間）。香美市教育研究所
2. 平成28年度地域型保育事業人材育成研修会（認定研修）「子ども家庭福祉（社会福祉関連）」「子ども家庭福祉（児童福祉関連）」（8月21日：各2時間）、「子どもの安全と環境（養護原理関連）」（8月28日：4時間）。本学
3. 平成28年度高知県児童福祉司講習会「児童福祉論Ⅰ」（8月22日）「児童福祉論Ⅱ」（9月6日）各3時間。本学
4. 平成28年度児童虐待に関する研修（高知県教育センター）9月11日3時間（うち2時間講演・演習担当）。高知県教育センター分館

総合評価と課題

人間生活学研究科長の3年目となり、その役職に関する業務が次々と増えていった。特に、3Pの改正、認証評価の結果を受けての博士前期課程、博士後期課程でのカリキュラムの改正と、それに伴う大学院の教員審査をおこなった。また、大学院の授業も多く、学部の仕事に手が回らないことも多かった。学部や大学院の多くの先生や職員の方に助けられて、何とか3年目を終えることができた。

教育に関しては赴任8年目になり、第十六期生を卒業させることができた。授業では、2つの新科目を担当することになったが、その準備でいろいろと勉強になった。講義科目については1回ごとのレジュメの配布や、受講生同士（2～4名）討論を入れるなど、昨年度導入した授業の方法を継続した。また、例年通り学生の意見聴取に務めた。実習も事前・事後指導を含めて無事に終わった。ゼミでは、例年通り全体ゼミ（3、4年）に3年ゼミ（講読）と4年個別指導を組み合わせておこなった。会議の時間と回数が多いため、そのしわ寄せがゼミ学生に及んだことは否めず、卒論や就職指導の時間はなんとか確保できたが、十分とは言えない。4年生7名中、3名が公務員・精神科病院・児童福祉施設といった福祉職、4名が一般企業と自分たちが志望していた就職できたことが幸いである。

研究に関しては、昨年度から科学研究費補助金基盤研究（C）「4テーマ分析法を用いた児童虐待防止への支援－『虐待リスク』を抱える保護者支援法－」が採択され研究を続けた。今年度は最終年度であり、昨年度の積み残しも含めて調査を実施し、学会などでの発表もできた。できれば、原著論文として投稿したい。

委員会等については、研究科長の業務として全学委員会への参加が増えた。その分、学部での負担は減らしてもらっていたが、それでも週単位で見れば学期期間中も授業の時間よりも会議の時間が多いということも時々あった。学部の紀要委員としては、これまでの最大である13編の論文を掲載することができた。特に、大学院生と修了生が4編あり、今後もこのように社会福祉学領域の大学院生・修了生の論文が掲載されることを望む。また、査読委員として学部の方にはご活躍いただいた。

大学院の教育として、博士前期課程2名、博士後期課程3名の学生を指導していた。ゼミ以外

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

の授業も 90 分授業を博士後期課程で 45 回分、博士前期課程で 37 回分おこなった。特に後期は、土・日曜日がつぶれることも多く、科研費の調査もおこなうとほとんど休みがとれなかった。

社会的な活動については、地域貢献として高知県教育委員会の「スクールソーシャルワーカー」のスーパーバイザー（各種研修会の講師、東部ブロックのスーパービジョン）をおこなった。また、いじめ問題調査委員にもなり会議に出席した。さらに難病連から「ピアカウンセリング」のスーパービジョンも担当した。学会では、これまでの活動に加えて日本社会福祉学会中国四国部会の委員（監査）となった。大学内での仕事は多いが、それでも、できるだけ地域への貢献をしたいと考えている。

学会等の活動では、ここ数年、所属学会だけでなく、他の学会（研究会）からも研究論文の査読や講演依頼が来るようになった。研究に関する後進の育成・指導といった仕事も、ここ数年増えてきている。特に、今年度も他大学の博士論文審査に加わることができた。これらの経験が、教育や研究に反映できればと考えている。

研究科長は、あと 1 年間である。多くの方々のご助力をお願いします。

田 中 き よ む

Kiyomu TANAKA

○ 研究活動

（１）研究報告

- ・ 田中きよむ・霜田博史「被災地域における地域共生拠点と地域づくり ―東日本地域における取り組みを事例として―」『高知論叢』第113号、2017年3月（87～124頁）
- ・ 田中きよむ「自治型総合的地域づくりの要因と課題 ―愛媛県内子町と高知県梶原町の事例から―」『ふまにすむす』第28号、2017年3月（18～31頁）
- ・ 田中きよむ「高知県内集落活動センターを拠点とする域学共生事業の可能性（２） ―「小さな拠点」を軸とする地域と学生の共生―」『高知県立大学地域連携事業報告集』第3号、2017年3月（13～28頁）
- ・ 田中きよむ・渡邊美保・川本美香・和田亜夕美「中山間地域における生活様式の変容と住みよい地域づくり―地域の高齢者を対象とした介護予防事業の支援―」『高知県立大学地域連携事業報告集』第3号、2017年3月（35～42頁）
- ・ Tanaka, Kiyomu「北欧型福祉システムとヨーロッパ・アジア型福祉システムの比較検討（韓国語表記）」Korean Association of Social Policy 2016（韓国社会政策学会誌3～47頁）
- ・ 田中きよむ監修「精神障害者の地域移行を巡る阻害要因調査―居住支援2 に関する関係者意識」高知県社会福祉士会・高知県精神保健福祉士協会・高知県精神障害者家族連合会・特定非営利活動法人あまやどり高知作成、2017年3月（全56頁）

（２）学会報告

- ・ 田中きよむ「小さな拠点を軸とする地域づくりと地域共生の可能性―限界集落の地域再生と東日本地域の復興―」第61回四国財政学会（香川大学経済学部交友会館）2016年5月
- ・ 田中きよむ「北欧型福祉システムとヨーロッパ・アジア型福祉システムの比較検討」韓国社会政策学会（韓林大学）2016年5月
- ・ 田中きよむ「介護保険サービスの利用動向と意識―高知県の場合―」第62回四国財政学会（香川大学経済学部交友会館）2016年12月
- ・ 田中きよむ「被災地域における地域共生拠点と地域づくり ―東日本地域における取り組みを事例として―」（社会政策学会中四国部会）2017年3月

（３）研究助成（研究代表者）

- ・ 「『小さな拠点』を軸とする共生型地域づくり―その形成要因の分析と持続モデルの構築―」（文部科学省科学研究費基盤研究（C）一般：平成27～29年度）

○ 教育活動

（１）学部

（専門教育）

1. 社会保障論Ⅰ・Ⅱ
2. 福祉行財政と福祉計画
3. 公的扶助論
4. 権利擁護と成年後見制度
5. 福祉NPO論
6. 社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ
7. 福祉研究演習Ⅲ
8. 社会保障と看護

（共通教育）

1. 社会保障と生活
2. 地域学概論

(2) 大学院

(修士課程)

1. 福祉行財政論 2. 社会保障論 3. 社会福祉課題研究演習

○委員会活動

- ・(学部) 教務委員会委員、社会福祉研究倫理審査委員会委員、人事委員会委員、社会福祉研究倫理審査委員会委員
- ・(全学) 入試監査委員会委員長(学部入試)、入試監査委員会委員長(大学院入試)、地域教育研究センター地域課題研究部会部会長
- ・(大学院) 学位審査委員会委員

○社会的活動

(委員等)

- ・高知県運営適正化委員会委員
- ・高知市社会福祉審議会委員長、同審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・県内市町村地域福祉(活動)計画アドバイザー・策定委員
- ・高知県介護ケア研究会会長
- ・全国障害者問題研究会高知支部長
- ・高知県社会保障推進協議会会長
- ・高知県保育運動連絡会会長
- ・「ホームレス支援助と貧困問題を考えるこうちの会」代表
- ・高知県地域年金事業運営調整会議委員長
- ・高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員
- ・高知市生活困窮者支援運営委員会委員、セーフティネット連絡会委員
- ・高知市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員
- ・社会福祉法人来島会身体拘束ゼロ委員会委員
- ・社会福祉法人 高知福祉会・すずめ福祉会・ファミリーユ高知 各第三者委員

(講演等)

- ・佐川町保健福祉課主催講演「障害者の権利保障と海外の福祉事情」(2016年5月)
- ・田村子どもクリニック主催講演「子どもの貧困と社会保障・地域福祉」(2016年6月)
- ・四万十町地域福祉活動計画推進委員会アドバイザー(2016年6月)
- ・梶原町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員(2016年6月・2017年2月)
- ・高知県母親大会分科会助言者「障がいのある子どもや人々の暮らし」(2016年7月)
- ・土佐市福祉事務所主催講演「住んでよかった、住んでみたい地域づくりー地域と大学の域学共生の可能性ー」(2016年7月)
- ・全国小さくても輝く自治体フォーラム・シンポジウム「住民が生き生きと暮らせる地域づくり」コーディネーター(2016年7月)
- ・高知自治研究センター主催シンポジウム「介護保険15年 高齢者の生活の現状と課題」基調講演・コーディネーター(2016年7月)
- ・全国障害者問題研究会分科会助言者「就労施設等での支援」(2016年8月)
- ・こうちネットホップ主催シンポジウム「困窮者支援に挑むー社協の挑戦ー」コーディネーター(2016年8月)
- ・津野町「支え合って楽しく暮らせる郷地区に向かってー地域と大学の域学共生の可能

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- 性一」ワークショップ①②③ファシリテーター（2016年8月・12月、2017年1月）
- ・北川村地域福祉（活動）計画アドバイザー（2016年8月）
- ・佐川町自立支援協議会・要保護児童対策地域協議会合同研修助言者（2016年8月）
- ・土佐清水市地域福祉（活動）計画アドバイザー（2016年8月～2017年1月）
- ・高知県立大学創基 70 周年記念事業社会福祉学部公開講座「福祉でくらしの安心を繋ぐ・支える—生活者の視点からみた老齢年金障害年金制度の課題」コーディネーター、報告「生活者の視点からみたわが国の老齢年金の現状と課題」（2016年9月）
- ・高次脳機能障害研修〔南国市〕助言者（2016年9月）
- ・中央社会保障学校 貧困問題シンポジウム報告・コーディネーター（2016年10月）
- ・高知市一宮地区「住民どうし支えあいまちづくりフォーラム」コーディネーター（2016年10月）
- ・日本脳外傷友の会全国大会研修コーディネーター（2016年10月）
- ・四万十診療圏ブロック会議主催講演「地域の生活課題と支えあい」（2016年10月）
- ・社会政策学会「医療」分科会座長（2016年10月）
- ・四国ブロック保育運動連絡会研修講師「貧困の多様化と社会保障制度・保育所制度改革」（2016年10月）
- ・高知県経営協主催研修講師「社会福祉法人の公益的な取組のあり方について」（2016年10月）
- ・奨学金問題講演会講演「子どもの貧困と制度的課題・地域課題」（2016年10月）
- ・香美市医療生活協同組合主催講演「これからの医療・介護と安心できる地域づくり」およびシンポジウム・コーディネーター（2016年11月）
- ・佐川町保健福祉大会アドバイザー（2016年11月）
- ・高知県社会福祉大会シンポジウム「子どもの貧困」コーディネーター（2016年11月）
- ・いの町社会福祉協議会主催講演「限界集落の生活と地域づくり」（2016年11月）
- ・働く女性の中央集会「社会保障・くらし」分科会講師（2016年11月）
- ・高知県教職員組合事務部門主催研修講師「高知県における貧困の多様化と広がり」（2016年12月）
- ・香南市社会福祉協議会生活困窮者支援研修助言者（2016年12月）
- ・奈半利町平松地区地域支えあいマップづくりコーディネーター（2016年12月）
- ・地域教育研究センター生涯学習部会・地域課題研究部会共催地域活性化フォーラム「小さな拠点と高知型地域づくり—集落活動センター・あったかふれあいセンター・域学共生—」コーディネーター（2016年12月）
- ・佐川町佐川地区講演「小さな拠点を軸とする夢あふれる地域づくり」（2016年12月）
- ・佐川町加茂地区地域活性化計画ワークショップ①②③ファシリテーター（2017年1月・12月、2017年1月）
- ・四国移動サービスネットワーク主催講演「住民の支えあいと住民主体のまちづくり」（2017年1月）
- ・中四国身体障害者施設協議会主催講演「障害のある人の福祉と福祉システム」（2017年2月）
- ・ワーカーズコープ「全国よい仕事研究交流集会」分科会助言者（2017年2月）
- ・基礎経済科学研究所春季研究交流集会共通セッション「『地方創生』と地域の課題—高知の取り組みにみる—」コメンテーター（2017年3月）
- ・大月町地域活動実践発表交流会コーディネーター・講演「支えあい、つながりあう共生型地域づくり」（2017年3月）
- ・住環境サミット分科会報告「『小さな拠点』を軸とする地域と大学の『域学共生』」

（2017年3月）

- ・ ワーカーズコープ中四国フォーラム「『共に生きる・共に働く』市民が創るまちづくり」鼎談者およびグループワークファシリテーター（2017年3月）

○総合評価と課題

- ・ 研究面では、県内中山間地域や東日本被災地域の共生型福祉システム・地域づくりに関する研究をとりまとめた。2017年度は、これまでの集落活動センターやあったかふれあいセンターなどの「小さな拠点」を軸とする地域福祉・地域づくりに焦点をあて共同研究をとりまとめる必要がある。
- ・ 教育面では、講義に関しては、社会保障論や公的扶助論、福祉行財政・計画など、国家資格試験関連授業ということもあるせいか、学生の受講態度はまじめである。

2016年度は権利擁護・後見制度論も加わったが、時間配分が予定通りにはいかず、後半で十分な時間が確保できなかったことが反省点である。ただ、それらの科目に関する基礎知識や理解力は、学期末試験の成績評価による限り十分とは言えず（とくに低学年）、わかりやすい授業内容に向けた一層の工夫が必要であると考えている。ただ、丁寧に進めすぎると、時間が足りなくなるというディレンマに直面しがちである。福祉 NPO 論も 2016 年度から、2 人で担当することになったが、後半の自分の担当部分は実践編のオムニバス講義とグループワークであるが、関心・反応は良かったと受け止めている。前半の理論的部分と合わせて成績も平均的に高かった。資格関連授業のように選択式試験内容より取り組みやすいのではないかと、という印象を受けた。

共通教育科目や他学部専門科目に関しては、受講ニーズや関心を十分に把握し切れていない面もあり、その把握をふまえた授業改善が必要であると考えている。また、授業内容に関して重複的に話さざるをえなくなっている面もあり、その面での改善も検討課題となっている。

専門演習に関しては、ゼミ生は主として地域福祉研究に関心をもっており、実態調査に基づき理論化してゆく調査研究能力と地域の現実問題に答えられる課題解決能力が身につけられるように配慮した指導を心がけている。文献研究の基本を身につけつつも、様々な地域福祉領域の中で自分の問題関心を焦点化させて深め、卒論作成ができるような指導を心がけてきた。2016年度のゼミ4回生は共同研究ではなく個別研究を希望していることから、個別指導を心がけながらも、学生相互間で方法面など共有化、協力できるような面にも配慮していきたい。3回生もフレッシュで前向きな態度で臨んでくれており、今後を期待しつつ、知的関心が深まっていくよう具体的な地域や現場と切り結びつけた調査研究のおもしろさを感じ取れるような配慮を心がけたい。

- ・ 社会的活動は、今年度も地域福祉・地域づくりや社会保障・社会福祉・に関連して、自治体、社会福祉協議会、住民組織、非営利組織等との協力関係を持たせていただいた。それに合わせて、学生にも、地域との接点を持ち住民の現実の生活課題を学びつつも、地域の固有価値を実感してもらえるような関係づくりを意識的に進めた。今後、地域と大学の「域学共生」を進める教育体系の進展、地域教育研究センター地域課題研究部会のプロジェクト、学生による主体的な「立志社中」等の地域活動、自治体と大学の包括協定も視野に入れながら、学生と共に積極的な地域アプローチを進め、持続的な地域福祉・地域づくりの形成に研究・教育・実践面から寄与していきたい。

長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

○研究活動

（１）論文（１件）

- ・ 長澤 紀美子「イギリスにおけるケアの市場化の展開－準市場における構造に着目して－」『高知県立大学社会福祉学部紀要』第 66 巻,p1-11.2017.3

（２）学会発表（３件）

- ・ 長澤 紀美子 「イギリスと日本における 介護サービスの疑似市場の検討 -New Public Management 論をもとに-」 韓国社会政策学会（翰林大学、韓国江原春川市）2016.5.27
- ・ 長澤 紀美子「イギリスにおける 社会的ケアの市場化－準市場の構造に焦点を当てて－」社会政策学会第 133 回大会 テーマ別分科会③「ケアの市場化と公共圏の再編」（同志社大学、京都）2016.10.16
- ・ Kimiko Nagasawa, The Development of the Marketization of Elderly Care in England and Japan; the Structure and the Impacts of the Quasi-Market Mechanism, The 4th International Conference on Social Policy and Governance Innovation, 香港 The Education University of Hong Kong (11/24) Lingnan University (11/25) 2016.11.25

（３）競争的資金等の獲得状況（２件）

- ・ 科学研究費補助金 基盤（C）（課題番号：26502010）「ケイパビリティ概念に基づく認知症高齢者ケアのアウトカム評価尺度の開発」（平成 26 年度～平成 28 年度）（研究代表者）
- ・ 科学研究費補助金 基盤（B）（課題番号：15H03427）「福祉・介護サービスの市場化とガバナンスの変容に関する国際比較研究」（平成 27 年度～平成 30 年度）（研究代表者：お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科 平岡公一教授）分担研究者

○教育活動

（１）学部

「現代社会と福祉Ⅰ」「現代社会と福祉Ⅱ」「国際福祉論」「女性福祉論」
「相談援助実習指導」「相談援助実習」「相談援助演習」「相談援助演習Ⅱ」
卒業研究指導：「社会福祉専門演習Ⅰ」「社会福祉専門演習Ⅱ」（受講者 6 名）
「福祉研究演習Ⅲ」受講者 3 名

○サークル顧問：いけとべ！、中国語サークル

（２）大学院人間生活学研究科（博士前期課程）

- ・「研究方法論Ⅱ」（オムニバス）／「国際福祉論」「課題研究演習」
- ・研究指導：正指導教員として M2 生 1 名、副指導教員として 2 名（M1 生 1 名、M2 生 1 名）を担当した。

（３）大学院人間生活学研究科（博士後期課程）

- ・研究指導：副指導教員として 2 名（D3 生 2 名）を担当した。

○委員会活動

【全学】（社会福祉学部選出）国際交流センター運営委員 FD 委員
全学防災プロジェクト委員

高知県立大学創基 70 周年記念事業委員、(同) 創基 70 周年記念誌専門委員会委員

【学部】社会福祉研究倫理審査委員，防災WG 学部委員、入試広報委員

【大学院】（人間生活学研究科博士後期課程）入試実施委員

○社会的活動

（1）委員等

高知市行政改革推進委員／高知市介護保険施設等整備事業者審査委員

高知県社会福祉協議会地域密着型サービス外部評価事業評価審査委員

第3次高知県DV被害者支援計画策定委員会

佐川町公文書開示審査会

（2）学会

社会政策学会春季企画委員(保健医療福祉部会選出)

（3）講演等（以下，2017年）

2/4 チャイルドライン（子ども向け電話相談者研修会）「性の多様性について」

2/9 高知市教育委員会「多様な性のあり方を知る」（中高生対象）高知市一宮児童館

3/4 「ソーシャル・アライ・コナツハット キックオフイベント）「多様な性のありよう(SOGI)-」

○総合評価と今後の課題

1. 教育活動について

- ・学部の授業では、毎回リアクション・ペーパーを配布し、次週に学生のコメントを整理して提示し、フィードバックを行っている。一部の授業には、SPOD 研修で学んだ「ジグソー学習法」を導入し、学生の理解度や満足度の向上がみられた。学生の自主的な取り組みを促進する授業に向けて、より工夫を重ねたい。／大学院修士課程の「研究方法論Ⅱ」において、図書館データベースを活用した英文論文の検索・読解を指導した。

2. 研究活動について

- ・科研費の分担研究のグループで学会分科会を開催し、報告した。また成果を国際学会にて英文で報告した。

3. 学内業務について

- ・全学国際交流センター運営委員としてタイのウボンラーチャターニー大学と本学との協定(MOU)締結を行った。また副学長、看護学部長、国際交流センター長らと共に韓国国立木浦大学を訪問、社会福祉学部について報告した（英文）。
- ・学部懇談会の場を活用し、研究・教育面の学部 FD 研修会を年 4 回実施した。

4. 社会貢献について

- ・LGBT 支援団体「ソーシャルアライ・コナツハット（通称サワチ）」を本学及び高知大学の学生、保健医療福祉専門職、当事者らと共に立ち上げ、3 月に永国寺キャンパスにて設立記念イベントを開催した。その際には高知県知事より挨拶（代読）を頂き、県を含め様々な関連団体より後援・参加を頂いた。以降、ソーレ、県男女共同参画課、県少子対策課等と連携しつつ啓発・支援活動を行っている。

丸山 裕子

Hiroko MARUYAMA

○研究活動

- 1 研究会参加
エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加
- 2 論文等
なし
- 3 競争的資金の獲得
科学研究費補助金（基盤研究（B）、課題番号 15H03431、平成 27-30 年度）
研究代表者：丸山 裕子
研究課題名「ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程
支援モデルの研究」

○教育活動

（学部）

- ・福祉研究法入門
- ・精神保健援助技術総論
- ・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱ
- ・精神保健福祉援助演習

○委員会活動

- 1 学部
 - ・社会福祉実習委員長
 - ・社会福祉研究倫理審査会委員長
 - ・学生委員（第 16 期生学年担当）
 - ・就職委員長
- 2 大学院
 - ・人権委員

○社会的活動

高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー

○総合評価及び今後の課題

着任 3 年めとなる本年度は、新学期早々、体調不良から思いがけない病気が発見され、

教育研究活動報告書（丸山 裕子）

家族の住む札幌において入院・手術・療養が必要であることがわかった。5月半ばの検査入院以降、札幌での病院探しと手術に向けた各種検査などが最優先となった。そのため、前期は、ほとんど休職に等しい状況とならざる得なかった。幸いにも9月には職場復帰することができたが、体力の回復が十分ではなく前述した担当授業と4回生の学年担当等の最低限の役割を果たすのみで精一杯の年度となった。

演習・実習指導に限らず、授業においては、学生の実習体験を素材にしたグループ学習やDVDなどの視覚教材の活用など、わかりやすい授業というよりは「学生が参加し、主体的に考えてもらうための素材を提供する授業」を基本姿勢としているつもりである。

研究活動については、病気治療と回復が最優先の1年であり、昨年度に続き、足踏み状態である。

一昨年度採択になった科学研究費補助金（基盤B）「ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」については、昨年度、ツール作成に関して思いがけない事態が発生し、繰越し申請を行った。ようやく、次に進めるめどが立った時点で、研究代表者の病気がわかり、再度中断を余儀なくされた。科研費（基盤B）が補助金となってから、前例のない2度の繰越し申請を行うこととなり、大学事務を通しての文科省や財務省との再三にわたるやりとりに時間と労力を要した。

また、精神・社会福祉コースの教育カリキュラムの検討を進める中で、教育過程へのピアの視点の導入について多様な方法の開発と体系化について着想を得、科研費を申請した。

いずれの研究も教育と密接に結びついた内容であり、次年度は教育活動とともに研究活動にも、力を傾注したい。

宮上 多加子

Takako MIYAUE

○研究活動

（1）論文

- ・河内康文・宮上多加子・田中眞希(2016)介護福祉士としての職業経験と仕事の信念—経験学習論に基づく分析—『介護福祉教育』41, 46-55.
- ・田中眞希・宮上多加子(2017)准看護師のキャリアと仕事及びケアに関する認識—福祉・医療現場で働く准看護師への調査を通して—『高知県立大学紀要社会福祉学部編』66, 37-50.
- ・宮上多加子・田中眞希(2017)看護専門課程で学ぶ学生の経験学習と仕事の信念に関する質的研究『日本看護福祉学会誌』21(2), 67-80.

（2）学会発表

- ・上田恵理子・宮上多加子・荒川泰士：訪問介護事業所における KOMI ケア理論及び記録システムの活用のある方—職員へのアンケート調査の分析から—, ナイチンゲール KOMI ケア学会集会（東京）, 2016年6月.
- ・田中眞希・宮上多加子・河内康文：准看護師のキャリアと仕事及びケアに関する認識—福祉・医療現場で働く准看護師への調査を通して—, 第24回日本介護福祉学会(長野), 2016年9月.
- ・田中眞希・宮上多加子・河内康文：社会人学生の学びを支援する教員の意識—介護福祉士, 准看護師, 保育士の比較—, 第23回日本介護福祉教育学会(金沢), 2017年2月.

○教育活動

[学部]

（1）「介護過程Ⅰ」

介護福祉コース1回生（後期）の授業を担当した。ナイチンゲールの看護思想に基づく「KOMI ケア理論」の基礎と、事例を用いた介護過程の概要について講義した。教材は、介護福祉コース教員と学生が協同で制作したイラスト入り事例を用いた。

（2）「認知症の理解Ⅰ・Ⅱ」「発達と老化の理解Ⅱ」

「認知症の理解」は、2013年度に担当して以来久しぶりの講義であったが、オムニバスでの担当や新しいサブテキストの使用、「往復記録」の活用等、講義内容と方法を工夫して行った。

（3）「精神保健学Ⅰ」

精神福祉コースの授業であるが、母子および高齢者の精神保健に関する内容について、オムニバスで4コマ担当した。

（4）「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」「福祉研究演習Ⅲ」

3回生のゼミ生は2名（うち留学生1名）、4回生のゼミ生は7名であった。卒業研究は、共同研究2編を含めて5編となった。ゼミの活動内容については、例年通りゼミ記録として冊子にまとめた。介護コース3回生の実習を2月中旬から実施するようになり、3年次から4年次への移行時期にゼミ活動を行う時間的余裕がなくなった点について、今後は工夫が必要である。

教育研究活動報告書（宮上 多加子）

[大学院（人間生活学研究科博士前期課程）]

(1) 「介護福祉論」

介護福祉に関係した理論を解説した後、認知症介護と終末期介護について取り上げ、現状および研究動向について検討した。

(2) 論文指導

正指導教員としてM2生2名、副指導教員としてM2生1名を担当した。研究を進めるためのディスカッションの場として、大学院ゼミを毎月1～2回継続的に開催した。

[大学院（博士後期課程）]

(1) 論文指導

正指導教員として院生3名、副指導教員として院生4名を担当した。正指導教員として担当した院生2名が修了した。

○委員会活動

[全学]

社会福祉学部長（部局長会議／教育研究審議会／入学試験委員会／研究倫理委員会／自己点検評価運営委員会／非常勤講師審査委員会／発明委員会）

[学部]

学部総務・予算委員会／学部人事関係検討会／自己点検評価委員会

[大学院（人間生活学研究科博士後期課程）]

学務委員

○社会的活動

高知市民生委員推薦会委員／高知県福祉活動支援基金運営委員会委員

日常生活自立支援事業契約締結審査会委員（委員長）／高知県社会福祉審議会委員

高知県医療提供体制推進事業等評価委員会委員

○総合評価と今後の課題

(1) 教育活動

学部ゼミ生7人の卒業研究、大学院博士前期課程院生2人の修士論文、大学院博士後期課程院生2人の博士論文が完成し、それぞれ卒業・修了を迎えたことが指導者としても大きな喜びである。

(2) 研究活動

科学研究費補助金(基盤(C))「人をケアする準専門職の経験による学びと『仕事の信念』に関する研究」(研究期間：平成26～28年度)に取り組んだ。平成28年度は、昨年度の研究成果を公表するとともに、保育士養成校において社会人学生への聞き取り調査を実施した。介護福祉分野での人材養成について、研究の継続と新たな展開を検討していきたい。

(3) 学内業務

学部長3年目として、従前からの課題であった学部入試広報に関しては、県内高等学校への訪問を継続して実施するとともに、県の地域医療介護総合確保基金事業に提案し補助金がついた「高知県キャリア教育推進事業」を実施した。県内からの受験者数は昨年度よりも増加した一方、県外からの受験者数が減少しており、次年度以降の課題である。

教員体制に関しては、「学部基礎」に位置づくりハビリテーション分野の教授1名の就任が決定した。3月末で退職する助教2名の後任について、早急に対応する必要がある。

鈴木 孝典

Takanori SUZUKI

○研究活動

（1）学術論文

- ・岩崎香、鈴木孝典、大谷京子、松本すみ子、大塚淳子、石川到覚「医療機関に勤務する精神保健福祉士の現状と多職種連携における課題」『精神保健福祉学』vol.4、No.1、2016.10、pp.4-18.

（2）著書

- ・坂本智代枝、鈴木孝典「精神保健福祉士養成課程の展開と評価」日本精神保健福祉士養成校協会 編『精神保健福祉士の養成教育論・その展開と未来』中央法規出版、2016.11、pp.43-57.
- ・鈴木孝典「相談援助にかかわる行政組織と民間組織」日本精神保健福祉士養成校協会 編『新・精神保健福祉士養成講座 6 精神保健福祉に関する制度とサービス（第5版）』中央法規出版、2017.2、pp.227-231

（3）学会発表等

- ・なし

（4）競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（基盤(C)、課題番号:16K04169、平成28年度-30年度）
研究代表者：鈴木孝典
研究課題名：「内科的管理を要する疾患をもつ高齢精神障害者のセルフケア機能評価支援ツールの開発」

○教育活動

（1）講義

[学部]

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 「精神保健福祉論Ⅰ」 | 8. 「精神保健福祉援助実習Ⅰ」 |
| 2. 「精神保健福祉論Ⅱ」 | 9. 「精神保健福祉援助実習Ⅱ」 |
| 3. 「精神保健学Ⅰ」 | 10. 「精神科リハビリテーション学」 |
| 4. 「精神保健学Ⅱ」 | 11. 「社会福祉専門演習Ⅰ」 |
| 5. 「精神保健福祉援助演習」 | 12. 「社会福祉専門演習Ⅱ」 |
| 6. 「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」 | 13. 「福祉研究演習Ⅲ」 |
| 7. 「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」 | |

[大学院]

1. 「研究方法論Ⅱ」
2. 「精神保健福祉論」

（2）講義以外

- ・実習支援
精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱの配属実習に備えて、実習の動機、課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。

○委員会活動等

（1）学部

1. 精神・社会福祉コース主担当
2. 実習委員
3. 入試委員
4. 入試広報部会主担当

（2）大学院

1. 人間生活学研究科前期課程学務委員

（3）全学

1. 学部入試実施委員（副委員長）
2. 高大接続連携を軸とする大学改革プロジェクト委員会 委員
3. 高知県立大学・高知短期大学情報セキュリティ委員会 委員

○社会的活動

（1）委員等

1. 高知県精神保健福祉士協会 副会長（役員:2008年4月～、副会長:2014年5月～）
2. 高知県精神保健福祉士協会 新人研修委員会 委員（2008年4月～）
3. 高知県精神医療審査会 委員（2008年4月～）
4. 高知県自立支援協議会 副会長（2009年2月～、副会長 2014年7月～）
5. 高知県自立支援協議会人材育成部会 部会長（2013年9月～）
6. 高知県障害者施策推進協議会 委員（2009年4月～）
7. 高知県障害者介護給付等不服審査会 委員（2010年4月～）
8. 高知市障害者計画等推進協議会 会長（2014年11月～）
9. 高知市自立支援協議会 委員（2014年4月～）
10. 社会福祉法人土佐あけぼの会 評議員及び第三者委員（2010年4月～）
11. 社会福祉法人ファミリーユ高知 評議員（2015年4月～）
12. 高知県社会福祉協議会「退職前世代の生きがい研究」検討会 委員（2013年7月～）
13. 一般社団法人日本精神保健福祉学会 理事（2016年6月～）
14. 一般社団法人日本精神保健福祉学会 機関誌査読委員（2015年4月～）
15. 公益社団法人日本精神保健福祉士協会 機関誌査読委員（2015年4月～）
16. 高知県福祉人材センター・福祉研修センター運営委員会 委員（2015年4月～）

（2）講演等

1. 平成28年度高知県相談支援従事者研修会「障害者ケアマネジメント概論」講師（7月19日）
2. （公）日本訪問看護協会「精神障がい者の在宅看護セミナー」講師（8月27日(高知)）
3. 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 精神保健福祉士実習演習担当教員講習会（厚生労働省補助金事業）「実習分野講習会」講師（8月30日(東京)、9月6日(京都)）

（3）学外非常勤講師

1. 高知医療学院（「社会福祉学」担当）
2. 土佐リハビリテーションカレッジ（「社会福祉学概論」担当）
3. 大正大学大学院人間学研究科博士前期課程（「M データ分析法」担当）

○総合評価及び今後の課題

（1）教育活動について

今年度は、精神・社会福祉コース担当教員の休職などに伴い、専門外の教科の担当や実習巡回指導などの教育に係る業務負担が予期せぬ形で著しく増大した。その結果、担当科目に係る授業計画及び内容の吟味や巡回指導の計画的な実施などが損なわれ、結果的

教育研究活動報告書（鈴木 孝典）

に学生に提供する教育の質を十分に保つことができなかつた。次年度は、精神・社会福祉コース担当教員の適正配置を学部に求めるとともに、本来の担当科目に係る教育の質向上に努めたい。

（２）研究活動について

今年度は、新たに科学研究費補助金（基盤(C)）を獲得することができた。しかし、先述のとおり、予期せぬ業務の負担増により、十分な研究活動を展開することができなかつた。次年度は、今年度の遅れを取り戻しつつ、計画的に調査研究を進めたい。

（３）学内業務及び社会貢献活動について

入試実施委員として、昨年度に引き続き、鳩間講師、福間講師とともに、全学及び学部における入試の運営を担った。また、昨年度に引き続き、入試広報部会の主担当として、学部教員と協働しながら、高校訪問を実施し、入試広報とあわせて高校の進路指導の実態把握等に努めた。しかしながら、入試の志願状況について、昨年度と比較し、志願者数の大幅な減少が見られ、とりわけ県外高校からの志願者の減少が目立った。そのため、次年度は、今年度に引き続き、出前講座や県の基金による講座の展開に加え、県外の進学ガイダンスへの参加や県外高校の訪問など、県外での入試広報について、入試課と連携を図りながら進めたい。

つぎに、社会貢献活動では、昨年度から引き続き、高知県及び高知市の障害者計画及び障害福祉計画に係る協議会に委員の立場で参加し、障害者施策の評価に携わるとともに、障害者に係る行政計画の評価に参画した。くわえて、昨年度と同様に、高知県自立支援協議会、及び高知市自立支援協議会への参画を通して、教育と研究の両面から地域の相談支援専門員の養成及び実践力の向上に係る課題に取り組んだ。次年度は、今年度に引き続き、中央東障害保健福祉圏域における「社会資源の上手な使い方ワークショップ」に研究者の立場でバックアップするとともに、圏域を基盤とした障害福祉従事者の研修体系の構築に引き続き取り組みたい。

さらに、今年度は、昨年度に引き続き、厚生労働省の補助金事業である精神保健福祉実習演習担当教員講習会に企画委員及び講師の立場で関わり、実習演習担当教員の育成に寄与するとともに、教員を受講生とし講義を行うことで、自らの教育技能について他学の教員から評価を受ける機会を得た。次年度も引き続き、同講習会に参画し、受講生の評価を参考に、教育技能の更なる研鑽に励みたい。

○研究活動

1 著書

(図書)

- ・「高齢社会に対応した生涯学習」「厚生行政による生涯学習関連施策」香川正弘・鈴木眞理・永井健夫編『よくわかる生涯学習[改訂版]』ミネルヴァ書房、2016年5月（分担執筆、第4章5節、第6章3節を担当）。
- ・『地域福祉・介護福祉の実践知——家庭奉仕員・初期ホームヘルパーの証言』現代書館、2016年9月（単著）。
- ・『図解でわかる！地域福祉の理論と実践』小林出版、2017年3月（共編著）。（編者は中嶋 洋・竹原厚三郎、第1・2・3・5・7・9章を担当）。

(資料集)

- ・『現代日本の在宅介護福祉職成立過程資料集 第5巻——先進地域における萌芽の諸相』近現代資料刊行会、2016年8月（監修）。
- ・『現代日本の在宅介護福祉職成立過程資料集 第6巻——ホームヘルプ事業の全国展開と介護福祉専門職制度創設』近現代資料刊行会、2017年3月（監修）。
- ・『現代日本の在宅介護福祉職成立過程資料集 別冊（解説集）』近現代資料刊行会、2017年3月（監修）。

(翻訳)

- ・「社会調査法」Murry Hawtin&Janie Percy-Smith(2007) “Community Profiling ; a practical guide”, Open University, McGraw-Hill Education. (=清水隆則監訳『コミュニティ・プロファイリング——地域のニーズと資源を明らかにする方法』川島書店、2017年3月、分担執筆、付録2を担当)

2 論文

(原著論文)

- ・「ホームヘルプ事業史を支えた在宅介護職者に関するオーラルヒストリー研究——9道県の事例分析から導出された実践訓」『介護福祉学』第23巻第2号、日本介護福祉学会、2017年3月（単著）。【査読付】
- ・「ホームヘルプ事業史研究の到達点と課題」『現代日本の在宅介護福祉職成立過程資料集 別冊』近現代資料刊行会、2017年3月所収【解説文・第1編】。
- ・「ケアを歴史的にアプローチする意義」『現代日本の在宅介護福祉職成立過程資料集 別冊』近現代資料刊行会、2017年3月所収【解説文・第2編】。
- ・「資料一覧及び年表でわかる戦後日本ホームヘルプ事業史」『現代日本の在宅介護福祉職成立過程資料集 別冊』近現代資料刊行会、2017年3月所収【解説文・第3編】。

(実践報告)

- ・「高知県立大学社会福祉学部を中心とした避難所運営訓練の意義と課題」『高知県立大学社会福祉学部紀要』第66号、2017年3月（共著、共著者は上田恵理子・二本柳 覚・長澤紀美子・山村靖彦・諸澤美穂・西川愛海）。

(その他)

- ・「図書紹介 地域福祉・介護福祉の実践知——家庭奉仕員・初期ホームヘルパーの証言」『朝日新聞（東京本社版）』2016年10月4日、第1面（朝刊）。
- ・「編集後記」『福祉文化研究』第26号、2017年3月。

3 発表

（学会）

- ・「ホームヘルプ事業史を支えた在宅介護職者に関するオーラルヒストリー研究」（第24回日本介護福祉学会全国大会口頭発表、於 長野大学、2016年9月4日）（単独）
- ・「厚生事業への合流及び新生活運動の展開」（第64回日本社会福祉学会全国大会口頭発表、於 佛教大学、2016年9月11日）（単独）【歴史4部会司会者兼務】

（研究会・研修会等）

- ・平成28年度社会福祉学部内FD委員会報告「ホームヘルプ事業史研究の概要と課題」（於 高知県立大学D220教室、2016年7月11日）（単独）
- ・平成28年度第2回社会保障研究会「国民皆保険皆年金 オーラルヒストリー①：堤 修三[元厚生労働省社会保険庁長官]」参加（於 立教大学12号館2F会議室、2016年7月29日）【菅沼 隆研究チームプロジェクト】
- ・平成28年度第3回社会保障研究会「国民皆保険皆年金 オーラルヒストリー②：堤 修三[元厚生労働省社会保険庁長官]」参加（於 立教大学12号館2F会議室、2016年9月19日）【菅沼 隆研究チームプロジェクト】
- ・第40回自分史活用アドバイザー認定講座受講（2016年8月27日、於 渋谷区文化総合センター大和田2F、自分史活用アドバイザー資格取得）
- ・第46回全国福祉教育セミナー受講（2016年10月29日～30日、於 淑徳大学千葉キャンパス5号館・12号館・15号館）
- ・平成28年度社会福祉学部内FD委員会報告「第46回全国福祉教育セミナーin千葉2016参加報告」（於 高知県立大学F220教室、2016年12月12日、共同発表者は遠山真世）

4 外部獲得資金状況（科研費）

- ・「長野県社会部厚生課長としての原崎秀司の職務内容とホームヘルプ事業化との関連」（平成28年度～平成30年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金、基盤研究C、課題番号16K04179）（研究代表者）
- ・「厚生行政のオーラルヒストリー——終戦後の制度再建から介護保険の創設まで」（平成28年度～平成30年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金、基盤研究B、課題番号16H03718）（研究分担者）（研究代表者は、菅沼 隆、共同研究者は百瀬 優、森田慎二郎、中尾友紀、土田武史、山田篤裕、田中総一郎、深田耕一郎、浅井亜希、岩永理恵、新田秀樹、松本由美）

○教育活動

[共通教育科目]

現代社会論（池キャンパス・永国寺キャンパス）

[学部専門科目]

児童家庭福祉論

相談援助演習Ⅲ

相談援助演習Ⅳ

相談援助実習指導Ⅰ

相談援助実習指導Ⅱ

相談援助実習指導Ⅲ

○委員会活動

学部図書委員

教育研究活動報告書（中 嶋 洋）

学部災害対策委員

学部倫理審査委員

学部総務・予算委員

学部広報委員（介護人材確保事業部会）

健康長寿土佐市連携事業「地域ケア会議推進プロジェクト」委員

○社会的活動

[委員等]

- ・生涯教育・社会教育研究促進機構（IPSLA）編集委員会幹事（2006年～）
- ・日本介護福祉学会機関誌『介護福祉学』査読委員（2009年～）
- ・日本福祉文化学会機関誌『福祉文化研究』編集委員（2013年～）
- ・日本福祉文化学会評議員（2014年～）
- ・全日本大学開放推進機構（UEJ）理事（2014年～）
- ・日本介護福祉学会評議員（2015年～）
- ・福祉哲学研究所研究員（2016年～）
- ・平成28年度日本介護福祉学会評議員会（2016年9月3日、於 上田東急 REI ホテル）
- ・第64回日本社会福祉学会全国大会 歴史4部会司会者（2016年9月11日、全体統括は安藤和彦[京都文教短期大学]）
- ・平成28年度第1回日本福祉文化学会編集委員会（2016年9月16日、於 昭和女子大学）
- ・平成28年度第2回日本福祉文化学会編集委員会（2016年10月21日、於 昭和女子大学）
- ・第27回日本福祉文化学会全国大会実行委員（2016年10月22日、於 東京立正短期大学）
- ・平成28年度第3回日本福祉文化学会編集委員会（2017年3月22日、於 新宿）

[研修会講師・講演等]

- ・平成28年度高知県立大学公開講座（特別講座）「歴史から福祉・介護を考える——ホームヘルプ事業史とその継承」講師（於 高知県立大学池キャンパス A306 教室、2016年10月23日）
- ・平成28年度高知県立大学健康長寿体験型セミナーin 香美市「知るほど得をする食のおはなし」講師 荒牧礼子、社会福祉学部ブース「認知症自己診断テスト」担当（於 香美市立中央公民館、2016年11月26日）
- ・平成28年度高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座「家庭奉仕員・ホームヘルパーの戦後史——誕生・展開・現況」講師（於 高知県立大学池キャンパス F110 教室、2016年12月3日）
- ・平成28年度高知県立大学健康長寿体験型セミナーin 津野町「知れば怖くない認知症——体験的に学ぶ認知症の理解と予防」講師（於 津野町白石地区集落活動拠点施設「しらいしの里 憩」、2017年3月14日）
- ・日高市生涯学習まちづくり出前講座「歴史から介護問題を学ぶ」講師（2015年～）
- ・秩父まちづくり出前講座講師（2015年～）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

教育研究活動報告書（中嶋 洋）

児童家庭福祉論、相談援助実習指導、相談援助演習などを通じて、主に社会福祉士養成に尽力した。講義ではパワーポイントを用いて、視覚に訴えながら指導したが、もう少しフィードバックの時間をとり入れるべきであった。一つの問題に対し、多様な見方が可能であり、学生の感じ方も千差万別だからである。次年度からは、アイスブレイク、ディスカッション、ミニワークなどを適宜行い、学生の理解の深化に努めたい。

演習・実習指導では、小グループに分かれて、テキスト、資料、事例、新聞記事などを用い、実践的理解が深まるように配慮した。情報共有や自己主張を通じ、必要な学びが行われたと思う。演習や実習を段階的にどう積み上げていくか、各々のワークや学びのつながりにも配慮した授業を展開していきたいと考える。

次年度、20 期生（新 1 年生）の学年担当をすることになった。片岡妙子助教と協力しながら、学生たちにとって学びやすい環境づくり、切磋琢磨しあえる雰囲気づくりに努めていきたい。

2. 研究活動について

ここ 10 年間継続して行ってきたホームヘルプ事業史研究に関し、単著 1 冊、資料集 3 冊、原著論文（査読付）2 本、学会発表（口頭）2 回などの成果を挙げた。これらは【平成 28 年度～平成 30 年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金、基盤研究 C、課題番号 16K04179、研究代表者】及び【平成 28 年度～平成 30 年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金、基盤研究 B、課題番号 16H03718、研究分担者】の助成によるものである。元家庭奉仕員・ホームヘルパーなどを対象とした聞き取り調査の経験を踏まえ、質的研究の手法について洗練させていきたい。次年度も引き続き、ホームヘルプ事業の先覚者である原崎秀司の思想研究並びに全国のホームヘルプ事業史（特に地方史）の探究に努めたい。併せて、防災、地域、児童を対象にした研究にも着手していきたい。

3. 社会活動について

健康長寿委員及び広報委員（介護人材確保事業部会）として、学内で公開講座（リカレント教育講座）講師を 2 回、学外で体験型セミナー講師を 1 回務め、好評を博した。切実な地域ニーズをもつ地域住民を対象とした講座こそ、社会改変・生活向上にとって重要である。次年度も引き続き、認知症、歴史、死生観、生きがい、美しい老い方、ボランティアなどをテーマに講座運営に携わっていきたい。一方、学会関係では、日本社会福祉学会全国大会歴史 4 部会で司会者を務めたほか、日本介護福祉学会評議員・査読委員、日本福祉文化学会評議員・編集委員として委員会活動にも積極的に参加した。学会会員数の増加、投稿論文（掲載論文）の質的向上、会員相互の交流促進などのために、次年度以降も尽力していきたい。

西内 章

Akira NISHIUCHI

○ 研究活動

1. 書著

西内章(2017)「個別支援レベルでの展開」太田義弘・中村佐織・安井理夫編『高度専門職業としてのソーシャルワーカー理論・構想・方法・実践の科学的統合化』光生館, 135-139. および「資料編」の「多職種連携生活支援ツール」, 「多職種連携組織支援ツール」担当.

2. 科研費

- 1) (基盤研究(C)) 西内章『ソーシャルワークにおけるICT活用モデルの構築』
※2014～2017年度
- 2) (基盤研究(B)分担研究) 丸山裕子・西内章他『ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究』
※2015～2017年度
- 3) (基盤研究(C)・分担研究) 御前由美子・西内章他『独立型社会福祉士の特性と現状にもとづくより効果的なスーパービジョン方法の開発』
※2014～2017年度

3. 研究会

- 1) ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（大阪府立大学名誉教授、関西福祉科学大学名誉教授 太田義弘主宰）に所属し、コンピュータアセスメント支援ツールの研究開発を行った。

○ 教育活動

[共通教育科目]

- ①「専門職連携概論」
- ②「チーム形成論」

[学部専門科目]

- ①「事例研究法」
- ②「相談援助の基盤と専門職」
- ③「相談援助演習Ⅰ」
- ④「相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
- ⑤「相談援助実習」
- ⑥「社会福祉専門演習Ⅰ」
- ⑦「社会福祉専門演習Ⅱ」
- ⑧「福祉研究演習Ⅲ」

[大学院人間生活学研究科]

- ①高齢者福祉論
- ②研究方法論Ⅱ
- ③課題研究演習

大熊絵理菜「急性期病院・病棟の医療ソーシャルワーカーによる情報収集・認識の研究」について主指導を担当した。

○委員会活動

- ①学部教務委員長
- ②産官学研究部会委員
- ③自己点検評価委員
- ④入試広報部会委員
- ⑤就職委員会委員

○社会的活動

[委員等]

- ・高知県行政不服審査会委員
- ・高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- ・高知市社会福祉協議会評議員
- ・高知市成年後見サポートセンター運営委員
- ・津野町地域包括支援センター・津野町地域密着型サービス運営協議会委員
- ・市町村社会福祉協議会地域支援事例研究会アドバイザー

[研修会講師・講演等]

- ・高知市虐待予防研修会「虐待の早期発見と初期対応を学ぶ」（8月17日）
- ・2016年度高知県児童福祉司認定講習会講師「社会福祉援助技術論」、「社会福祉援助演習」担当（8月22日、8月29日）
- ・教育相談の充実（チーム学校）に向けた連絡協議会講師（高吾ブロック8月25日、幡多ブロック8月26日）
- ・高知県立大学出前講座・高知北高校「社会保障と高齢者を取り巻く社会福祉－社会保障制度の内容と支援を学ぶ－」（8月30日）
- ・平成28年度高知県キャリア教育推進事業・高校生と保護者のための公開講座「域学共生と福祉」（9月17日）
- ・高知県あったふれあいセンターテーマ別研修会「利用者理解から課題解決へ」（9月21日）
- ・高知県相談支援従事者研修講師「面接技術・対人支援技術」担当（9月26日）
- ・平成28年度総合相談・生活支援研修会「地域で展開する個別生活支援の実践」（10月5日）
- ・平成28年度高知県立大学職業実践力育成プログラム「多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座－高齢者ケア力の向上に向けて－」（10月15日、10月16日）
- ・高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座「現代社会におけるソーシャルワークの展開－保健医療福祉の政策動向と支援のあり方－」（11月13日）
- ・平成28年度全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会中四国ブロック研修会「変わるもの変わらないもの－MSWが大切にしていること－」（12月5日）
- ・平成28年度市町村社会福祉協議会地域支援事例研究会（中央東ブロック12月8日、中央西ブロック12月12日、高幡ブロック12月13日、幡多ブロック12月22日）
- ・2016年度高知県生活困窮者自立相談支援研修会講師「自立相談支援事業における支援事例について」（2月6日）
- ・日本ソーシャルワーカー協会講師「ソーシャルワークとICT－活用の現状と課題－」

文京学院大学（2月11日）

○総合評価と課題

1. 教育活動

平成 28 年度は、共通教養科目「専門職連携概論」と「チーム形成論」を池キャンパスにて、それぞれ集中講義科目として、看護学部山中福子講師、健康栄養学部廣内智子講師とともにIPW（Inter-Professional Work）の基礎的理解を中心に授業を実施した。集中講義科目とした理由は、永国寺・池キャンパスの学生が同時に履修できるようにするためである。

「相談援助基盤と専門職」については、西梅幸治准教授、加藤由衣助教とともに実施した。「事例研究法」は、実践場面を想定して具体的な事例を扱い、実践的な理解を促すことを重視した。ゼミでは、4回生7名の卒業研究論文指導を行った。引き続き、リアクションペーパーの内容を検討し、継続的な評価・授業内容の改善を行いたい。

2. 研究活動

研究活動では、2014年度から継続して科研費による研究を行っている。本年度も、ICTを活用したソーシャルワークを展開するモデルを構築するために、コンピュータアセスメント支援ツールの研究開発の基礎となる文献研究に取り組んだ。

3. 委員会活動

委員会活動では、平成 28 年度は、特に学部教務委員長として、卒業研究論文の位置付け検討、研究生の受け入れ手続きの確認作業などについて教務委員会のメンバーとともに日々取り組んだ。

4. 社会的活動

社会的活動では、高知県内における生活困窮者、高齢者福祉、地域福祉、医療福祉、児童福祉、障害者福祉などの分野においてソーシャルワーク研修を行ったり、リカレント教育講座や高知県立大学職業実践力育成プログラムなどの講座を担当し、ソーシャルワーカーの方々が直面している課題について協議することができ、事例を通して自らも学ぶ機会となった。

5. 今後の課題

平成 29 年度も引き続き、教育活動については、教材研究などに取り組み、さらなる授業改善に努めたい。委員会活動や研究活動にも継続的かつ積極的に取り組んでいきたい。これらの成果を教育活動に還元できるように、今後も尽力したいと考えている。

西梅 幸治

Koji NISHIUME

○研究活動

（1）研究会参加

- 1）エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加

（2）研究資金の導入

- 1）基盤研究（C）「ジェネラリスト・ソーシャルワークにおけるエンパワメント実践方法とツール開発の研究」（平成 26～28 年度）
- 2）基盤研究（B）「分担研究：ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」（平成 27～29 年度）
- 3）挑戦的萌芽研究「分担研究：日本式ソーシャルワーカー教育プログラムの発信」（平成 28～30 年度）

（3）論文等

論文

- 1）西梅幸治（2017）「ジェネラル・ソーシャルワークにおける生活への視座に関する研究」『高知県立大学紀要』66, 13-25.
- 2）山口真里・加藤由衣・西梅幸治（2017）「ソーシャルワーク教育における実習スーパービジョンの意義と課題—スーパービジョン過程での省察に焦点を当てて—」『広島国際大学医療福祉学科紀要』13, 41-55.

著書

- 1）太田義弘他編著（2017）『高度専門職業としてのソーシャルワーク—理論・構想・方法・実践の科学的統合化—』光生館，共著（第2章3，第6章3，第7章1・2，資料編3）

○教育活動

（1）担当科目

- 「相談援助の理論と方法Ⅱ」「相談援助の基盤と専門職」「相談援助実習」
- 「社会福祉専門演習Ⅰ」「社会福祉専門演習Ⅱ」「福祉研究演習Ⅲ」
- 「相談援助演習Ⅰ」「相談援助演習Ⅱ」「相談援助演習Ⅳ」
- 「相談援助実習指導Ⅰ」「相談援助実習指導Ⅱ」「相談援助実習指導Ⅲ」

（2）クラブ活動

- ・グローバルクラブ顧問
- ・手話サークル顧問

○委員会活動

全学

- ・キャリア支援部会

学部

- ・実習委員会（社士主担当）
- ・キャリア支援委員会（長）
- ・総務委員会（長）
- ・日本社会福祉士養成校協会担当

○社会的活動

- ・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業 スーパーバイザー
- ・日本社会福祉士養成校協会中国四国ブロック 副運営委員長
- ・四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 通信課程講師
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識Ⅰ」（2016年8月6日）
- ・高知県隣保館職員等研修事業館長研修 講師「隣保館における相談支援を考える—社会福祉の専門的な支援方法の視点から—」（2016年11月11日）
- ・要約筆記者養成講座 講師「対人援助」（2016年11月26日）
- ・高知丸の内高等学校大学模擬授業 講師「社会福祉の支援を考える—ソーシャルワークという方法—」（2016年12月12日）
- ・高知県社会福祉協議会 講師「新任職員フォローアップ研修」（2017年3月22日）
- ・学部リカレント研究会事業「スクールソーシャルワーク研究会」（4月～3月：計6回）

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

研究活動については十分とはいえませんが、継続的に研究を行い、共同研究として著書や実習教育に関する研究成果を公表することができた。しかし科研費を取得した研究に十分に時間を割くことができず、課題が残ったため、次年度に持ち越すことになった。

（2）教育活動について

講義・演習・実習：

授業では、毎回の授業開始時に、前回の復習やシンク・ペア・シェア、ホップ・ステップ・クラスなどの手法を取り入れ、知識の定着を図った。また授業のなかでは、学生からのフィードバック・コメントに応じて、授業展開の修正ならびに追加資料の配付などを行った。今後も、理論と実践を融合した支援展開の修得や国試対策も見据え、学生自身が目標を持って取り組むことができるような工夫を重ねていきたい。実習科目では、個別指導やスーパービジョン、学生同士がお互いに共感し、考え方を深めることを重視してきた。今年度は積極的にグループスーパービジョンを取り入れ、その過程で自省を深め、社会性や専門職としての姿勢が身につくような指導に努めた。

卒論指導：

今年度は、2名の学生の指導を行った。学生たちの状況にあわせて個別に、かつゼミでの相互作用をとおして指導に取り組んだ。今年度は特に、文章構成と分析・考察の技能が高まるように指導を行い、個々に応じた成果を出すことができた。

（3）委員会活動・社会的活動について

相談援助実習（社会福祉士）主担当としては、関連授業の効果・効率的、および統合的な授業運営に、総務委員長としては、学部棟などの設備管理や予算執行に、キャリア支援委員長としては、リカレント研究会事業や来年度の学部創設20周年に向けた準備を進めることに少なからず貢献できたと感じている。また高知県スクールソーシャルワーカー活用事業や要約筆記者養成、ボランティアコーディネートについても尽力することができたと感じている。今後も努力と経験を重ね、学内はもちろん地域や社会に、より貢献できるように取り組んでいきたい。

○研究活動

1. 書籍監修
 - ・山村靖彦「地域福祉の理論と方法」医療情報科学研究所編『社会福祉士国家試験のためのレビューブック 2017』メディックメディア、2016. 4、pp. 213-248.
2. 書籍執筆（増版）
 - ・山村靖彦「社会的養護と地域福祉」井村・相澤編『保育と社会的養護』学文社、2017. 1、pp. 119-124.
3. 書籍概説
 - ・山村靖彦「地域福祉の理論と方法」医療情報科学研究所編『社会福祉士第 25-28 回国家試験問題解説 2017』メディックメディア、2016. 4、pp. 14-17.
4. 報告
 - ・山村靖彦「『地域の継続』を視野に入れた地域づくり活動の展開－佐川町加茂地区、高知市土佐山高川地区、梶原町神在居地区における活動－」『高知県立大学地域連携事業報告集』2017. 3、pp. 29-34.
 - ・上田恵理子、二本柳覚、長澤紀美子、山村靖彦、中寫洋、諸澤美穂、西川愛海「高知県立大学社会福祉学部を中心とした避難所運営訓練の意義と課題」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』第 66 巻、2017. 3、pp. 123-133.
5. 競争的資金の獲得
 - ・科学研究費補助金（基盤研究(C)、課題番号：15K03938、平成 27 年度-30 年度）
研究代表者：山村靖彦（単独）
研究課題名：「社会的孤立の防止に資する社会関係資本の形成と評価：弱いつながりに関する実証的研究」
 - ・科学研究費補助金（基盤研究(C)、課題番号：15K03939、平成 27 年度-29 年度）
研究代表者：田中きよむ
研究分担者：玉里恵美子、水谷利亮、霜田博史、山村靖彦
研究課題名：「『小さな拠点』を軸とする共生型地域づくり－その形成要因の分析と持続モデルの構築－」

○教育活動

1. 学部担当科目
 - ・地域福祉論 I
 - ・コミュニティソーシャルワーク
 - ・福祉 N P O 論
 - ・相談援助実習
 - ・社会福祉専門演習 II
 - ・社会福祉入門演習
 - ・地域福祉論 II
 - ・地域福祉活動
 - ・相談援助実習指導
 - ・社会福祉専門演習 I
 - ・福祉研究演習 III
 - ・社会福祉基礎演習
2. 大学院担当科目
 - ・研究方法論 II
 - ・地域福祉論

※副指導教員として M1 生 1 名、M2 以上生 5 名の計 6 名を担当した。

3. 学生活動

- ・ 立志社中「活輝創生委員会」顧問

○委員会活動

1. 全学

- ・ 広報委員会（大学案内・オープンキャンパス等専門委員会）

2. 学部

- ・ 広報委員会（委員長）、 ・ 学生委員会
- ・ 1 回生学年担当

3. 大学院

- ・ 入試実施委員

○社会的活動

1. 委員等

- ・ 高知市地域福祉計画推進協議会（委員長）
- ・ 高知県社会福祉協議会 福祉教育・ボランティア学習推進委員会委員（委員長）
- ・ 高知県地域生活定着支援センタープロポーザル審査委員会委員（委員長）
- ・ 高知市社会福祉協議会評議員選定委員会（委員長）
- ・ 南国市地域福祉計画策定委員会（副委員長）
- ・ 第 14 回四国地域福祉セミナー in 高知市・第 20 回こんびら地域福祉セミナー実行委員（副委員長）
- ・ 第 14 回四国地域福祉セミナー in 高知市・第 20 回こんびら地域福祉セミナー高知市実行委員（副委員長）
- ・ 高知市都市再生協議会委員
- ・ 日本地域福祉学会地方委員
- ・ 日本地域福祉学会第 31 回大会実行委員
- ・ 高知県共同募金会評議員
- ・ 高知県共同募金会配分委員
- ・ 高知県自立支援協議会 相談支援体制づくり部会委員
- ・ 南国市社会福祉協議会評議員選定委員会委員
- ・ 南国ネットワーク連絡会委員
- ・ 高知市社会福祉協議会「地域支援事例検討会」スーパーバイザー
- ・ 日本コーヒー文化学会地方特別委員
- ・ 高知県生活支援コーディネーター指導者養成研修委員
- ・ 南国市社会福祉協議会「アンケート調査検討・実施に関する検討会」アドバイザー

2. 学外非常勤講師

- ・ 学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校「生活保護制度」担当（全 15 回）

3. 講演等

- ・ 南国市社会福祉協議会「アンケート調査検討・実施委員会」（6 月 22 日）
講演「アンケート調査実施の留意点」
- ・ 第 14 回四国地域福祉セミナー in 高知市・第 20 回こんびら地域福祉セミナー 第 2 分科会助言者（7 月 2, 3 日）
- ・ 高知県生活支援コーディネーター指導者養成研修（11 月 21 日、12 月 5 日）
講義①：「生活支援コーディネーターに期待される機能と役割について」

教育研究活動報告書（山村 靖彦）

講義②：「高齢者に係る地域アセスメントの手法について」

講義③：「研修第1部の振り返り」

講義④：「高齢者の生活支援ニーズと生活支援サービスについて」

講義⑤：「研修の振り返りと全体総括」

- ・第31回安田町社会福祉大会 講演（11月27日）
講演：「地域での支え合いとまちづくり」
- ・平成28年度あったかふれあいセンター職員地域支援研修会講師（11月29日）
講演：「地域の課題解決に向けた取り組み視点」
助言：「実践報告」および「演習」
- ・愛媛県今治市「平成28年度 地域支え合い講座」（3月26日）
講演①：「絆で育む地域の力」（今治市今治公民館）
講演②：「絆で育む地域の力」（今治市国分公民館）

○総合評価及び今後の課題

教育活動では、例年どおり講義面においては特に、①「資料の作成」と②「視聴覚教材の利用」において工夫を重ねた。資料は毎回A4サイズで概ね4枚用意し、テキストの補足や関連する新聞等の記事、統計等を掲載した。視聴覚教材については、主にテレビのドキュメント番組等を編集し、視聴したあとの解説および学生によるディスカッションを通じて考察を深めた。次年度は上記に加え、③「話し方」について具体的な工夫を凝らしたいと考えている。また、ゼミでは、3回生6名、4回生7名の計13名を担当した。卒論指導では、学生個人の状況に合わせ、きめ細かく指導するように努めたことで、個々の論文の質を高めることができたと思っている。本年度に担当した学生は、ゼミでの地域福祉活動を含めて思い出深い学生たちであった。

大学院での講義（「研究方法論Ⅱ」、「地域福祉論」）ならびに副指導教員（6名担当）については、もう少し時間的な余裕をもって準備ができれば良かったと思う。今後も努力を重ね、大学院教育に寄与していきたい。

さらに、本年度も立志社中「活輝」の顧問も担った。「域学共生」の一端を担った意義は大きいと考えるが、何よりも近年では最も学生の成長が感じとれた年度であったので、そのことが最も嬉しく感じている。

委員会等の活動は全学1つ、学部3つ、大学院1つを担った。本年度から担うこととなった広報委員長としては、不慣れな面も多く、行き届かなかった点多々あった。大学院での入試実施委員としては、かなりの労力を要した感がある。大きなミスがなかったことに安堵している。

社会的活動については、外部委員や講演等の依頼がかなり増えてきている。大学の一員としてこれらを引き受け還元することで、本学内の活性化にも寄与できるのではないかと考えているが、今後は自身の健康にも留意しつつ活動していきたい。次年度は、外部委員等を少しだけでも減らし、研究に費やす時間を確保したいとも考えている。

なお、「教育活動」、「研究活動」、「委員会活動」、「社会活動」等については、それぞれを結びつけて捉え、自身の研究や学部生・院生への還元を意識しながら取り組んでいくことが課題であると考えている。

最後になるが、一年間でかなりの時間を費やしたのは学年担当としての役割であった。学生との距離感や個別の対応に苦慮した時もあったが、引き続き担当として学生のサポートに努めたい。

○研究活動

1. 論文

- ①井上健朗（2017）「プロフェッショナル・ポートフォリオのソーシャルワーク分野での活用 -ポートフォリオ作成ワークショップ・プログラムの試作」『高知県立大学紀要』 66 pp79-90
- ②井上健朗（2016）「ソーシャルワークの実践スキル 地域共生社会の中にソーシャルワークを根づかせる」『地域連携入退院と在宅支援』日総研出版 9(5) pp89-95
- ③井上健朗（2016）「社会福祉の立場から医療と教育の保障を考える」『小児看護』 39(11) へるす出版 pp1390-1394
- ④井上健朗（2016）「ソーシャルワークの実践スキル スーパービジョンとコンサルテーション」『地域連携入退院と在宅支援』日総研出版 9(4) pp98-103
- ⑤井上健朗（2016）「ソーシャルワークの実践スキル コラボレーション・チームワーク」『地域連携入退院と在宅支援』日総研出版 9(3) pp72-78
- ⑥井上健朗（2016）「ソーシャルワークの実践スキル 組織の開発」『地域連携入退院と在宅支援』日総研出版 9(2) pp91-96

2. 著書

- ①井上健朗（2017）日本医療社会福祉協会編集『改訂版 交通事故被害者の生活支援—医療ソーシャルワーカーのための基礎知識—』晃洋書房 ISBN:4771028311
- ②井上健朗（2016）編集代表及び執筆担当『〔改訂版〕相談・支援のための福祉・医療制度活用ハンドブック』新日本法規出版 ISBN:4788281929
- ③井上健朗（2017）『救急認定ソーシャルワーカーテキストドラフト版』へるす出版

3. その他

共同研究

- ①「小児慢性疾患患者及びその家族への支援の在り方に関する基礎研究」厚生労働省難治性疾患克服事業（代表 明治学院大学 茨木尚子）
- ②堀越由紀子 井上健朗 松本葉子「難病のある人への就労支援に携わる MSW 向け研修の評価」第 36 回日本医療社会事業学会 2016 /5/25

○教育活動

1. 学部教育

「社会福祉入門演習」「相談援助演習」「相談援助実習指導Ⅰ」「相談援助実習指導Ⅱ」
「医療福祉論」「社会福祉入門演習」「社会福祉基礎演習」「医療保健サービス論」
「社会福祉専門演習Ⅰ」「社会福祉専門演習Ⅱ」「福祉研究演習Ⅲ」「チーム・アプローチ」

2. 他学部

「中山間地域等訪問看護師育成プログラム」（全学事業 寄付講座）

3. BP 職業実践力育成プログラム 講座

平成 28 年度「多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座」
「チーム・アプローチⅠ」「チーム・アプローチⅡ」

4. リカレント・一般向け教育

- 1) 高知県社会福祉協議会 福祉サービス第三者委員ブロック別研修会 講師

教育研究活動報告書（井上 健朗）

「当事者・家族からの苦情をどのように受け止め、どう活かしていくか」

2) 高知県立大学出前講座 高知県立山田高校

「人を支えるコミュニケーション×社会福祉を学ぶ」講師

平成 28 年 10 月 28 日

5. 現任者教育

1) 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会主催 「災害福祉支援活動研修」講師

高知会場（高知県立大学）平成 28 年 11 月 26 日 27 日

大阪会場（桃山学院大学）平成 28 年 12 月 10 日 11 日

愛知会場（日本福祉大学）平成 29 年 2 月 18 日 19 日

2) 高知県医療ソーシャルワーカー協会主催 基礎研修 講師 「専門的援助関係」

高知（近森病院）平成 28 年 10 月

3) 高知県医療ソーシャルワーカー協会主催 専門研修 講師・ファシリテーター

「ソーシャルワーカーにとってつなぐとは」

高知（近森病院）平成 28 年 9 月

4) 高知県立大学長裁量研究助成「ソーシャルワーク・ポートフォリオ作成研修」

高知県立大学 平成 28 年 3 月 8 日

5) 日本臨床救急医学会・日本医療社会福祉学会共催「救急認定ソーシャルワーカー

認定研修」講師・ファシリテーター

東京会場（日本社会福祉士養成校協会）平成 28 年 1 月 21 日 22 日

6) 徳島県医療ソーシャルワーカー協会 徳島県医療ソーシャルワーク学会

講師・演題報告座長 平成 28 年 10 月

7) 長崎県医療ソーシャルワーカー協会 専門研修「退院前カンファレンスについて」

講師 平成 28 年 8 月

8) 香川県糖尿病療養指導士看護ネットワーク「Qの会」第 22 回研修会

講師「高齢者の生活を支えるための資源とその活用」平成 28 年 6 月 26 日

○委員会活動

- ・ 健康長寿センター委員 リカレントセミナー・体験型セミナー開催
- ・ 高知県立大学 高知医療センター連携事業 委員
- ・ 県立大学・医療センター社会福祉連携部会 12 回開催

○社会的活動

1. 委員等

- ①公益法人社団日本医療社会福祉協会 交通事故被害者生活支援教育研修委員
- ②公益法人社団日本医療社会福祉協会 制度本編集委員会 代表委員（編集代表）
- ③高知県立大学健康長寿センター土佐市連携事業地域ケア会議担当メンバー
- ④高知県委託事業「退院支援推進事業」

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

引き続き 2 回生の学年担当教員として、学生生活のサポートを行った。精神面や身体面など学生の健康管理に向き合うことの難しさを痛感する 1 年であった。また、平成 28 年度は、精神保健福祉士養成のための実習指導のための研修に参加し、実習指導に関する体系的学びを得た。学生が実習地に赴く期間だけでなく、実習前、及び実習後の取り組みで

教育研究活動報告書（井上 健朗）

の学生の学びの重要性に改めて気付く機会となった。

2. 研究活動について

学長裁量の研究資金を得て、ソーシャルワーク・ポートフォリオの活用に関する研究を行った。また交通事故被害者生活支援に関するフィールドについては、引き続き（公益法人社団）日本医療社会福祉協会の「交通事故被害者生活支援プロジェクト」のコアメンバーとして活動した。本プロジェクトでは、医療福祉領域の専門職を対象とした研修事業として、JM00C(日本オープンオンライン教育推進協議会)の提供するEラーニング・フォーマットを活用した研修プログラムを稼働させた。

3. 社会活動について

昨年に引き続き、公益社団法人日本医療社会福祉協会での活動として「交通事故被害者支援」「難病者の就労支援」などのテーマで全国レベルでのソーシャルワーク現任者の教育研修の活動を行った。また高知県、徳島県、長崎県の各医療ソーシャルワーカー協会の研修会などチーム・アプローチや退院支援に関する学びをソーシャルワーカー及び他職種と共に進めることができた。患者・家族会へのサポート活動として、日本 ALS 協会愛媛県支部勉強会での講師を引き続き行った。また、本学健康長寿センター事業として土佐市における地域ケア会議に対する支援、高知医療センター地域医療連携室と共同して公開講座を実施した。

河内 康文

Yasufumi KOCHI

○研究活動

1. 論文

- (1) 河内康文「EPA 介護福祉士候補者の介護現場における経験—日常業務での他者からの支援に焦点をあてて—」『厚生の指標』63(11), pp.32-38, 2016年9月.
- (2) 河内康文・宮上多加子・田中眞希「介護福祉士の職業経験と仕事の信念—経験学習論に基づく分析」『介護福祉教育』21(2), pp.57-68, 2016年11月.
- (3) 河内康文「Economic Partnership Agreement 介護福祉士候補者の介護現場における経験学習」高知県立大学大学院 博士学位論文, 2017年3月.

2. 学会発表

- (1) 田中眞希・宮上多加子・河内康文：准看護師のキャリアと仕事及びケアに関する認識—福祉・医療現場で働く准看護師への調査を通して—, 第24回介護福祉学会（長野県上田市）, 2016年9月.
- (2) 田中眞希・宮上多加子・河内康文：社会人学生の学びを支援する教員の意識—介護福祉士, 准看護師, 保育士の比較—, 第23回介護福祉教育学会（石川県白山市）, 2017年2月.

3. 競争的資金の獲得

- (1) 科学研究費基盤研究（C）[平成26年度～平成28年度]「人をケアする準専門職の経験による学びと「仕事の信念」に関する研究」（代表者：宮上多加子）（研究分担者）
- (2) 科学研究費基盤研究（C）[平成28年度～平成30年度]「EPA 介護福祉士の介護現場における経験からの学びに関する研究」（代表者：河内康文）

○教育活動

- | | | |
|-------------|---------------|----------------|
| 1. 介護の基本Ⅰ | 2. 介護の基本Ⅲ | 3. コミュニケーション技術 |
| 4. 介護総合演習Ⅰ | 5. 介護総合演習Ⅱ | 6. 介護総合演習Ⅲ |
| 7. 介護実習Ⅰ | 8. 介護実習Ⅱ | 9. 介護実習Ⅲ |
| 10. 障害の理解Ⅱ | 11. 社会福祉専門演習Ⅰ | 12. 社会福祉専門演習Ⅱ |
| 13. 福祉研究演習Ⅲ | | |

○委員会活動

1. 学部

- (1) 総務・予算委員
- (2) 広報委員
- (3) 介護人材確保事業部会委員長
- (4) 創基70周年社会福祉学部公開講座委員

○社会的活動

1. 委員等

- (1) いの町社会福祉協議会成年後見運営委員
- (2) 南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員

教育研究活動報告書（河内 康文）

- (3) 外国人介護福祉士候補者学習支援事業 作業部会委員
- (4) 介護福祉士実習指導者講習会研修企画委員

2. 講演等

- (1) オープンキャンパス体験授業 講師「福祉と ICT」（2016年7月31日）
- (2) 外国人介護福祉士候補者学習支援事業集合研修講師（2016年8月～2017年1月 計9日）
- (3) 高校生と保護者のための公開講座 講師（2016年10月23日）
- (4) 高知県キャリア教育推進事業高校生講座（岡豊高等学校：2017年2月2日，安芸高等学校：2017年2月3日，高知南高等学校：2017年3月13日）
- (5) 高知県社会福祉協議会 人材育成推進セミナーIN幡多 講師「福祉施設・事業所での人材確保・育成・定着に向けて」（2017年3月15日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

担当科目については、タブレット端末を用いて、視覚的にわかりやすい授業になるように心がけた。新しい試みとしては、クリックシステムを実施し概ね好評を得た。また、ゲストスピーカーによる講義や実際に福祉現場を体験して、理論と実際が結びつきやすいように意識した。今後の課題は、機器の活用のデメリットを検討し、学生の学習効果につながる教育実践の展開である。

2. 研究活動について

本年度は、外国人介護福祉士候補者が介護現場でどのような経験をしていたり、他者とどのようにかかわっていたりしているのかという観点から、量的調査結果をまとめ論文として公表をした。加えて、質的調査結果をまとめ、それらを統合し博士論文を提出した。社会福祉学部の先生方には、ご指導・ご支援・ご配慮を賜り、この場を借りて感謝を申し上げます。

また、科学研究費の研究分担者としては、社会人経験がある介護福祉士を対象とした調査研究を論文として発表した。次年度は、代表者である科学研究費の外国人「介護福祉士候補者」が「介護福祉士」になってからの経験に着目しながら、継続的に研究活動を進めていく。

3. 社会活動について

外国人介護福祉士候補者を対象とした学習支援の企画・講師として活動した。地域の社会活動としては、高知県が主催する介護の日のイベントでの介護福祉啓発事業の企画への参加や当日のイベントへの参加をした。また、日本介護福祉士養成施設協会中国四国ブロック教職員研修会の実行委員として準備を行った。

いの町社会福祉協議会成年後見運営委員や南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員も継続しつつ、高知県の福祉介護の課題に対して、少しでも貢献ができるように取り組んでいきたい。

○研究活動

（1）論文（報告）

- ・遠山真世（2017）「障害者就労継続支援 B 型事業所における就労支援の現状と課題(1) —Z 県内 3 事業所の質的調査から」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』66: pp. 91-103.

（2）学会発表

- ・遠山真世（2017）「障害者の就労支援における現状と課題①—就労継続支援 B 型事業所のインタビュー調査から」社会政策学会中四国部会（於：高知県立大学）.

（3）競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（若手研究(B)，課題番号 26780314，平成 26 年度—平成 29 年度）
研究代表者：遠山真世
研究課題名：「重度障害者の就労支援システムの再構築に向けた実証研究」

○教育活動

（1）担当科目

- ・相談援助演習Ⅰ・相談援助演習Ⅱ・相談援助演習Ⅳ
- ・相談援助実習指導Ⅰ・相談援助実習指導Ⅱ・相談援助実習指導Ⅲ・相談援助実習
- ・社会福祉専門演習Ⅰ・社会福祉専門演習Ⅱ・福祉研究演習Ⅲ
- ・障害者福祉論・地域学実習Ⅰ

（2）学生支援

- ・17 期生学年担当・池吹奏楽団顧問

○委員会活動

（1）全学

- ・学生委員会・健康管理センター運営委員会・入試監査委員会

（2）学部

- ・実習委員会・学生委員会（委員長）・国試対策支援委員会（委員長）
- ・福祉実習支援室長

○社会的活動

- ・高知県要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識Ⅱ」担当（8 月 27 日）
主催：高知県地域福祉部 障害保健福祉課
特定非営利活動法人 要約筆記 高知・やまもも
場所：高知市障害者福祉センター

教育研究活動報告書（遠山 真世）

- ・高知県児童福祉司指定講習会 講師「障害者福祉論」担当（9月6日）
主催：高知県地域福祉部児童家庭課
場所：高知県立大学 池キャンパス A320
- ・高知県社会福祉士会理事（国家試験対策委員会）
- ・卒業生リカレント研究会「対人援助職におけるソーシャルワーク実践に関する学習会」
9月17日開催、卒業生2名参加
- ・卒業生リカレント研究会「社会福祉士国家試験対策勉強会」
9月13日・10月22日・11月29日開催、卒業生3名・4回生2名参加

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

科学研究費補助金を受け、重度障害者の雇用・就労における問題整理と課題抽出に取り組んできた。本年度は、昨年度実施した障害者就労継続支援B型事業所3か所へのインタビュー調査の分析結果をまとめ、論文（報告）を執筆した。また昨年度に引き続き、B型事業所2か所へのインタビュー調査を行うことができた。次年度は、他のB型事業所へのインタビュー調査を実施し、これまでの分析結果をまとめ学会発表や論文執筆を行うとともに、B型事業所を対象としたアンケート調査の企画も進めていきたい。

（2）教育活動について

講義では、ポイントを明確化し理解しやすい授業を心掛けた。課題や小テストを用いて、学生自身が理解度を確認できるようにした。演習では、グループでのディスカッションや発表、ロールプレイを取り入れ、自ら考えたり意見を出し合ったりして議論を深める機会を多く設けた。実習指導においては、個別指導を通じて学生の関心や考えを引き出したり、実習で得た経験について考察を深められるよう努めた。今後も引き続き多様な授業方法を盛り込み、学生の理解や考察が深まるようにしていきたい。

3回生の学年担当としては、全体としては落ち着きつつも、学習面・生活面で個別対応が必要となる場合も多く、状況に応じて学部教員と情報共有を図り、健康管理センターや学生・就職支援課とも連携しながら取り組んだ。今後も学生ひとりひとりと丁寧に関わり成長を支えるとともに、就職活動や国家試験に向けた支援も行っていきたい。

（3）委員会活動・社会活動等について

学生委員長として1～4回生の学年担当教員と連携し、学生支援に携わった。今年度は特に、障害のある学生の支援に関する大学の体制づくりに向けて、学部の意見を集約し全学学生委員会で提案した。国試対策支援委員会では、過去問を解く機会を増やしたり、個別面談を通じた相談や学習指導を強化したりした。

学外では高知県要約筆記者養成講座および高知県児童福祉司指定講習会で講師を担当し、地域の人材育成に携わることができた。また、卒業生のリカレント研究会を開催し、社会福祉の現場で働く卒業生のスーパーバイズを行ったり、社会福祉士国家試験に向けた支援を行うことができた。

鳩間 亜紀子

Akiko HATOMA

○ 研究活動

[論文]

- ・ 鳩間亜紀子（2016）『訪問介護員が生活援助のなかで用いる援助方略に関する研究』日本福祉大学大学院福祉社会開発研究科博士学位請求論文。

[競争的資金等の獲得状況]

- ・ 日本学術振興会平成 28 年度科学研究費助成事業，基盤研究（C），「ホームヘルパーが生活援助サービスのなかで用いる援助方略の可視化」研究代表者

○ 教育活動

[学部科目]

- ・ 社会福祉入門演習（1 回生前期：オムニバス）
- ・ 社会福祉基礎演習（1 回生後期：オムニバス）
- ・ 高齢者福祉論Ⅰ（1 回生後期）
- ・ ケアプラン策定法（4 回生前期）受講者なし
- ・ 相談援助演習Ⅰ（2 回生前期），相談援助演習Ⅱ（2 回生後期）
- ・ 相談援助実習指導Ⅰ（2 回生前期），相談援助実習指導Ⅱ（2 回生後期）
- ・ 相談援助実習指導Ⅲ（3 回生前期），相談援助演習Ⅳ（3 回生後期）
- ・ 相談援助実習
- ・ 社会福祉専門演習Ⅰ（3 回生前期），社会福祉専門演習Ⅱ（3 回生後期）
- ・ 福祉研究演習Ⅲ（4 回生通年）

[その他]

- ・ 平成 28 年度多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座（BP 講座）「高齢者福祉の現状と実践のための講座」（2017 年 1 月 28 日，2 月 11 日）

○ 委員会活動

[全学]

- ・ 入試実施委員会
- ・ 人権委員会

[学部]

- ・ 広報委員会（入試広報部会）
- ・ 教務委員会
- ・ キャリア支援部会
- ・ 実習委員会

○ 社会的活動

- ・ 日本介護福祉学会評議員

○ 総合評価及び今後の課題

「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ」の課題だった，教材作成に着手することができた．既に受講した３回生の協力を得てロールプレイを検討するためのビデオ教材を作成した．授業で用いたところ学生の関心や積極的な議論につながり，効果を感じられた．教育活動については，学生の学習を深めるための施設見学や実務家をゲストスピーカーとして授業に招くなどの余裕がなくなっている．通常の授業のなかで学生が主体的に学べるよう，授業方法の工夫について努力したい．

全学委員会はこれまでの入試実施委員会に加え，人権委員会を担当した．学部委員会についても教務委員会やキャリア支援委員会など新たな業務が加わった．まだまだ慣れないことが多いが，大学の役割や機能などを理解することにもつながっていると感じる．

研究活動については，新たに科研費を取得することができ，初年度としては関連資料の収集と分析を行うことができた．また，今年度は博士論文執筆に集中し，なんとか論文をまとめることができた．職場の理解や先生方からの励ましに心から感謝している．

福 間 隆 康

Takayasu FUKUMA

○研究活動

（1）論文

1. 福間隆康「障がい者の雇用と企業の新しい人的資源管理システム—特例子会社 24 社の事例分析」公募研究シリーズ 53 一般財団法人全国勤労者福祉・共済振興協会，2016 年 9 月。
2. 福間隆康「農業分野における障がい者就労—就労継続支援 B 型事業所『のんきな農場』の工賃向上に向けた取り組み事例」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』第 66 巻，105-121 頁，2017 年 3 月。

（2）その他

1. 福間隆康「農業分野における障がい者就労—就労継続支援 B 型事業所の工賃向上に向けた取り組み事例」第 24 回職業リハビリテーション研究・実践発表会（東京ビッグサイト），2016 年 11 月。

（3）競争的資金の獲得状況

1. 平成 26 年度～28 年度 日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（C））「障害者雇用の組織マネジメントに関する研究」（研究代表者）
2. 平成 28 年度 生協総研賞・助成事業「中間的就労の活用による生活困窮者雇用拡大のための方策—グリーンユース共同体の実践と効果の検証」（単独研究）

○教育活動

1. 福祉対象入門
2. 福祉援助入門
3. 福祉サービスの組織と経営
4. 社会福祉専門演習 I
5. 社会福祉専門演習 II
6. 福祉研究演習 III
7. 相談援助演習 I
8. 相談援助演習 II
9. 相談援助演習 IV
10. 相談援助実習指導 I
11. 相談援助実習指導 II
12. 相談援助実習指導 III
13. 相談援助実習
14. 地域学実習 I

○委員会活動

（1）全学

1. 地域教育研究センター生涯学習部会委員

教育研究活動報告書（福間 隆康）

2. 職業実践力育成プログラム（BP）実施委員会委員
3. 入試実施委員会委員
4. センター試験実施委員会委員

（2）学 部

1. 介護人材確保事業部会委員

○社会的活動

1. 日本労務学会理事
2. 高知市救護施設整備等事業者選定審査委員会委員

○総合評価及び今後の課題

1. 研究活動

科学研究費助成事業（基盤研究（C））の研究代表者として成果の一部を学会報告するとともに、研究紀要に掲載することができた。また、生協総研賞・助成事業助成金を獲得することができた。次年度は、生協総研賞・助成事業の研究計画書に基づき着実に研究を遂行し、研究成果の形として、生協総研助成事業論文報告会で報告するとともに、生協総研助成事業論文集に論文を掲載する予定である。

2. 教育活動

授業では、アクティブ・ラーニングや協働学習に重点を置き、学生に主体性をもって答えのない問題に答えを見いだしていくよう努めた。また、ICTを活用した授業を実施し、学生により発展した疑問を考えさせたり、自分の意見を発表させたりするよう思考の可視化を行った。次年度は、課題解決型学習や学外での実践活動を取り入れ、学生の主体性を引き出せる産学共同授業を実施していきたい。

3. 委員会活動

本年度は、地域教育研究センター生涯学習部会委員として、履修証明プログラムとしての職業実践力育成プログラム（BP）を円滑に開始することができた。また、職業実践力育成プログラム（BP）実施委員会委員として、履修証明プログラム「多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座」を円滑に実施することができた。入試実施委員会委員およびセンター試験実施委員会委員として、入試業務を円滑に行うことができた。介護人材確保事業部会委員として、高校生と保護者のための公開講座において講義を行った。

4. 社会的活動

高知県産学官民連携センター（ココプラ）主催のシーズ・研究内容紹介において、研究発表を行い、参加者とのつながりを作ることができた。また、ココプラ事業を積極的に活用し、多様な参加者と交流の機会をもつことができた。今後は、高知県内の企業等との共同研究や産学官民の交流の場への参加等を通じ、産業界および地域の発展に貢献できるよう取り組んでいきたい。

三好 弥生

Yayoi MIYOSHI

○研究活動

1. 論文

- ・上田恵理子・片岡妙子・三好弥生（2017）「特別支援学校の修学旅行同伴ボランティアの体験－福祉を学ぶ大学生の学び－」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』66, 135-143.

2. 著書

なし

3. 発表

- ・上田恵理子・三好弥生「障害児とともに社会参加して得た学び」第23回日本介護福祉教育学会発表（金沢）2017年2月.

○教育活動

1. 学部担当科目

「こころとからだのしくみⅠ」	「介護総合演習Ⅰ」（1回生・後期）
「高齢者福祉論Ⅱ」	「介護総合演習Ⅱ」（3回生・前期）
「医療的ケアⅠ」	「介護総合演習Ⅱ」（2回生・前期）
「介護過程Ⅱ」	「介護実習Ⅰ」（1回生）
「介護過程Ⅲ」	「介護実習Ⅱ」（2回生）
「介護過程Ⅳ」	「介護実習Ⅱ－②」（3回生）
「生活支援技術Ⅴ」	
「社会福祉専門演習Ⅰ」	
「社会福祉専門演習Ⅱ」	
「福祉研究演習Ⅲ」	

○委員会活動

1. 全学

共通教育部会員

2. 学部

- ・教務委員
- ・就職委員
- ・実習委員

○社会的活動

1. 委員等

- ・介護福祉養成施設協会中国・四国ブロック研修実行委員

2. 出前講座

- ・高知商業高校の3年生約20名に「コミュニケーション技術－『聞く力』を伸ばす－」の講義を行った（9月）

3. 非常勤講師

- ・高知工科大学の教員免許取得を希望する学生に「介護等体験事前指導」を行った（5月）
- ・四万十看護専門学校の「関係法規」の授業を担当し、2年生に集中講義を行った（10月）

○総合評価及び今後の課題

1. 研究活動について

「介護者による高齢者の看取り期食事ケアモデル構築に向けた実証的研究」を課題として応募していた科研費が採択された。平成28年は初年度となり、プレ調査を実施し、その結果を研究協力者と協議し、2年目の本調査に向けて具体的な調査項目を検討した。

また、学位を取得した論文「高齢者を看取る過程における介護福祉士の意識」を3つの学会雑誌に投稿した。次年度も時間を捻出し、引き続き高齢者の看取りに関する研究を進めていきたいと思う。

2. 教育活動について

平成28年度も科目数が多く、授業準備には時間を要したが、学生の授業評価はまずまず良かった。介護を取り巻く状況の変化が非常に早いため、常に新しい情報を取り入れるようにしなければならない。次年度は、そのところを意識して授業をしたい。

また、介護コースの卒業生向けリカレント教育も3年目となり、参加者も少しずつ増加している。次年度も年3回程度の開催を予定している。

3. その他

介護コースでは、平成26年度入学生より大幅なカリキュラム変更を行っており、移行期にある平成28年度は、初めて春休みに「介護実習Ⅰ」と「介護実習Ⅲ」を同時に実施したが、特に問題なく進めることができた。

上田 恵理子

Eriko UEDA

○研究活動

1. 論文

- ・ 上田恵理子 ・二本柳覚 ・長澤紀美子 ・山村靖彦 ・中畠 洋 ・諸澤美穂 ・西川愛海（2017）「高知県立大学社会福祉学部を中心とした避難所運営訓練の意義と課題」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』66, 135-143.
- ・ 上田恵理子 ・片岡妙子 ・三好弥生（2017）「特別支援学校の修学旅行同伴ボランティアの体験—福祉を学ぶ大学生の学び—」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』66, 123-133.

2. 学会発表

- ・ 上田恵理子, 宮上多加子, 荒川泰士：訪問介護事業所における KOMI ケア理論及び記録システムの活用のあり方 ～職員へのアンケート調査の分析から～, ナイチンゲール KOMI ケア学会第 7 回学術集会（東京）, 2016 年 6 月.
- ・ 上田恵理子, 三好弥生：障害児とともに社会参加して得た学び, 第 23 回日本介護福祉教育学会（石川）, 2017 年 2 月.

○教育活動

- ・生活支援技術Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅲ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅱ
- ・介護実習Ⅲ
- ・社会福祉入門演習
- ・社会福祉基礎演習

○委員会活動

- ・広報委員会
- ・学部実習委員会
- ・学生委員会
- ・災害対策プロジェクト災害対策連携部会
- ・親交会委員

○社会的活動

- ・介護福祉士実習指導者講習会講師
- ・卒業生のためのリカレント講座

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

（1）介護福祉士養成課程について

講義科目では、前年度と同様、生活支援技術や介護総合演習を担当した。前年度、授業展開の方法や教えることの難しさに直面したため、今年度は授業準備を入念に行ったり、ほかの先生方に助言をいただいたりした。まだまだ授業展開や教えることの難しさを感じているが、学生が実習などで体験したことなどを事例にあげながら、学生が理解しやすく、主体的に授業に参加できるよう努めていきたい。

介護実習では、介護実習Ⅱと介護実習Ⅲの実習指導を行った。実習目標や巡回で指導などを行う度に、指導方法について私自身悩み考えることが多かった。その都度、ほかの先生方に相談し、無事に終わることが出来た。次年度も相談や助言をいただきながら、学生一人ひとりに合わせた指導方法を考え、学生が充実した実習を行えるようにしていきたい。

（2）学年担当について

2016年度に入学した19期生の学年担当となり、「社会福祉入門演習」「社会福祉基礎演習」の授業を山村先生と行った。

学年担当の業務は授業のみならず、履修登録の相談、授業料免除に係る人物評価や障がいのある学生への配慮、事故の対応やボランティアの周知など、多岐にわたるものであった。教員として2年目であり、自分自身も分からないことが多い中、学生をはじめ先生方といった沢山の人たちにご迷惑をおかけしたが、それ以上に温かいアドバイスやサポートをしていただき、一年を乗り越えることが出来たことに感謝をしている。

次年度も多岐にわたり学生をサポートしていく中で、山村先生をはじめとする先生方と連携を行いながら、学生がより良い学生生活を送れるように配慮していきたい。

2. 研究活動について

防災委員や介護福祉コースの先生方との共同研究活動が主な一年であった。来年度も引き続き共同研究を進めていきたい。

自身の研究テーマである認知症高齢者のケアに関する研究を着手し始めた。現段階は、調査を行っているところである。今後調査結果をまとめ、論文ないし学会で発表を行いたい。

3. その他

介護福祉士実習指導者講習会の講師をさせていただいた。そこで高知介護福祉士会や現場の方々と話す機会ができ、介護の現状や課題を聞くことができた。それと同時に介護について、さらに考える良い機会となった。今後は、介護現場と教育の場をつなげられる活動も考えていきたい。

片岡 妙子

Taeko KATAOKA

○研究活動

1. 報告

上田恵理子・片岡妙子・三好弥生（2017）「特別支援学校の修学旅行同伴ボランティアの体験－福祉を学ぶ大学生の学び－」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』66, 134-133.

○教育活動

- ・生活支援技術Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅱ
- ・認知症の理解
- ・こころとからだのしくみⅡ
- ・医療的ケアⅠ
- ・介護技術

○委員会活動

- ・学部実習委員
- ・学部健康長寿センター委員
- ・学部入試委員

○社会的活動

1. 学外講師等

- ・土佐町、高知県立大学公開講座 講師（9月29日）
- ・高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座 講師（10月8日）
- ・四万十看護学院 非常勤講師（10月15～16日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

教員一年目であり、前期は主に他の先生方の授業の様子を見学し、数コマずつ自身も授業を実施した。担当した授業では、見学した内容や先生方の助言を基に、学生の興味関心を引く内容と、学生自身が考えを深められることをテーマに取り上げるよう心がけ授業展開を行った。

8～9月と2月に介護教員講習会へ参加し、介護福祉士を養成するにあたっての課題や知識を学ぶことができた。また研修を通して、学生を指導・教育するうえでの姿勢や、学

教育研究活動報告書（片岡 妙子）

生に対して配慮すべき点も知ることができ、今後の教育活動に生かしていきたいと考えている。

後期の授業では、講義だけでなくグループワークも取り入れた授業を行ったが、教員としての経験不足から十分な授業展開には至らなかった。次年度は、SPOD 研修等にも参加し、教員としての技術を高められるよう自己研鑽していきたい。

介護実習では、主担当の先生方の巡回やカンファレンスに同行し、学生指導の実際や実習指導者との関係について学ばせていただいた。実習目標の設定から実際の実習を通して、学生が自身の体験をふり返り学びを深めていけるような助言を行っていきたいと考えている。

2. 研究活動について

今年度は学部の先生方と共同研究を行い、高知県立大学紀要社会福祉学部編に投稿した。次年度は、修士論文で取り上げた、介護老人福祉施設における介護福祉士と多職種連携に関することについて研究を行っていきたい。

3. 社会活動について

土佐町・高知県立大学公開講座では、地域住民の方を対象に、生活に活用できることをテーマに取り上げて講義を行った。また、高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座では、介護施設や病院に勤務する介護職員・看護職員を対象に、介護職員が行う医療的ケアについて講義を実施した。

今後も機会があれば、地域社会に貢献できる活動が行えるよう心がけていきたいと考えている。

4. その他

委員会活動については、他の先生方について動くことはできたが主体的な活動はできなかった。次年度は、今年度実施したことをふまえて、積極的に行動できるよう取り組んでいきたい。

○研究活動

（1）論文・著書

- ・加藤由衣「省察的实践を志向したスクールソーシャルワーク現任教育方法の研究」『地域ケアリング』5月号，北隆館，pp.76-79，2016年5月
- ・山口真里、加藤由衣、西梅幸治「ソーシャルワーク教育における実習スーパービジョンの意義と課題—スーパービジョン過程での省察に焦点を当てて—」『広島国際大学医療福祉学科紀要』13，pp.41-55，2017年3月
- ・太田義弘・中村佐織・安井理夫編『高度専門職業としてのソーシャルワーク—理論・構想・方法・実践の科学的統合化—』光生館，2017年（共著，第10章1・2，第12章1・2担当）

（2）研究会参加

- ・エコシステム研究会（太田義弘主催）への参加

（3）競争的資金の獲得状況

- ・文部科学省科学研究費補助金（若手研究（B））「省察的实践を志向したスクールソーシャルワーク現任教育方法の研究」（平成27～29年度），研究代表者
- ・文部科学省科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「日本式ソーシャルワーカー教育プログラムの発信—中国・韓国・台湾を中心に—」（平成28年～30年度），研究分担者（研究代表者：中村佐織）
- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（B））「ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」（平成27～29年度），研究分担者（研究代表者：丸山裕子）

（4）その他

- ・日本社会福祉士養成校協会編（2016）『社会福祉士国家試験模擬問題集 2017』中央法規

○教育活動

（1）担当科目

- ・「相談援助の基盤と専門職」
- ・「相談援助の理論と方法Ⅰ」
- ・「相談援助の理論と方法Ⅲ」
- ・「相談援助演習Ⅲ」
- ・「相談援助演習Ⅳ」
- ・「相談援助実習」
- ・「相談援助実習指導Ⅰ」
- ・「相談援助実習指導Ⅱ」

（2）クラブ活動

- ・バスケットボール部顧問
- ・ハモ☆いけ顧問
- ・こどもみらい塾顧問

○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部就職委員会
- ・第16期生学年担当
- ・学部教務委員会
- ・国試対策支援委員会
- ・学部学生委員会
- ・入試広報部会

○社会的活動

（１）学外講師等

- ・南国市スクールソーシャルワーカー
- ・学校法人すみれ学園高知福祉専門学校非常勤講師（「社会調査の基礎」担当）
- ・NPO 法人こうちサポートネットワーク「メンタルフレンド研修」講師（2016年6月～7月 全5回）
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉従事者としての専門性」（2016年11月26日）
- ・高知高等学校出前講座「スクールソーシャルワーカーの役割」（2016年10月14日）
- ・高知県立大学職業実践力育成プログラム「多職種連携による保健福祉医療従事者の力量アップのための講座－高齢者ケア力の向上に向けて－」（「高齢者への福祉的支援」担当、2016年10月16日）

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

これまでに引き続き、省察的実践に関する研究を進めた。特に今年度は、ツールを活用した省察や省察の機会としてのスーパービジョンなど、省察的実践を促進する教育方法に着目し、その意味や役割を検討してきた。一方で、予定していた調査に関しては十分に進められなかった。そのため今後は、ソーシャルワーカーへのインタビュー調査から省察的実践を促進する要因を明らかにできるように、計画的に研究を進めていきたい。

またエコシステム研究会では、開発を進めている地域包括支援センター版のコンピュータ実践支援ツールのアンケート調査を実施した。次年度は、調査結果の分析をふまえ、より実用的なツール開発に向けて、内容の精緻化や活用方法の探究を行っていきたい。

（２）教育活動について

講義・演習では、事例・視聴覚教材の活用やグループワーク等により、ソーシャルワークの概念を、学生が実感をもって理解を深めることができるように意識した。また、授業導入時の授業テーマに関する意見交換や、学生同士の相互評価など、学生の主体的な参加と動機づけを高める授業を工夫した。今後も、学生からのフィードバックをもとに内容の改善を図りつつ、学生の理解を促進できるよう努めていきたい。

実習教育では、福祉実習支援室での学生支援と実習科目での指導に携わった。特に今年度は、ジェネラリストとしての視点や姿勢を身につけられるように、他領域で実習を行う学生同士での意見交換やグループワークを実施した。今年度の学生の学びや成果、課題をふまえて、今後も実習前後の一連の教育展開を検討・改善していきたい。また、個々の学生にきめ細やかな指導・支援が行えるよう、引き続きチームティーチングを意識した全体の状況把握と個別指導に努めたい。

今年度は4回生の学年担当として、学年全体の就職活動の状況を把握するとともに、個別相談・支援を重視して、学生生活のサポートや就職活動支援を行った。あわせて国家試験対策の支援では、個々の学生の卒業論文や就職活動の状況をふまえた丁寧な個別支援を意識した。また、学内模試の充実や環境整備など学生全体の士気を高めるよう取り組んだ。今後も学生の受験に対する早期の意識づけを行いながら、全体と個別の状況の把握と支援を心がけ、国家試験合格率の維持・向上に貢献していきたい。

鈴木 裕介

Yusuke SUZUKI

○研究活動

- ・鈴木裕介（2016）「施設への入所」, 「高齢者の職業」公益社団法人日本医療社会福祉協会編『福祉・医療制度活用ハンドブック改訂版』新日本法規, 194-5, 204-5, 206, 209-13.
- ・鈴木裕介（2017）「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの現状」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』66, 27-35.

○学会発表

- ・鈴木裕介（2016）「医療ソーシャルワーカーが実践するアドボカシー援助活動と倫理綱領遵守との関連」日本医療社会福祉学会 第26回大会.
- ・和田暁・鈴木裕介（2016）「退院時に関連職種からMSWに求められる役割期待—在宅ターミナルケア移行期に焦点化して」日本医療社会福祉学会 第26回大会.

○競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（若手研究(B), 課題番号:26780314, 平成26年度-28年度)
研究代表者：鈴木裕介
研究課題名：「中山間地域で暮らす高齢者の医療に関連する福祉ニーズの評価指標の開発」

○教育活動

- ・医療ソーシャルワーク論 ・ケアマネジメント演習
- ・保健医療サービス
- ・相談援助演習Ⅲ ・相談援助演習Ⅳ
- ・相談援助実習指導Ⅰ ・相談援助実習指導Ⅱ
- ・相談援助実習指導Ⅲ ・相談援助実習
- ・職業実践力育成プログラム（BP）

○委員会活動

- ・高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会委員学部
- ・学生委員
- ・実習委員
- ・総務委員
- ・情報処理委員

- ・国試対策支援委員
- ・17期生学年担当

○社会活動

(1) 委員等

- ・高知県医療ソーシャルワーカー協会 理事（2016年4月～）

(2) 講演等

- ・高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会「研究計画の立て方」講師（高知県：2016年8月17日）
- ・高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会「研究計画の立て方2」講師（高知県：2016年10月19日）
- ・高知県医療ソーシャルワーカー協会「平成28年度専門研修：つなぐ～ソーシャルワーカーとして大切にすべきもの」講師（高知県：2016年10月2日）
- ・高知県立大学社会福祉学部リカレント講座「保健医療機関に所属するソーシャルワーカーが行うアドボカシー支援」講師（高知県：2016年12月10日）

○総合評価と今後の課題

(1) 研究活動について

昨年度、提出した博士論文「中山間地域で暮らす要介護高齢者の医療福祉ニーズの構造とその関連要因」を発展させた分析を行い、現在学会誌へ投稿中である。また、新たな科学研究費補助金（若手研究B）の獲得にむけて申請を行った。

(2) 教育活動について

講義は、昨年に引き続きソーシャルワーク理論と実践現場の循環を意識して行った。保健医療サービスも制度紹介に留まらず、制度が制定された背景や制度をどのように活用をするのかについても理解できるように努めた。これにより、理解度が深まったようである。

実習教育は、実習後教育として実習前と実習後の自身の変化や知識の捉え方について考察し、実習体験の理解を深めた。

(3) 委員会活動・社会活動について

高知医療センター・高知県立大学包括的連携事業として、高知医療センターのソーシャルワーカーと来年度の共同研究の準備を行った。テーマを「退院支援加算1算定に向けての取り組みの現状と課題－質的評価指標の開発」として来年度の学会報告準備を進めている。

学内委員会活動に関しては、相談援助実習のコース助教主担当として円滑な実習が行えるよう心掛けた。また、学年担当として随時相談にのることができるように体制を整えて、サポートが必要な学生に対して迅速に対応することができた。

○研究活動

1. 論文

河内康文・宮上多加子・田中眞希（2016）「介護福祉士の職業経験と仕事の信念—経験学習論に基づく分析」『介護福祉教育』21(2), pp. 57-68.

田中眞希・宮上多加子（2017）「准看護師のキャリアと仕事及びケアに関する認識—福祉・医療現場で働く准看護師への調査を通して—」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』66, 37-50.

宮上多加子・田中眞希（2017）「看護専門課程で学ぶ学生の経験学習と仕事の信念に関する質的研究」『日本看護福祉学会誌』22(2), 67-79.

2. 学会発表

田中眞希・宮上多加子・河内康文：准看護師のキャリアと仕事及びケアに関する認識—福祉・医療現場で働く准看護師への調査を通して—, 第24回介護福祉学会大会（長野県上田市）, 2016年9月

田中眞希・宮上多加子・河内康文：社会人学生の学びを支援する教員の認識—介護福祉士, 准看護師, 保育士の比較—, 第23回日本介護福祉教育学会大会（石川県白山市）, 2017年2月

○教育活動

- ・介護の基本Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅰ
- ・生活支援技術Ⅲ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅲ
- ・介護実習Ⅱ
- ・障害の理解Ⅰ
- ・生活支援技術Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅳ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅲ

○委員会活動

- ・学部総務・予算委員会
- ・学部実習委員会
- ・学部学生委員会（18期生学年担当）
- ・学部国際交流委員会

○社会的活動

1. 委員等

- ・社会福祉法人ミレニアム 障害者支援施設 アドレス・高知 第三者委員
- ・ノーリフティングケア推進会議（高知県）委員
- ・高知県立大学同窓会しらさぎ会理事（奨学金担当）

2. 学外講師等

- ・高知工科大学「介護等体験事前指導」非常勤講師（6月18日）
- ・社会福祉法人 愛媛県社会福祉事業団 障害者支援施設 しげのぶ清流園「ノーリフティングケア研修」講師（3月3日、10日）
- ・卒業生のためのリカレント講座（7月9日、9月30日、1月28日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

講義及び演習では、グループワークを取り入れ、事例を用いた説明や視聴覚教材の使用など、学生が主体的に取り組めるように工夫した。また、リアクションペーパーなどを用いて授業の理解度を確認し、授業内容や教授方法の改善を図った。今後も、学生が授業に主体的に参加できるよう心がけたい。

新カリキュラム内容での介護総合演習Ⅲ、介護実習Ⅲなど、演習や実習の準備に迫られた。特に、介護実習Ⅲにおいては、実習日数が長くなったことにより介護過程の展開内容をより深めること、夜勤実習を取り入れるなど実習内容の変化もあった。そのため、実習先の指導者が混乱しないように、介護・社会福祉コース内での意識統一を図り、実習連絡協議会や事前に打ち合わせに行くなど、連絡を密にとり連携して行ったため大きな混乱はなく順調に実習を進めることができた。

次年度は、介護福祉士国家試験を受験する初めての年になるため、国試対策支援委員会や介護コース教員と共に早めに国試対策の環境を整えたい。

昨年度1月から今年度末まで、産休・育休暇に入った稲垣先生の代わりとして、18期生の学年担当を約1年間行った。井上先生や他の先生方のご助言を得ながら、なんとか務めることができたのではないかと考える。教員の退職など業務分担の関係で、次年度も引き続き18期生学年担当を行うこととなった。

2. 研究活動について

昨年度や今年度実施した調査結果を公表することができた。今年度は科学研究費助成事業の研究分担者として、保育士養成校の学生や教員に対して調査を行い、結果を分析した。次年度は、これらの分析をさらに進め結果を公表するなど、計画的に進めたいと考えている。

3. 社会活動について

昨年度からノーリフティングケア推進会議の委員として、高知県のケアの質向上を目的に行われている会議に参加している。会議には実習先の施設長や担当者、他の養成校の教員、専門職団体の代表者、県の担当者などが参加しており、ケアのあり方について、それぞれの立場で多様な意見を聞く機会となっている。改めて介護福祉について考える機会にするとともに、学生の教育に役立てたい。また、貴重な地域での活動の機会となるので、少しでも社会に貢献できる活動を行うように心がけたいと考えている。

二本柳 覚

Akira NIHONYANAGI

○ 研究活動

1. 論文

- 1) 二本柳覚 (2016) 「社会福祉実習導入教育におけるメンター配置の意義：受講生に対する、教員を比較対象としたアンケート調査から」(査読あり)『日本社会福祉教育学会誌』14, 3-11.
- 2) 上田恵理子・二本柳覚・長澤紀美子 他 (2017) 「高知県立大学社会福祉学部を中心とした避難所運営訓練の意義と課題」(査読あり)『高知県立大学紀要社会福祉学部編』123-133.

2. 著書

- 1) 二本柳覚編著 (2016) 「これならわかるスッキリ図解障害者差別解消法」翔泳社.

3. 学会発表

なし

4. 競争的資金の獲得

- 1) 科学研究費補助金（若手(B), 課題番号: 26780312, 平成 26-28 年度)
研究代表者：二本柳覚
研究課題名：「ソーシャルワーカー養成におけるケアマネジメント技術教育の確立に関する研究」
- 2) 科学研究費補助金（基盤 B), 課題番号 241390480, 平成 24-28 年度)
研究代表者名：山田覚
研究分担者：大川宣容・森下安子・川本美香・二本柳覚 他
研究課題名：「大規模自然災害に備えた地方大学による地域住民支援システムの構築」
- 3) 公益財団法人 大同生命厚生事業団 平成 27 年度地域保健福祉研究助成
研究代表者：白木裕子（株式会社フジケア）
共同研究者：中村高志（福岡教育大学）・二本柳覚（高知県立大学）
研究課題名：「認知症高齢者を支えるための介護支援専門員の支援の在り方に関する調査研究」

5. その他

- 1) 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会編 (2016) 「精神保健福祉士国家試験模擬問題集＜専門科目＞2017

○ 教育活動

- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ
- ・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
- ・精神保健福祉援助演習
- ・精神保健学
- ・地域学実習Ⅰ

○委員会活動

- ・教務委員
- ・広報委員
- ・情報処理委員
- ・実習委員
- ・災害対策プロジェクト災害対策連携部会
- ・国試対策支援委員会

○社会的活動

- 1) 講演・講座等
なし
- 2) 学会活動
 - ・日本学校ソーシャルワーク学会地区世話人

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

本年度は論文が2本、著書が1本であった。論文については年に1本のペースを死守することが出来、ほっとしているが、より活発な取り組みを行いたい。また、筆頭編著として一本上梓することができたことは労力を費やしたが良い経験となった。

科研費等外部資金の獲得については、科研費（若手B）の取り組みが3年目となったが、十分な研究体制を整えることができず、また年度途中より体調を崩したことにより実施ができなかったことが悔やまれる。

（2）教育活動について

本年度は前期終了時点で体調を崩し、科目全体を通した十分な学生指導ができたとは言いがたく、極めて悔いの残る結果となってしまった。

（3）その他

本年度途中より体調を崩し、結果として本年度末にて退職となることは、学生に対しても申し訳なく思うところであり、自身の不甲斐なさを感じる場所である。今後は体調を戻すことを第一優先とし、どこかで引き続き研究教育活動に携わることができればと考えている。

最後ではあるが、在学時には多数の皆様のご助力をいただいた。伏してお礼申し上げます。

橋 本 力

Chikara HASHIMOTO

○ 研究活動

1. 論文

「介護支援専門員と家族との協力関係 - 家族からの支援協力を得るにあたって必要となるプロセス -」、橋本力、『社会福祉学』、第 57 巻第 1 号、42-57

「介護老人福祉施設における介護職員のワーク・ライフ・バランスに影響を与える職場環境要因」、橋本力、『介護福祉学』、第 23 巻 1 号、30-38

「介護老人福祉施設における介護職員のワーク・ライフ・バランスと職務満足度および離職意向との関連」、橋本力、『老年社会科学』、第 38 巻 4 号、401-409

2. 競争的資金の獲得状況

平成 27 年度科学研究費助成事業（若手研究 B）「介護支援専門員のワーク・ライフ・バランスとその推進方策に関する実証的研究」、研究代表者 橋本力（平成 27～29 年度）

○ 教育活動

- ・相談援助実習指導
- ・相談援助演習
- ・高齢者に対する支援と介護保険制度
- ・ケアマネジメント論

○ 委員会活動

- ・実習委員
- ・広報委員
- ・入試実施委員
- ・キャリア支援委員
- ・国家試験対策委員

○ 社会的活動

- ・高校生のための公開講座

10 月に 1 回実施。会場：高知県立大学。

○総合評価及び今後の課題

研究活動

今年度は、介護職員のワーク・ライフ・バランス（以下、WLB）に関する調査結果をもとに、論文を執筆した。次年度は、科研費のテーマである介護支援専門員のWLBについて調査を実施する予定である。

教育活動

学生にとって、講義内容が理解しやすく、また学生自らが普段の生活と結びつけて考えることができる講義となるよう工夫を行った。次年度においては、今年度の課題点を精査し、学生にとってより良い講義となるよう改善していきたいと考えている。

社会的活動

今年度における社会的活動は、高校生を対象とした公開講座を実施した。次年度においては、自身の専門および研究成果等を地域や福祉現場へ還元できるよう、自己研鑽に努めていきたいと考えている。

Ⅲ

社会福祉学部教員の委員会活動
(委員会活動報告書)

2016年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

全学	学部	構成メンバー					
地域教育研究センター		田中 きよむ (地域課題研究部会長)	西内 章 (産学官研究部会)	西梅 幸治 (キャリア支援部会)	三好 弥生 (共通教育部会)	福間 隆康 (生涯学習部会)	
全学 プロジェクト	災害対策	長澤 紀美子 (学外 部会長)	中島 洋	二本柳 覚 (学内連携部会)	上田 恵理子		
	創基70周年 記念事業委員会	長澤 紀美子	河内 康文				
	大学改革(高大接続)	宮上 多加子	杉原 俊二	鈴木 孝典			
	職業実践育成 プログラム(BP)	福間 隆康					
	人事関係検討会	宮上 多加子	田中 きよむ	杉原 俊二	長澤 紀美子	丸山 裕子	
	実習委員会	丸山 裕子 (実習委員長)	西梅 幸治 (社会福祉士コース 主担当)	鈴木 孝典 (精神保健福祉士 コース主担当)	三好 弥生 (介護福祉士コース 主担当)	鈴木 裕介 (社福 助教リーダー)	二本柳 覚 (精神 助教リーダー)
		田中 眞希 (介護 助教リーダー)	加藤 由衣	橋本 力	上田 恵理子	片岡 妙子	
	総務・予算委員会	西梅 幸治	宮上 多加子	中島 洋	河内 康文	田中 眞希 (助教リーダー)	鈴木 裕介
	キャリア支援委員会	西梅 幸治	鳩間 亜紀子	橋本 力			
	国試対策支援委員会	遠山 真世	井上 健朗	加藤 由衣 (助教リーダー)	鈴木 裕介	橋本 力	二本柳 覚
	倫理審査委員会	丸山 裕子	田中 きよむ	長澤 紀美子	中島 洋		
研究倫理委員会	宮上 多加子						
研究活動 不正防止委員会	宮上 多加子						
自己点検・評価運営委員会	宮上 多加子	杉原 俊二	長澤 紀美子	西内 章	西梅 幸治		
教務委員会	西内 章	田中 きよむ	三好 弥生	鳩間 亜紀子	加藤 由衣 (助教リーダー)	二本柳 覚	
FD委員会	長澤 紀美子						
入学試験委員会	宮上 多加子						
入学試験実施委員会	鈴木 孝典 (入試実施副委員長)	鳩間 亜紀子	福間 隆康	橋本 力 (学部入試委員)	片岡 妙子 (学部入試委員)		
大学入試センター試験実施委員会	福間 隆康						
入学試験監査委員会	田中 きよむ	遠山 真世					
学生委員会		遠山 真世	丸山 裕子	山村 靖彦	井上 健朗		
		加藤 由衣	鈴木 裕介	田中 眞希 (ボランティア担当)	上田 恵理子 (ボランティア担当)		
	就職委員会	丸山 裕子	西内 章	三好 弥生	遠山 真世	加藤 由衣	
広報委員会	広報委員会	山村 靖彦 (大学案内・オープンキャン パス等専門委員会)	河内 康文	橋本 力	上田 恵理子 (助教リーダー)		
	入試広報部会	鈴木 孝典	長澤 紀美子	西内 章	鳩間 亜紀子	加藤 由衣	
	介護人材確保事業部会	河内 康文	中島 洋	福間 隆康	橋本 力		
図書部会	中島 洋						
総合情報センター 運営委員会	井上 健朗						
情報処理部会	情報処理委員会	井上 健朗	鈴木 裕介	二本柳 覚			
国際交流センター運営委員会	長澤 紀美子	田中 眞希					
人権委員会	鳩間 亜紀子						
紀要委員会	杉原 俊二						
健康長寿センター運営委員会	井上 健朗	中島 洋	二本柳 覚	片岡 妙子			
土佐市連携事業「地域ケア会議推進P」 高知県中山間地域等訪問看護師育成講座 退院調整体制推進事業	井上 健朗						
医療センター連携事業 健康長寿・地域医療連携部会	宮上 多加子						
医療センター連携事業 看護・社会福祉連携部会	宮上 多加子	井上 健朗	鈴木 裕介				
健康管理センター運営委員会	遠山 真世						
大学院(M)	講義	宮上 多加子 (講義+主査)	田中 きよむ (講義+主査)	杉原 俊二 (講義+主査)	長澤 紀美子 (講義+主査)		
	委員会	丸山 裕子 (講義+主査)	西内 章 (講義+主査)	鈴木 孝典 (講義+主査)	山村 靖彦 (講義+副査)	鈴木 孝典 (学務)	山村 靖彦 (入試)
大学院(D)	講義	田中 きよむ (学位審査/入試監査)	杉原 俊二 (研究科長)	丸山 裕子 (人権)	西内 章 (広報)		
	委員会	宮上 多加子 (講義+主査)	杉原 俊二 (講義+主査)	長澤 紀美子 (講義+主査)			
	DNGL(災害看護M+D)	長澤 紀美子					

: 全学委員
 : 学部委員長

教 務 委 員 会

西 内 章

（１）教務委員会の開催

平成 28 年度は、卒業研究論文の位置付け、卒論構想発表会の開始時期等について継続的に審議を行い、学部教務委員会を平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月までに、臨時教務委員会 2 回を含めて計 14 回開催した。非常勤講師や予算の審議など教務関連の検討を行った。特にゼミについては臨時教務委員会を 2 回開催して集中的に協議し原案を作成した。その原案について教授会で審議した結果、卒業研究論文はこれまでどおり、ゼミと関連して実施することになり、卒論構想発表会については 4 月の最終週に実施することになった。

（２）英語の外部試験による単位認定、他大学で取得した単位認定の手続き

全学教務委員会及び共通教育部会と連携して、英語の外部試験による単位認定、他大学で取得した単位認定の手続きについて、平成 29 年度から単位認定を実施できるように準備を進めた。

（３）新カリキュラムの実施に伴う科目配置、年次移行スケジュール

平成 25 年度に行ったカリキュラムの改正を実施するために、平成 28 年度も科目配置、年次移行を検討した。平成 29 年度の開講科目について、科目間の関連性を再検討し、学部科目の一部について開講時期を前期開講から後期開講へ変更した。

（４）卒業研究論文に関する発表会の開催

『卒業研究論文執筆のてびき』を作成し、卒業研究論文の具体的な進め方を示した。また、卒論構想発表会を 5 月 18 日（水）、卒論中間発表会を 10 月 26 日（水）、卒論発表会を 2 月 8 日（水）に実施した。3 回生後期の 1 月に行っている卒業研究論文の「仮テーマ」の提出時に、学生に社会福祉学部以外の専任教員から指導を受けるか否かの希望をとったが、社会福祉学部以外の希望する学生は 0 名であった。

（５）卒論研究論文の研究終了届の提出

昨年度から「卒業論文集掲載承諾書」の提出を義務づけることにしているが、平成 28 年度から、倫理審査に関連して研究終了報告の内容を同書類に加えることになり様式を整えた。そして、平成 28 年度卒業生から実施した。

（６）次年度のゼミ配属についての調整

例年通り、12 月に『平成 29 年度社会福祉専門演習選択資料』を作成し、2 回生へ配布と説明をした。そして 1 月にゼミ希望をまとめた。次年度は、ゼミ担当教員が 16 名となるが、例年通り 1 ゼミあたり 6 名目安として調整した。

（７）学習到達度アンケート調査および授業に関するアンケート調査の実施

平成 29 年 2 月に卒業年次生（16 期生）を対象とした「学習到達度アンケート調査」と、1～4 回生を対象とした社会福祉学部独自の「授業に関するアンケート調査」を実施した。調査結果については、3 月の教授会で報告し、次年度に向けて記載のあった授業について必要な箇所を改善することにした。

（８）学部研究生の受け入れ

平成 28 年度は「高知県立大学研究生規程」に従って、大学教務支援部と協議して研究生受け入れの手続きを確認し、研究生願書や履歴書など必要書類を審議した結果、平成 29 年度は、新たに学部研究生 2 名を受け入れることになった。学部の指導体制や授業科目の聴講について、学部内で担当教員を中心にその整備に取り組んだ。

（９）今後の課題

平成 29 年度は、新カリキュラムの移行スケジュールが終了する年度になるため、これまで 4 年間で取り組んだ授業科目の配置について、次年度は一定の評価を行いたい。また、次年度は、社会福祉士、精神保健福祉士のカリキュラム改正が予定されているため、厚生労働省のスケジュールを確認しながら、本学部にあった教育カリキュラムを構築していきたい。

入 試 委 員 会

鳩 間 亜 紀 子

○ 委員会の体制

全学入試委員会を宮上多加子学部長，全学入試実施委員を鈴木孝典准教授（全学入試実施委員会副委員長）・福間隆康講師（センター試験部会委員）・鳩間（学部委員長），学部入試委員を片岡妙子助教，橋本力助教が担当した。

今年度より，学部広報委員会に入試広報部会が設置され，高校訪問をはじめとする活動が本格的に開始された。

○ 平成 29 年度入試の概況

区 分	募集人員 A	男女別	志願者数 B		受験者数 C		合格者数 D		追加合格者数		入学手続者数		辞退者数	入学者数		志願倍率	合格倍率	
			全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)		全体	(県内)	B/A	C/D	
推薦	一般県内	20	男	5	5	5	5	3	3			3	3	0	3	3	-	1.7
			女	22	22	22	22	17	17			17	17	0	17	17	-	1.3
			計	27	27	27	27	20	20			20	20	0	20	20	1.4	1.4
	一般全国	10	男	6	0	6	0	2	0			2	0	0	2	0	-	3.0
			女	24	1	24	1	8	1			8	1	0	8	1	-	3.0
			計	30	1	30	1	10	1			10	1	0	10	1	3.0	3.0
計	30	男	11	5	11	5	5	3			5	3	0	5	3	-	2.2	
		女	46	23	46	23	25	18			25	18	0	25	18	-	1.8	
		計	57	28	57	28	30	21			30	21	0	6	21	1.9	1.9	
個別	前期	35	男	29	5	28	5	6	0	0	0	6	0	0	6	0	-	4.7
			女	65	17	63	17	34	11	0	0	27	11	0	27	11	-	1.9
			計	94	22	91	22	40	11	0	0	33	11	0	33	11	2.7	2.3
	後期	5	男	23	4	15	4	1	1	0	0	1	1	0	1	1	-	15.0
			女	45	16	21	4	7	0	0	0	7	0	0	7	0	-	3.0
			計	68	20	36	8	8	1	0	0	8	1	0	8	1	13.6	4.5
	計	40	男	52	9	43	9	7	1	0	0	7	1	0	7	1	-	6.1
			女	110	33	84	21	41	11	0	0	34	11	0	34	11	-	2.0
			計	162	42	127	30	48	12	0	0	41	12	0	41	12	4.1	2.6
社会人	若干人	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
		女	3	3	3	3	2	2	0	0	2	2	0	2	2	-	1.5	
		計	3	3	3	3	2	2	0	0	2	2	0	2	2	-	1.5	
私費外国人留学生	若干人	男	2		1		1				1		0	1		-	1.0	
		女	1		1		1				0		0	0		-	1.0	
		計	3		2		2				1		0	1		-	1.0	
合計	70	男	65	14	55	14	13	4	0	0	13	4	0	13	4	-	4.2	
		女	160	59	134	47	69	31	0	0	61	31	0	61	31	-	1.9	
		計	225	73	189	61	82	35	0	0	74	35	0	74	35	3.2	2.3	

- ・ 前期試験の課題図書:伊藤亜紗(2015)『目が見えない人は世界をどう見ているのか』光文社
- ・ 入学手続者の県内率:47.3%

委員会活動年度報告書（入試委員会）

○ 平成 29 年度入試の特徴

1. 前年度と比べ志願倍率の減少が目立った。志願倍率、合格倍率ともに、平成 25 年度入試からほぼ減少傾向にある。入学手続き者の県内率は、年度ごとに増減を繰り返しているものの、前年度と比べ増加している（下表）。

	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
志願倍率	3.2	4.7	4.4	5.1	5.9
合格倍率	2.3	2.9	3.2	3.6	3.9
手続き者の県内率(%)	47.3	42.1	39.7	46.6	41.1

2. 推薦入試の全国枠への県内からの出願（平成 23 年度から実施）については、1 名の出願があった。
3. 社会人入試については 3 名の出願があり、2 名を合格とした。
4. 私費外国人留学生入試については 3 名の出願があり、2 名を合格とした。

○ 課題

1. 本学部を志願数は、昨年度と比較し減少したものの、入学手続き者の県内率は向上している。その背景として、昨年度より試行的に開始した入試広報に関する取り組みを本格化し、特に県内高校への広報活動など一定の功を奏したと推察される。今後は県外の高校を対象とした入試広報が課題である。学部広報委員会と協力し、引き続き、高校における進路指導の実態や大学志願者の志願傾向について情報を収集し、今後の広報活動に役立てる。
2. 入試の実施体制（試験問題の作成およびチェック体制、入試関係資料の管理方法、当日の運営体制など）については課題を検討し、受験者に不利益が生じないように引き続き改善を図る。
3. 私費外国人留学生入試の実施体制（出願資格のチェック体制、当日の運営体制など）と選抜方法（面接試験の最低評価基準、語学力を試験で確認するための選抜方法など）について、国際交流委員の助言等をふまえて検討する。
4. 障害を有する受験者への受験上の配慮について、受験者に不利益が生じないように引き続き検討し、入学後の受け入れ体制の整備に円滑につなげる。

学 生 委 員 会

遠 山 真 世

○ 活 動 方 針

学生委員会は、学生の福利厚生の上昇、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

○ 活 動 内 容

1. 相談活動

学生のメンタルヘルス、悩み事などの相談は、学年担当教員を中心に、実習担当教員やゼミ担当教員とも情報を共有しつつ対応した。緊急時や対応が困難な場合は、健康管理センターや学生・就職支援課とも連携し、解決に取り組んだ。

健康管理センターが実施する、精神科医師、心理カウンセラー、婦人科医師、保健師、による専門相談について、ガイダンスや掲示を通して学生に利用形態や利用時間等の情報を提供した。

2. 経済的援助に関する対応

学生からの個別相談に応じ、適宜、授業料の免除や各種奨学金の申請などについて、学生・就職支援課と連携し、情報提供及び手続き支援を行った。

3. 事故・事件への対応

近年、交通事故や事件の多い状況が続いており、交通安全講習会やストーカー・サイバー犯罪対策セミナーの開催など全学的に対応が行われた。特に、サークル等の課外活動における安全管理を強化するための仕組みについて検討された。本学部でも、学年担当を通じて注意喚起や情報収集・提供を積極的に行った。

4. 感染症への対応

配属実習にあたって、四種（麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜ）抗体検査、B型肝炎抗体検査を実施、情報提供を行った。次年度からの抗体検査実施体制の変更に向けて、実習で必要となる書類を確認したうえで学部の実施体制を見直した。

5. 障害のある学生への支援体制の整備

障害のある学生に対して、学年担当教員を中心に本人との相談を行い、必要な支援について検討・実施した。その経験をふまえ、全学的な支援体制づくりへの提案を行った。

○ 今 後 の 課 題

今後も引き続き、学年担当教員を中心に日ごろの関わりを通して学生の状況を把握し、必要に応じて学部教員や健康管理センター、学生・就職支援と連携しつつ、個々の学生に対する支援や体制づくりを行っていきたい。障害のある学生については、見学訪問や配属実習に向けて、学生本人との相談をふまえ、学外の機関・施設と調整・連携する必要がある。学部定員が70人になって以降、学生の質やニーズも多様化し、学習面・経済面・生活面・関係面など、さまざまな相談や支援の必要性が増大している。また、プライバシー保護の観点から、学生の課題について学部内での共有がしにくい状況となっており、学年担当教員の負担や責任が大きくなっている。今後は、学年担当の役割や体制のあり方について、学部での見直しも必要であると考えている。

実 習 委 員 会

丸 山 裕 子

1. 実習委員会の活動目的

本年度は、介護・社会福祉コースを履修する学生を4回生で実習を送り出す最後の年度となった。次年度からは、社会福祉学部の学生全員が相談援助実習を3回生で実施するとなる。過渡期となった今年度は、89名と多くの実習生を送り出すこととなった。

入学年度により実習関連科目の進行が異なったため、三福祉士の実習については、学生や実習先ときめ細かな連絡調整を行いながら、実習科目を円滑に実施するよう努めた。

2. 配属実習の内訳

本年度の実習生は、相談援助実習で89名（昨年度69名）、精神保健福祉援助実習が27名（同26名）、介護実習Ⅰは15名（同24名）、介護実習Ⅱが23名（同19名）、介護実習Ⅲは、18名（同Ⅱ-②20名）、であった。

相談援助実習89名の内訳は、社会福祉協議会32名、病院（精神科除く）12名、児童相談所9名、児童養護施設9名、児童家庭支援センター3名、児童自立支援施設5名、母子生活支援施設1名、特別養護老人ホーム2名、介護老人保健施設2名、養護老人ホーム3名、小規模多機能型居宅介護1名、指定相談支援事業所1名、療養介護事業所・医療型障害児入所施設3名、障害児通所支援事業所1名、障害福祉サービス事業所5名、障害者支援施設3名、相談支援事業所等3名であった。

精神保健福祉援助実習の27名の内訳は、精神科病院27名、精神保健福祉センター2名、障害福祉サービス事業所16名、地域活動支援センター4名、福祉事務所1名、障害者地域生活支援事業（指定相談支援事業）4名であった。

介護実習の内訳は、介護実習Ⅰ15名では、特別養護老人ホーム15名、障害者支援施設3名、生活介護事業所9名、多機能事業所3名、通所介護事業所3名、訪問介護事業所3名、小規模多機能型居宅介護事業所15名であった。介護実習Ⅱ23名では、特別養護老人ホーム15名、障害者支援施設5名、重症心身障害児者施設3名であった。介護実習Ⅲ18名では、特別養護老人ホーム10名、地域密着型介護老人福祉施設3名、重症心身障害児者施設2名、障害者支援施設3名であった。

3. 実習連絡協議会

各実習先の実習指導者と配属実習のあり方や具体的な進め方、連絡調整を図るために、今年度も実習連絡協議会を開催した。平成28年10月31日（月）に介護福祉実習連絡協議会を実施した。続いて、平成29年3月7日（火）は、相談援助実習連絡協議会を開催、平成29年3月15日（水）には、精神保健福祉援助実習連絡協議会をそれぞれ開催した。今年度も各施設・機関の実習に関する意見を十分に聴取し、次年度に反映させていくことを確認した。

4. 円滑な実習体制づくり

相談援助実習・精神保健福祉援助実習・介護実習の3福祉実習を円滑に進めていくため、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士それぞれのコース責任者の教員と、実習委員会として会議を開催し、科目履修や配属実習に関連する申し合わせ、実習のてびきの作成要領について審議・協議を行った。

教育研究活動報告書（実習委員会）

また例年通り、福祉実習支援室を担う各福祉実習担当助教と福祉実習支援室長、実習委員長との連絡会議を月1回実施し、実習事務や福祉実習支援室に関わる業務の充実を図った。

5. 成果と課題

（1）実習のてびきの改善

昨年度から、実習のてびきを「相談援助実習」・「精神保健福祉援助実習」・「介護福祉実習」に分けて作成することとなった。

今年度は、本学の2階建て実習の1階部分にあたる「相談援助実習」を基礎として、2階部分である「精神保健福祉援助実習」「介護福祉実習」との関連に留意し、各コースにおいて三福祉士実習全体の体系化や整合性を考慮しつつ、改訂作業を行った。

なお、それぞれの実習のてびきは、他資格の履修科目について説明を加えるなど今後も内容を検討して改善していきたい。

（2）福祉実習支援室の体制づくり

配属実習の円滑な実施には、福祉実習支援室の機能が重要である。今年度も実習担当助教の教員による努力と創意工夫により、大きな問題もなく実習事務を終えることができた。実習先との連絡や書類のやりとりだけでなく、学生達の相談窓口にもなっている。福祉実習支援室の開設以来7年が経過し、実習委員会としても福祉実習支援室の活用方法について今後も検討したい。

就 職 委 員 会

丸 山 裕 子

1 社会福祉学部の就職活動支援

（1）就職ガイダンス等の実施

- ・オリエンテーション（2016年4月5日）
- ・家庭裁判所調査官職場見学，同行（2016年4月5日）

（2）個別相談等

学生課ワクワク Work!!と連携しつつ、ゼミ担当教員が中心となり、個々の学生の就職希望先に応じて、各コース教員やそのフィールドにおける実践経験を有する教員なども加えて、4回生の進路相談、履歴書の添削、面接練習等を行った。近年、国家試験の可否によって内定取消になるケースが増加傾向にあるため、国試対策支援委員会とも連携し学生の意識づけを行いつつ、内定先への確認や相談を促すようにした。3回生以下の学生に対しては、学部就職委員と学年担当教員が連携し、全学学生対象の就職ガイダンスへの周知および参加の呼びかけを行った。

（3）情報提供

学生課ワクワク Work!!が行う情報提供以外に、学部生向けの求人票を2階談話コーナーに掲示し、各教員宛に相談があった求人情報もあわせ情報提供した。今年度は、特に学生が主体的に情報を収集できるように、求人情報を領域別、地域別を組み合わせた分類とする等、整理と掲示方法を工夫した。

また、3回生になった時点で、卒業論文・就職活動・国家試験を視野にいれつつ、「後半2年間の大学生活をどのように送るのか」をイメージするよう意識づけを行い、学年担当2名が同席し全学生と面談した。

さらに、4回生では、就職活動等を通して、学生が自分自身と向き合い、将来どう生きていきたいのかについて主体的に考えることができる機会となるよう意図し、学年担当教員2名が同席し全学生と面談を実施した。

また、ゼミ担当教員を中心とした社会福祉学科の教員には、各学生の職業選択に迷い、悩む過程への支援を依頼した。

2 進路状況

就職希望者：71名（全員就職決定）

就職内定先：	① 企業	10名（14%）
	② 公務員等	11名（16%）
	③ 医療機関	10名（14%）
	④ 社会福祉協議会	8名（11%）
	⑤ 福祉施設等	32名（45%）

卒後勤務地：高知県内 30名（42%），高知県外 41名（58%）

3 今後の課題

学生への情報提供や就職支援に関しては、今後も学生課ワクワク Work!!との連携が重要である。

広 報 委 員 会

山 村 靖 彦

○本年度の取り組み

本年度の広報委員会は、山村、河内講師・橋本助教・上田助教が担当した。

（１）「大学案内」の編集・製作

2018年度版「大学案内」の作成に伴い、社会福祉学部の紹介ページでは、国家試験合格率および就職状況について最新情報へ更新した。

（２）オープンキャンパス：7月31日（日）

社会福祉学部では、学部全体説明会、教員／先輩との談話室、体験授業（河内講師）、ゼミ室訪問、介護体験、サークル紹介、学部棟見学ツアーなどのプログラムを実施した。参加者数は194名で、前年度と比べ107名増加した。

（３）在学生による出身高校訪問

夏季休業期間中に、県外出身の学生が出身高校を訪問し、大学・学部PRを行う取り組みを継続して実施している。本年度は1回生21名が出身高校を訪問して、学部での学習や大学生活などについてPRを行った。

（４）キャンパス訪問への対応

高校生や進路指導教員による学部訪問（県内外10校）に対応した。学部紹介、介護実習室の見学、訪問校出身学生によるメッセージ、事例検討のグループワーク体験などを行った。

（５）出向型説明会・講座の実施

県内外4校へ出向き、学部および社会福祉分野の説明・講義等を行った。

（６）学部パンフレットの作成

昨年度から企画していた学部パンフレットを一新した。

（７）学部ホームページ

学部ホームページの新規製作の検討を始めた。2017年度の早期には新しく開設する予定である。

○今後の課題

本年度は、昨年度と比べオープンキャンパスへの参加者数が大幅に増加した。近年、オープンキャンパスへの参加状況は、当該年度の受験者数へも影響を及ぼす結果となっていることから次年度も工夫を凝らし、力を注ぎたい。

今年度は、入試広報部会と介護人材確保事業部会との協働関係の礎が築けた年度でもあった。入試広報を視野に入れた両部会との綿密な連携は不可欠であることから、今後も強化に努めていきたいと思っている。

また、上記のとおり本年度は学部パンフレットの新規作成を行ったが、さらに来年度はホームページの新規開設を計画している。このように、広報に関しては、毎年何らかの戦略を掲げて取り組んでいくことが重要であると考えている。

介護人材確保部会

河内 康文

1. 集合型研修 第1回高校生と保護者のための公開講座

- 開催日時：平成28年9月17日（土曜日） 10:30～12:00
- 開催場所：高知県立大学永国寺キャンパス 教育研究棟A101
- 講師：西内章（社会福祉学部 准教授）、シンポジスト：今村文哉氏（高知市社会福祉協議会）、横山知和氏（高知県立あき総合病院）、北川侑子（高知県立大学4回生）
- 対象：高校生と保護者 ○参加者数：58人

（1）事業概要

高校生とその保護者等に対して、福祉・介護分野におけるキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した。大学教員と、福祉・介護分野で働くキャリアが異なる専門職および高知県立大学社会福祉学部生の4名が、社会福祉の機能や社会福祉専門職の役割やキャリアについて具体的な事例を出しながら、シンポジウム形式の講座を行なった。

（2）活動成果

アンケート集計結果からは、参加者数37名中36名が福祉・介護のイメージが良くなったという回答があった。また、同アンケートから、「福祉・介護は、様々な分野で活躍することができる場がある」、「今まで知らなかった仕事として関心を持つことができた」という主旨の記述が見られた。

（3）活動評価

参加者は、高校生が主であった。今後は、保護者がより参加できるような内容や広報の在り方の検討が必要である。

シンポジウムでは、本事業の趣旨に対する参加者の理解度が高かった。福祉・介護分野で働くためのキャリアが示されたことで、参加者の高校生には、よりわかりやすく伝わったと思われる。シンポジストには、社会福祉学部の卒業生・学生が参加しており、日頃の学びや実践を振りかえる意義深い機会になった。



卒業生によるシンポジウム



熱心に話を聞く高校生

2. 集合型研修 第2回高校生と保護者のための公開講座

○開催日時：平成28年10月23日（日曜日） 11:00～14:45

○開催場所：高知県立大学池キャンパス 本部・健康栄養学部棟A306等

○講師：社会福祉学部：中畷洋准教授，河内康文講師，福間隆康講師，橋本力助教
ゲスト講師：福島富雄氏（脳卒中リハビリテーション研究所）

○対象：高校生と保護者 ○参加者数：65人

（1）事業概要

高校生とその保護者等に対して，大学教員が福祉・介護領域の学問的な講義を総論的に行なった。その後，福祉・介護領域の学際的な内容と演習の理解を目的として，高校生の関心に応じた選択制の各論的演習（3コース）を行なった。

（2）活動成果

アンケート集計結果からは，「福祉の歴史を学び，福祉・介護について深く考えさせられた」，「わかりやすい授業で，福祉への興味が広がった」，「このような企画が多くあれば，福祉への関心を持つ人が増える様に思う」などの記述が見られた。

（3）活動評価

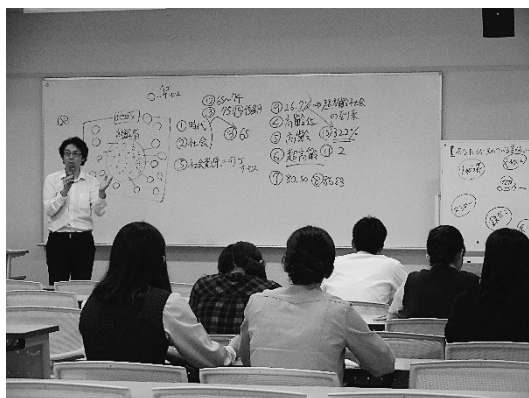
当日は，大学祭期間の開催となった。高校生と保護者は，大学での社会福祉に関する講義・演習の実際と，学生の活気あふれる大学の雰囲気を理解できた。運営面では，大学祭と同時開催だったため，大学祭運営側との打ち合わせが重要であった。



「歴史から福祉・介護を考える」



「農福連携による地域活性化」



「超高齢社会とその支援」



「要介護当事者体験から
心理的バリアを考える」



社会福祉の事を
わかりやすく
お話し
いたします。

平成28年度 高知県キャリア教育推進事業

高校生と保護者のための公開講座

9.17_{sat} 10.23_{sun}

会場：高知県立大学 池キャンパスと永国寺キャンパス

高知県立大学→交通アクセスをご覧ください。 <http://www.u-kochi.ac.jp/>

駐車場はございません。公共交通機関等でお越しください。

高知県立大学創基70周年記念事業・社会福祉学部公開講座
9月17日【土】福祉でくらしの安心を繋ぐ・支える
生活者の視点からみた老齢年金・障害年金制度の課題



主催／高知県立大学 社会福祉学部 後援／高知県社会福祉協議会、高知県社会福祉士会、高知県精神保健福祉士協会、高知県介護福祉士会（順不同）



高知県立大学 社会福祉学部

平成28年度 高知県キャリア教育推進事業



高校生と保護者のための 公開講座

参加費無料 講座1、講座2は、それぞれ会場が違いますのでご注意ください。

<p>講座 1</p> <p>2016年 9月17日[土]</p> <p>会場:高知県立大学 永国寺キャンパス 教育研究棟 1F A101 高知城近郊 〒780-8515 高知県高知市永国寺町2-22</p> <p>高知県立大学→交通アクセスをご覧ください。http://www.u-kochi.ac.jp/ 駐車場はございません。公共交通機関等でお越しください。</p> <p>10:30-12:00</p> <p>西内 章 先生 (社会福祉学部) と 卒業生のシンポジウム</p> <h2>「域学共生と福祉」</h2> <p>域学共生とは、地域と大学が互いに手を携え、教え合い、学び合い、育ち合いながら、高知県の地域の再生と活性化を実現したいという思いを込めた言葉であり、地「域」と大「学」が「共」に「生」きていくという考えです。</p> <p>講座1.2の受講申し込み方法</p> <p>別紙受講申込書に必要事項をご記入の上、高校の先生を通じてお申込みください。 ファックスの場合/Fax.088-847-8672 郵送の場合/高知県立大学 〒781-8515 高知県高知市池2751-1</p> <p>受講申込書の無い方は、学校名、学年、お名前、希望講座を 明記の上、右のQRコードからメールでお申込みください。</p> <p>※保護者のお申込みは不要です。ご一緒に参加ください。</p> <p>申し込み締切 講座1/8月31日[水] 必着 講座2/9月30日[金] 必着</p>	<p>講座 2</p> <p>2016年 10月23日[日]</p> <p>会場:高知県立大学 池キャンパス 本部・健康栄養学部棟 高知医療センター近郊 3F A306 〒781-8515 高知県高知市池2751-1</p> <p>高知県立大学→交通アクセスをご覧ください。http://www.u-kochi.ac.jp/ 駐車場はございません。公共交通機関等でお越しください。</p> <p>関心のあるA~Dの講座を選択して受講してください。 ※B・C・Dは2つ以内で選択</p> <p>特別講義 11:00-12:00</p> <p>A 中 蔭 洋 先生 (社会福祉学部) 「歴史から福祉・介護を考えるー ホームヘルプ事業史とその継承」</p> <p>選択講義 1部/13:00-13:45 2部/14:00-14:45</p> <p>B 福岡 隆康 先生 (社会福祉学部) 「農福連携による地域活性化」</p> <p>C 橋本 力 先生 (社会福祉学部) 「超高齢社会とその支援」</p> <p>D 河内 康文 先生 (社会福祉学部) 「要介護当事者体験から心理的バリアを考える」</p> <p>※両日とも、入試相談会を予定しています。 10月22日、23日は紅葉祭(大学祭)を、池キャンパスで開催します。</p>
--	--

高知県立大学創設70周年記念事業・社会福祉学部公開講座

福祉でくらしの安心を 繋ぐ・支える

生活者の視点からみた老齢年金・障害年金制度の課題

2016年 **9月17日[土]** 13:30~16:30

会場:高知県立大学 永国寺キャンパス

教育研究棟 1F A101 220名

〒780-8515 高知県高知市永国寺町2-22

高知県立大学→交通アクセスをご覧ください。http://www.u-kochi.ac.jp/

駐車場はございません。公共交通機関等でお越しください。

受講料無料、申込み不要



高知県立大学 社会福祉学部 お問い合わせ Tel.088-847-8610

主催/高知県立大学 社会福祉学部 後援/高知県社会福祉協議会、高知県社会福祉士会、高知県精神保健福祉士協会、高知県介護福祉士会(順不同)

●主催者挨拶 13:30~13:40

●基調講演 13:40~14:40

駒村 康平氏

廣島義塾大学 経済学部教授
「社会保障の未来—年金制度の議論を中心に—」

●シンポジウム 15:00~16:30

パネリスト

田中 きよむ氏

高知県立大学 社会福祉学部教授
「生活者の視点からみた、わが国の老齢年金の課題」

青木 聖久氏

日本福祉大学 福祉経営学部教授
「精神・知的・発達障害のある人の暮らしと障害年金
—「精神の障害」の障害年金制度の現状と課題を通して—」

石川 智氏

ファイナンシャル・プランナー FP事務所「オフィス石川」代表
「家計経営からみた年金制度の活用と課題」

司会・コーディネーター/田中きよむ氏
コメンテーター/駒村康平氏

少子高齢化が進む中で、私たちは「将来いくら年金を受け取れるか」「保険料の負担はどうなるか」という共通した関心を持っている。とりわけ、近年の改革における「マクロ経済スライド」「老齢年金支給開始年齢の繰り延べ」「低所得の高齢者・障害者等への福祉的な給付」「老齢年金支給資格の短縮」等がわれわれの暮らしにどのような影響を及ぼすのかを理解し、生活者として主体的に社会保障制度を権利として利用するという視点、および少子高齢化の下での世代間の公平性や持続可能性の視点から、老齢年金制度の現状と課題を考えてみたい。

一方で、障害のある人、とりわけ精神障害や制度の谷間にある障害をもつ人の中には無年金者もあり、障害の受容・診断の問題に加えて制度の理解不足もあり、重要な所得保障である障害年金が十分に活用されていない現状がある。さらに、障害年金の認定(支給・不支給判定)の基準、地域差の問題や、新指針に基づく支給停止・減額問題もある。

年金問題といわれわれの生活にとって切実な問題について、以上の点から多角的に検討し、議論を進めつつ、今後の制度改革の方向を考えていきたい。

3. 訪問型研修（計5回）

○開催日時：場所

- (1) 平成28年10月28日（金曜日） 16:00～17:00 : 山田高等学校
- (2) 平成29年2月2日（木曜日） 16:00～17:00 : 岡豊高等学校
- (3) 平成29年2月3日（金曜日） 16:30～17:30 : 安芸高等学校
- (4) 平成29年2月23日（木曜日） 14:30～15:30 : 嶺北高等学校
- (5) 平成29年3月13日（月曜日） 14:30～16:00 : 高知南高等学校

○講師：社会福祉学部：山村靖彦准教授（4），井上健朗講師（1），
河内康文講師（2）（3）（5）

○対象：高校生

○参加者数：計111人

（1）事業の概要

高校生に対する社会福祉の概要理解を目的に、高知市外の高等学校に訪問し、大学教員が理論、学生が大学での学びの実際を説明した。

（2）活動成果

アンケート集計結果からは、「将来の夢がソーシャルワーカーなので今日の講座や模擬ソーシャルワークは勉強になった」、「相談者の話を上手く聞く方法を実際に見て、聞いて、体験できたことがすごく印象に残っている」、「先輩たちが話しているとき、本当に親身になって聞いていてすごいなと思い、自分もこうなりたいと思った」などの回答があった。

（3）活動評価

アンケート集計結果から高校生からの評価は、総じて高かった。高校生と年齢が近い大学生が大学で実際に学んでいる福祉の技法を展開し、大学教員が理論的な側面を裏づけることにより、高校生にとってより高い学びの効果が得られたと思われる。

今年度からの事業であり、この事業の周知には時間を要した。今後は、今年度の実績を踏まえ、より広範囲かつ遠隔地での取り組みが必要である。



福祉・介護のやりがいを語る



グループワーク技法の体験

委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）

(3) アンケート結果

高知県立大学 社会福祉学部 訪問型講座アンケート(5校まとめ)			[全97枚]																		
1 あなたの学年と性別を教えてください。			2 この公開講座のことをどこでお知りになりましたか？			3 この公開講座の開催日は適切でしたか？															
学年	1年	31	高校の掲示版	16	適切だった	80	2年	49	進路指導の先生	47	適切でなかった	1									
	3年	9	大学の広報	1	どちらともいえない	14	保護者	7	友人・家族	3	未回答	2									
	未回答	1	その他	29	未回答				未回答	1											
性別	男性	34																			
	女性	52																			
	未回答	11																			
4 講座の前と後の、福祉・介護のイメージなどを教えてください。																					
講座前						講座後															
①福祉・介護のイメージについて																					
<table border="1"> <tr><td>良いイメージだった</td><td>42</td></tr> <tr><td>悪いイメージだった</td><td>10</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>42</td></tr> <tr><td>未回答</td><td>3</td></tr> </table>			良いイメージだった	42	悪いイメージだった	10	わからない	42	未回答	3	<table border="1"> <tr><td>良いイメージになった</td><td>76</td></tr> <tr><td>悪いイメージになった</td><td>0</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>21</td></tr> <tr><td>未回答</td><td>0</td></tr> </table>			良いイメージになった	76	悪いイメージになった	0	わからない	21	未回答	0
良いイメージだった	42																				
悪いイメージだった	10																				
わからない	42																				
未回答	3																				
良いイメージになった	76																				
悪いイメージになった	0																				
わからない	21																				
未回答	0																				
			➔																		
講座前						講座後															
● 具体的なイメージを教えてください																					
<p>人を支えている</p> <p>「人の生活を豊かに」というイメージ</p> <p>コミュニケーションが大事</p> <p>人と人をつなぐ</p> <p>まじめで優しいひとが働くイメージ</p> <p>介護、障がい、子供</p> <p>興味もあり、ぜひ福祉の仕事がしたいと思っていた</p> <p>大変な面も多いが、やりがいの多い分野</p> <p>自分が目指している分野なので、偏見等は全くなかった</p> <p>福祉・介護を必要とする仕事は花形の仕事ではなく、つまらなさそうに思っていた</p> <p>他人を助けたり、向き合うことができる</p> <p>人の役に立つ仕事、人助けができる仕事</p> <p>人のためになる</p> <p>重労働</p> <p>つらそう</p> <p>大変そう</p> <p>相手に負担をかけないようにしているイメージ</p>						<p>前から進みたい分野で、今回の講座でよりよくなった</p> <p>自分の考えを押し付けず、その人がやりたいことをサポートする</p> <p>話を聞いて答えを出すのではなく、提案して選んでもらう</p> <p>先輩たちも優しくとても良いイメージ</p> <p>客観的に見ることも大切</p> <p>広い分野に関わるので専門的技術や知識が大切だと思った</p> <p>相談という人と上手にコミュニケーションをとることが大事</p> <p>人の心に寄り添っている</p> <p>人を支える大切な仕事</p> <p>資格が色々あり、直接、身を使って助ける物と、考えて助ける物があった</p> <p>人のためになる活動(高齢者、障害者援助等)</p> <p>より、福祉の仕事がしたいと思った</p> <p>専門性を活かして人の役に立てる分野</p> <p>人を助ける、支えられる</p> <p>役に立てる仕事</p> <p>お年寄りなどに敬意を払いながら出来て良いイメージだった</p> <p>大変だけど、やりがいを感じる</p> <p>自分が目指している分野なので、偏見等は全くなかった</p> <p>優しいお仕事だと思った</p> <p>人を支えることができ、自分も成長できる</p> <p>困っている人の援助をしている</p> <p>福祉・介護の仕事の幅広さを知ることができた</p> <p>幅広い分野で活動することができ、人のためになる仕事</p> <p>人を大切にすること</p> <p>人の助けになったり、暮らしについて支える仕事</p> <p>高齢者、障がい者、子どもなど、色々な人を支援している</p> <p>地域のことで色々活動をしている</p> <p>自立についてなど</p> <p>高齢者を介護できること</p> <p>色んなところで活躍できる</p> <p>色んな勉強をすることが必要</p> <p>明るくて楽しそうなイメージに少し変わった</p> <p>優しさが大事</p> <p>職業の幅が広いことがわかった</p> <p>お世話だけでなく、相談相手になったり相手の気持ちをリラックスさせて安心させる仕事と思った</p>															

委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）

講 講 前		講 座 後	
②福祉・介護への興味について			
興味があった	45	興味を持った	75
興味がなかった	29	興味を持たなかった	10
わからない	22	わからない	12
未回答	1	未回答	0
<p>■ 興味があった ■ 興味がなかった ■ わからない ■ 未回答</p>		<p>■ 興味を持った ■ 興味を持たなかった ■ わからない ■ 未回答</p>	
③福祉・介護の勉強について			
勉強したかった	34	勉強しなくなった	50
勉強しなかった	6	勉強したくない	8
わからない	56	わからない	39
未回答	1	未回答	0
<p>■ 勉強したかった ■ 勉強しなかった ■ わからない ■ 未回答</p>		<p>■ 勉強しなくなった ■ 勉強したくない ■ わからない ■ 未回答</p>	
④福祉・介護の仕事について			
福祉・介護の仕事をしたかった	25	福祉・介護の仕事をしたくなった	42
福祉・介護の仕事をしたくなかった	11	福祉・介護の仕事をしたくない	13
わからない	58	わからない	41
未回答	3	未回答	1
<p>■ 福祉・介護の仕事をしたかった ■ 福祉・介護の仕事をしたくなかった ■ わからない ■ 未回答</p>		<p>■ 福祉・介護の仕事をしたくなった ■ 福祉・介護の仕事をしたくない ■ わからない ■ 未回答</p>	
⑤ 印象に残った内容やその他、全体を通してご意見・ご感想などございましたらお書きください。			
先輩たちが話しているとき、本当に親身になって聞いてすごいなと思い、自分もこうなりたいと思った。	先生などに相談することで大学選びなどが決まることがあるので、相談しようと思った。	自分が相談する側だったのですが、相談してもらった側が笑ってくださると、こちらはとても安心した。	講座を聞くとともに、自分のことに関して考える機会があって、具体的に進路を考える良い機会になった。
相談者の話を上手に聞く方法を実際に見て、聞いて、体験できたことが多く印象に残っている。	話を聞いて、進路に向けて頑張ろうと思った。	将来の夢がメディカルソーシャルワーカーなので今日の講座や模擬ソーシャルワークは勉強になった。	どういったことが社会福祉につながるかなど、理解できたので良かった。
その人のやりたいことや、目標をかなえるために、聞く側は自分の考えを押し付けず、相手が強張りたいことを一緒に考えていくことが大事だと知り、勉強になった。	英語の教科書があることや計算問題があることを初めて知り、驚いた。福祉の話から大学生活のお話を聞くことができ、とても勉強になった。今後の進路活動に存分に活かしたい。	実際に大学生と関わり、体験することができたのが、とても印象に残った。	大学は自由だけど、自己責任がもたらぬということが分かった。大学の大変さも知れたので良かった。
コミュニケーションは自分が思っていることだけでなく、別の方法も知れ、人間にとって大切なことなんだと思った。	高知県内でも124人の人が社会福祉学部で勉強しているところ。	資格にたくさん種類があるのは知らなかった。障がいのほか、介護や子供等、社会に貢献できる分野なのだなと思った。今、1年なので、少しずつ調べていこうと思った。	福祉・介護について今までより詳しく知ることができて、相談に乗る人っていうのが福祉だと知らなかったのが今日お話を聞いてよかったと思いました。ありがとうございました。
身近に介護という職にふれ合え、興味・関心など多くのことを知り、学べて良い機会となった。このような説明会がまたあってほしい。	社会福祉のイメージがこの講演を聞いて少し変わりました。色々な職種があって選ぶことができるのはいいなと思いました。早いうちからたくさん行動をしたいと思います。	今日のお話を聞き、より福祉の仕事に対して興味を持つことができた。また、入試のお話を聞かせていただき、自分と同じような気持ちを持っていたんだと、共感できることが多くあり、とても良い経験となった。	先生によって教科書が違うことにびっくりした。福祉は自分の考えを大切にしていけないといけないことが分かった。
福祉と聞くといふイメージだったけど介護士以外にも相談員などの仕事もあることが分かってもっとたくさん色々な仕事について調べてみようと思いました。最初のゲームでも楽しく福祉についてわかりやすく学べました。	夢に向かってがんばっていききたいと思う。	こういった活動を広げることで、同じ想いを伝えることができると思った。	自由には責任が付きもの。努力する癖をつける。
色々なことを色々な方向から見て、考えることができた。	自由に責任が付きもの。努力する癖をつける。	高校では、勉強を頑張って評定を上げていくと、選択肢が広がると言うことが分かった。	他の勉強をして、福祉につながっているのかなと思った。想像以上に大変だと感じた。
最初にはあまり興味がなかったけど、大学生の話を聞き、興味が持てたし、学びたいと思った。	夢に向かってがんばっていききたいと思う。	卒業生の成長、大変嬉しく聞かせていただいた。日々、自分の目指す道に向かって読書に取り組んでいる様子が伝わってきた。在校生も進路選択をより身近に感じることができ、多くのヒントをいただいた。	大学では「答えがあるわけではない」という言葉が印象に残った。
			科に関係なく、色々なことを学ぶということが分かった。大学の良さも分かった。
			社会福祉士には、たくさんの種類があることが分かった。困っている人を助ける仕事は改めてすごいと思った。

キャリア支援委員会

西梅 幸治

キャリア支援委員会は、委員長を西梅、鳩間講師、橋本助教で構成した。本年度に行った業務は、下記のとおりである。

1. 活動内容

① 卒業生動向調査ならびに卒業生を対象した各種案内の送付

実習委員会・全学キャリア支援部会・健康長寿センター委員・大学院学務と協力し、卒業生の動向調査・卒後のニーズに対するアンケート調査を卒業生に送付した。

② リカレント研究会事業を中心としたキャリア支援の取り組み

事業名	担当教員	開催日（回数）	内容と成果	参加人数
スクールソーシャルワーク学習会	西梅 幸治 加藤 由衣	4月12日～ 3月2日 (計6回)	本研究会は、スクールソーシャルワーカー相互の情報交換や報告、活動の振り返りなどを年6回に渡り実施した。特に研修への参加報告などとおして、実践にかかわる最新の動向を共有することができた。このような内容により、参加者の力量を高める機会となった。	延べ30人
介護コース卒業生を対象とした事例検討会	宮上多加子 三好 弥生 河内 康文 田中 眞希 上田恵理子 片岡 妙子	7月9日 9月30日 1月28日 (計3回)	本事例検討会は、介護コースの卒業生がかかわる事例を元に、課題に対する解決方法について話し合うことを中心としている。7月は2事例、1月は1事例を取り上げた。活発な意見交換が行われ、1期生が3期生にアドバイスするなど、卒業生にとってよい機会となっている。 9月は、認知症ケアにおいて先駆的な取り組みをしている施設を見学した。職員への質問等を通して、職場で抱えている課題解決への一助となったようだ。	延べ44人
対人援助職におけるソーシャルワーク実践に関する学習会	遠山 真世	9月17日 (計1回)	障害分野と医療分野で対人援助職として活動している卒業生が参加し、職場での実践経験や課題について情報共有するとともに、利用者支援の質を高めるために必要な視点や方法について意見交換を行った。	2名
社会福祉士国家試験対策勉強会	遠山 真世	9月30日 10月22日 11月29日 (計3回)	社会福祉士国家試験対策の進捗状況を確認するとともに、過去問をもとに解説・補足し、問題の出題意図や正解の導き方について理解を深めた。キャリア支	延べ15人

委員会活動年度報告書（キャリア支援委員会）

		(計1回)	援としての卒業生向けの勉強会等についても周知した。	
卒業生（15期生）の社会福祉士国家試験勉強の状況把握および支援	橋本 力 鳩間亜紀子	10月1日 (計1回)	在学時、社会福祉士国家試験が不合格であった卒業生（15期生、高知県内在住）を対象に、社会人になってからの試験勉強の状況把握および、それを踏まえての助言等を行った。 今回の事業を実施することで、卒業生の受験勉強の現状を把握することができた。また、それに基づき、適宜助言を行えたことも成果として挙げられる。さらに、社会人になってからの受験勉強に対する不安や悩みを共有し、その解決に向けて話合うことで、国試勉強に対するモチベーションも向上した様子であった。資格取得とあわせ、職務継続についても個別に相談支援を継続する足掛かりとなった。	4名
子ども家庭福祉分野におけるスーパービジョン	加藤 由衣	10月7日 3月9日 (計2回)	本事業では、子ども家庭福祉分野で実践する卒業生との個別スーパービジョンを実施した。そのなかでは、利用者支援にかかるスーパービジョンと、実習生の指導や職務に関する助言を行った。2回のスーパービジョンをとおして、参加者が後継者育成やキャリア形成を考える機会となった。	延べ2名
社会福祉学部特別講座「私の歩んだ道一見えないから見えたもの一」	田中 眞希 (総務) 長澤紀美子 (FD) 西梅 幸治 (キャリア)	12月21日 (計1回)	きのこ老人保健施設の副施設長宮本憲男氏と竹内昌彦氏にお越しいただき、竹内氏に「私の歩んだ道一見えないから見えたもの一」というテーマで特別講座を開催した。開催にあたっては、学部の総務・FD・キャリア支援委員会で連携のうえ対応した。講演を通じて、学生たちは当事者の視点から社会福祉への理解を深め、個人として、かつ専門職としての学びやふり返りの機会となった。また教員も参加し、社会福祉教育や専門職教育に関するFDの場ともなった。	約100名
国試対策に関する情報交換	遠山 真世	3月15日 (計1回)	社会福祉士国家試験の受験に向けた勉強方法やスケジュール管理について卒業生と意見交換を行い、在学生・卒業生の受験対策支援のあり方を検討した。	卒業生1名＋教員3名

委員会活動年度報告書（キャリア支援委員会）

<p>福祉まるごとツアー in 四万十町(四万十町の福祉関係施設機関に勤務する卒業生の企画による、在校生の見学ツアー)</p>	<p>長澤紀美子</p>	<p>3月23日 (計1回)</p>	<p>内容： 見学施設：四万十町の社会福祉関連施設8箇所を訪問。各所で卒業生または施設管理者・職員が案内、その後職員と参加学生との質疑応答を行った。開催に向けて事前準備から教員がサポートを行い、当日は、卒業生が各施設のコーディネーターはもとより、しおりの作成、バスの中での解説、食事手配、お土産等、行き届いた心遣いで在校生を歓待してくれた。 成果： 参加学生は、卒業生に対し、進路を選んだ理由、社会福祉の仕事のやりがいや難しさ、ソーシャルワーカーとして心がけていることなどを聞き、将来のキャリア選択に参考にしたようだった。また卒業生が職場で生き生きと働き、自信に満ちて社会福祉の仕事について語り、他の職員から信頼されている姿や在校生に対する細やかな心遣いに、参加学生は感銘を受け、大変有意義な経験となったと思われる。卒業生からも参加学生からも、今後も継続されるよう希望を受けた。</p>	<p>15人 在学生10名（3回生7名＋1回生3名）と引率教員（長澤）、卒業生5名が参加した。</p>
---	--------------	------------------------	---	---

③学部創設20周年記念事業の準備

来年度（2017年度）は、学部創設から20年の節目の年となる。そこで来年度、卒業生・在学生・在職教員相互のネットワーク化、社会福祉研究や専門性・キャリア形成の進展、卒業生の実践活動の促進などを目標とするキャリア支援の契機として、20周年記念事業を実施するために必要な準備を行った。

2. 今後の課題

キャリア支援委員会が組織された初年度であったが、委員会を中心に、リカレント研究会開催の促進と来年度の学部創設20周年記念事業の準備を進めることができた。今年度は、既卒者への国試対策支援を含めて進めることができた。来年度は、学部創設20周年記念事業を実施し、それを契機に卒業生と学部のネットワークを構築していきたい。そのなかでは、資格取得に向けた卒業生への支援を継続するとともに、キャリアパスに対応した生涯教育について検討を行っていきたい。

健康長寿センター

井上 健朗

○活動内容

1. 健康長寿センター 運営委員会

全学での運営委員会として、平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月までに、計 11 回の会議を開催した。

2. 健康長寿センター運営委員

池田光徳（センター長 看護学部）・看護学部教員・健康栄養学部教員・社会福祉学部教員（中畠・井上・片岡）・総務部企画課健康長寿担当者

3. 平成 28 年度活動実績

・社会福祉学部がかかわった主なもの

- ①社会福祉リカレント教育講座
- ②健康長寿センター体験型セミナー 社会福祉学部主催 イン 津野町
- ③土佐市連携事業 地域ケア会議プロジェクト

○活動の評価と課題

①社会福祉リカレント講座については 4 名の教員による講座を行った。

②体験型セミナーを津野町で開催した。「知ればこわくない認知症-体験的に学ぶ認知症の予防と理解-」をテーマに学部中畠准教授による講演と看護学部、健康栄養学部、社会福祉学部の 3 学部による体験ブースを実施した。

③土佐市連携事業 地域ケア会議プロジェクト

地域ケア会議の運営について看護学部・健康栄養学部の先生達とともに実際に地域ケア会議に参加し、その運営の目的や方法について考える機会を得ている。本年度は、ケア会議に対する評価指標の作成を行った。

健康長寿センター実施事業（社会福祉学部関連）

①リカレント教育講座

10/8	社会福祉学部リカレント講座「介護施設における医療的ケアの課題とフォローアップ」	16名
11/13	社会福祉学部リカレント講座「現代社会におけるソーシャルワークの展開-保健医療福祉の政策動向と支援のあり方-」	25名

委員会活動報告書（健康長寿センター）

12/3	社会福祉学部リカレント講座「家庭奉仕員・ホームヘルパー の戦後史--誕生・展開・現況」	2名
12/10	社会福祉学部リカレント講座「保健医療機関に所属するソーシャルワーカーが行うアドボカシー支援」	17名

②体験型セミナー

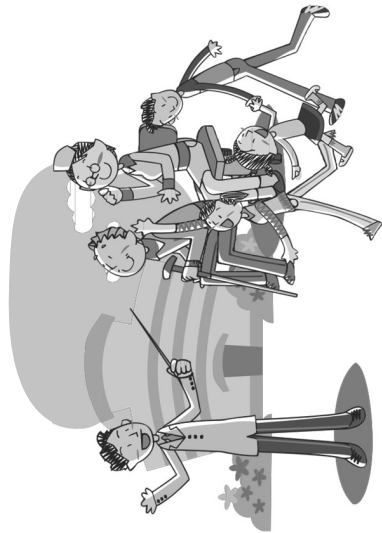
3/14	高知県立大学健康長寿センター 体験型セミナーin 津野町知ればこわくない認知症-体験的に学ぶ認知症の予防と理解-	社会福祉学部	79名
------	--	--------	-----

知のフィールドへの招待
2016

開催日

- 10月8日(土)
- 11月13日(日)
- 12月3日(土)
- 12月10日(土)

高知県立大学社会福祉学部は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する四国内唯一の公立大学であり、西日本の公立大学ではただひとつ、三福祉士資格に対応しています。



健康長寿センター事業 高知県立大学社会福祉学部 リカレント教育講座

全講座
無料

ごあいさつ

高知県立大学社会福祉学部
学部長 宮上 多加子

日頃は、本学の社会福祉教育にご理解、ご協力を賜りありがとうございます。

本学は平成23年度より高知県立大学に名称を変更し、男女共学化となり6年目に入りました。特に本学部は、平成22年度より定員を30名から70名に増員し、3つの福祉士国家資格(社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士)に対応したカリキュラムでスタートしています。今後これまでのface-to-faceのきめ細やかな教育を継続し、専門職養成の量の確保及び質の向上を目標に取り組みたいと考えております。

今年度のリカレント教育講座につきましては、社会福祉学部の新任教員や例年好評をいただいていた教員が担当し、地域の保健・医療・福祉に携わる専門職の方々や地域にお住まいの皆さまへ向け、社会福祉に関する4つのテーマで講演や演習形式の講座をご用意しています。

お気軽にご参加いただき、日頃の實踐に多少なりともお役に立てれば幸いです。



講師プロフィール

片岡 妙子(助教) 介護施設における医療的ケアの課題とフオロアップ	高知県立大学社会福祉学部 助教。高知大学大学院総合人間自然科学研究科看護学専攻 修士課程修了。総合病院において重症心身障害児(者)、慢性疾患患者等の看護を修了後、介護老人福祉施設で勤務。2016年4月より現職。主な担当科目は「認知症の理解」「介護技術」「医療的ケア」等。大学院在学中より介護老人福祉施設における介護職員と看護職員の連携について研究を行い、現在は介護職員と医療職者との情報共有に関する研究に取り組んでいる。
西内 章(准教授) 現代社会におけるソーシャルワーカーの展開-保健医療福祉の政策動向と支援のあり方-	高知県立大学社会福祉学部准教授。社会福祉士。四国学院大学卒業後、龍谷大学大学院修士(修士・社会福祉学)、関西福祉科学大学大学院修了(博士・臨床福祉学)。介護福祉専門学校職員、在宅介護支援センターのソーシャルワーカーとして勤務後、大学院へ進学し、高知女子大学講師、同准教授を経て、現職。著書は『ソーシャルワークと生活支援方法のトレーニング』(共著・中央法規出版)など。現在の研究は、文部科学省科学研究費助成事業として、ソーシャルワークにおける多職種連携モデルの開発に取り組んでいる。
中嶋 洋(准教授) 家庭養子員・ホームヘルパーの職後支援-誕生・展開・現況	高知県立大学社会福祉学部准教授。上智大学大学院総合人間科学研究科博士後期課程単位修得満期退学。博士(医療福祉学、論文)、社会福祉士、精神保健福祉士。主著『日本における在宅介護福祉職形成史研究』(みらい、2013年)、『シリーズ福祉に生きる67原崎秀司』(大空社、2014年)、『初学者のための質的研究26の教え』(医学書院、2015年)等多数。日本介護福祉学会評議員・査読委員、日本福祉文化学会評議員・編集委員、全日本大学開放推進機構理事。現在は、戦後の在宅介護福祉士の起り起こしに努めている。
鈴木 裕介(助教) 保健医療機関に所属するソーシャルワーカーが行うアドボカシー支援	高知県立大学社会福祉学部助教。大正大学人間学部卒業後、高知県立大学大学院人間生活学専攻博士後期課程修了。博士(社会福祉学)。病院のソーシャルワーカー(MSW)を経て現職。著書『社会福祉実践と研究への新たな挑戦』(共著・新泉社)、『これならわかるスキル! 図解読者総合支援法』(共著・翔泳社)。現在の研究は「保健医療機関におけるアドボカシー」と「地域における医療福祉ニーズ」を中心に取り組んでいる。

高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会

井上 健朗

○看護・社会福祉連携部会について

1. 組織

- 1) 高知医療センター：看護局長、地域医療連携室長、看護局、ソーシャルワーカー
- 2) 高知県立大学：看護学部長、社会福祉学部長、看護学領域教員、社会福祉学領域教員

2. 事業

- 1) 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供
- 2) 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力
- 3) 教員によるコンサルテーションの実施
- 4) 臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究
- 5) 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催
- 6) その他看護・社会福祉連携活動の実施

○社会福祉連携部会における取り組みの評価

1. 平成 28 年度は、昨年引き続き共同研修会（上記事業 3）にあたる）を毎月 1 回、定期開催した。専門性の向上を目指した事例検討を中心に他部門にもオープン開催として共同研修会を開催した。

○社会福祉連携部会における取り組みの課題

今後の課題としては、定例研修会のあり方の検討や内容の見直し、および新たな共同研究の実施に向けての検討等がある。具体的には事例検討・発表の内容および方法の検討や研究発表に向けての医療センターソーシャルワーカーと教員のプロジェクト作りなどがあげられている。

	実施日・期間	参加人数	事業内容
1 前期	4月20日(水) 17:30～医療センター 2階やいろちよう	14名	①参加者自己紹介 ②本年度計画の確認
2 前期	5月18日(水) 17:30～医療センター 2階やいろちよう	17名	①県立大学教員の講義 テーマ『終末期におけるチームアプローチ』 講師 県立大学教員 井上 健朗

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

3 前期	6月15日(水) 17:30～医療センター 2階やいろちよう	19名	①KJ法を用いたグループワーク テーマ『事例から考える他職種連携』 講師 県立大学教員 鈴木 裕介
4 前期	7月20日(水) 17:30～医療センター 2階やいろちよう	14名	①日本医療社会福祉協会学会報告（和田）
5 前期	8月17日(水) 17:30～医療センター 2階やいろちよう	15名	① 県立大学教員の講義 テーマ『研究計画の立て方』 講師 県立大学教員 鈴木 裕介
6 前期	9月21日(水) 17:30～医療センター 2階やいろちよう	12名	①日本医療社会福祉協会（基幹研修Ⅱ）報告（岩城）②事例検討（発表：藤井）テーマ『ソーシャルワーカーとして自信を持って立ちたい！』 ～ターミナル患者さんの思いを叶えられなかった反省から～
7 後期	10月19日(水) 17:30～医療センター 2階やいろちよう	10名	①事例検討（発表：羽方、担当：井上先生）テーマ『短期間で意思決定が求められる患者・家族の退院調整』 方法 マインドマップ
8 後期	11月16日(水) 17:30～医療センター 2階やいろちよう	11名	①事例検討 看護・SWの連携（担当：竹村、松本）※司会（岩城）
9 後期	12月21日(水) 17:30～医療センター 2階やいろちよう	10名	① 県立大学教員の講義 テーマ『研究計画の立て方②』 講師 県立大学教員 鈴木 裕介
10 後期	1月18日(水) 17:30～医療センター 2階やいろちよう	11名	①事例検討（担当：真辺）
11 後期	2月15日(水) 17:30～医療センター 2階やいろちよう	名	① 事例検討（担当：渡邊）

災害対策プロジェクト

中 嶋 洋

○本年度の取り組み

本年度の法人災害プロジェクト担当として学外連携部会に長澤紀美子教授、学内連携部会に二本柳 覚助教（2016 年前期まで）、上田恵理子助教、中嶋 洋准教授が参加し、DNGL の大学院生である諸澤美穂氏、西川愛海氏を加えた計 6 名で構成した。主な取り組みは以下の通りであった。

（1）災害対策プロジェクト会議及び合同災害訓練打合せの開催

本年度も、例年通り、合同災害訓練の計画・実施、研修会・避難訓練の計画・検討を行った。加えて、訓練をより効果的にするため、詳細な検討を定期的に行った。具体的には、平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月までにおおよそ月 1 回のペースで会議を開催した。その際、①いかにリアリティを感じながら実り多い合同災害訓練を行えるか、②訓練前後で学生たちにどのような意識変化が見られるのかの 2 点に着眼した。前者では、参加者に非難者役、運営者役、地域住民役などの役割を付与した上で、さらに個々人の疾病・障害・服薬・言語などの特徴に至るまでを考え、避難者の属性を工夫した。

一方、後者では、今回、初めて医療センターとの合同災害訓練の前に学生向けオリエンテーションを看護学部・健康栄養学部と共同で行った。事前オリエンテーションは、10 月 31 日（月）、139 名の学生が参加した。内容は、南海地震に対する個人の備えや南海地震時の本学の役割について説明を行った。

また、合同災害訓練前後に質問紙調査（全 15 問）を実施することを計画し、質問紙の検討を繰り返し、参加者にみられる特徴や傾向を明らかにすることを旨とした（表 1 参照）。

（2）合同災害訓練の実施

社会福祉学部では、主に避難所運営に関し、合同災害訓練を年一回実施している。本学避難所においては医療センターを経由した軽症者、池地区住民、学生がその主対象となるため、多くの避難者が来ることが想定される。そのため、いかに混乱なく円滑に避難所運営を行うことができるのか検討を重ねてきた。上記で述べたように、参加者に細かな避難者の属性を付与したため、参加者は違う立場の視点から訓練を考えるきっかけとなった。一方で、与えられた役を演じきれなかったり、避難所に避難したあと手持ち無沙汰になったりと、課題も浮き彫りとなった。

全体的に、おおむね運営は円滑に実施できた。しかしながら、避難所運営の全体像が不明瞭であったこと、エリアの区分と動線の確保、他学部との連携、避難後の避難場所での対応などにおいて、次年度以降の訓練に向けた課題が具体的に浮かび上がってきた。

（3）合同災害訓練後の質問紙調査の分析

合同災害訓練後に行った質問紙調査では、158 人の回答が得られ、学部別の内訳は、「社会福祉学部 34 人（21.5%）、健康栄養学部 28 人（17.7%）、看護学部 81 人（51.3%）、その他 9 人（5.7%）、未記入 6 人（3.8%）」であった。なかでも「訓練参加後の防災意識の変化」（問 10）について尋ねたところ、「とてもそう思う」20 人（12.7%）、「ややそう思う」86 人（54.4%）、「どちらともいえない」29 人（18.4%）、「あまりそう思わない」7 人（4.4%）、「全くそう思わない」1 人（0.6%）という結果が得られ[N=158、欠損値 15]、106 人（67.1%）

の参加者に意識変化が見られたことが明らかになった。但し、その一方、32.9%の人々に芳しい意識変化がみられなかった事実をどう今後の課題につなげていくか、あるいは何をもち意識変化とするのかについてのさらなる深堀りも求められよう。加えて、表1は事前・事後アンケートにおいて、同じ質問をした結果であるが、訓練終了後において意識面に低下が見られた。この要因分析も重要な検討課題である。今回得られたデータ分析を手がかりに、合同災害訓練という実践面と防災訓練の意義の考察という研究面の双方での継続検討が重要である。



表1 避難訓練前後における関心度の変化

事前アンケート調査 (N=139)				事後アンケート調査 (N=158)			
	項目	n	割合		項目	n	割合
南海地震 についての 関心度	非常に関心がある	50	36.0%	南海地震に ついての関 心度	非常に関心がある	38	22.2%
	関心がある	73	52.5%		関心がある	90	57.0%
	どちらともいえない	14	10.1%		どちらともいえない	9	5.7%
	あまり関心がない	1	0.7%		あまり関心がない	1	0.6%
	関心がない	1	0.7%		関心がない	1	0.6%
	未記入・不明	0	0.0%		未記入・不明	19	12.0%
避難所運 営・支援に ついての 関心度	非常に関心がある	117	84.2%	避難所運 営・支援に ついての関 心度	非常に関心がある	24	15.2%
	関心がある	18	12.9%		関心がある	91	57.6%
	どちらともいえない	3	2.2%		どちらともいえない	25	15.8%
	あまり関心がない	0	0.0%		あまり関心がない	6	3.8%
	関心がない	0	0.0%		関心がない	0	0.0%
	未記入・不明	1	0.7%		未記入・不明	12	7.6%
防災知 識・防災訓 練につい ての関心 度	非常に関心がある	124	89.2%	防災知識・ 防災訓練に ついての関 心度	非常に関心がある	31	19.6%
	関心がある	15	10.8%		関心がある	97	61.4%
	どちらともいえない	0	0.0%		どちらともいえない	17	10.8%
	あまり関心がない	0	0.0%		あまり関心がない	2	1.3%
	関心がない	0	0.0%		関心がない	0	0.0%
	未記入・不明	0	0.0%		未記入・不明	11	7.0%

（４）今後の合同災害訓練に向けて

自然災害は通常、予告なく突如訪れる。咄嗟の判断が重要になるが、冷静な判断や適切な行動には災害訓練や防災学習等を通じて、事前にある程度のルールを学ぶ必要がある。こうした基本事項を訓練で習得しつつ、柔軟な対応を習得しておくことが重要である。今後、参加者の緊張感をどう高めていくか、より大人数になった場合の対応をどうするか、「初動」につながるために必要なことは何かなどについて引き続き、検討していきたい。

総務・予算委員会

西梅 幸治

総務・予算委員会として行った業務は、下記のとおりである。

1. 活動内容

- ① 「連絡会・教授会」の資料準備及び運営
 - ・ 開催計画、議題および資料等の整理、議事メモの作成等を行った（計20回）。
- ② 「学部懇談会」の資料準備及び運営
 - ・ 開催計画、議題および資料等の整理、次第の作成等を行った（計5回）。
- ③ 学部棟・看護福祉棟等施設・備品の整備
 - ・ 社会福祉学部棟3階4階に設置してあるコピー機及び印刷機について、各教員のコピー代充当分として、年度当初に一定額を確保し、使用枚数分の予算確保を行った。
 - ・ 4回生の国試準備・卒論作成用に空き教室や福祉情報資料室を自主学习室として使用できるよう整備し、使用簿で管理する体制を作った。
 - ・ 学生自習室等の学部共用パソコンについて、情報処理部会とともにハードディスク管理及びウィルス対策ソフトの一括導入を継続し、メンテナンス業務の省力化を図った。
 - ・ 社会福祉学部棟、看護福祉棟の主な講義室に講義用ノートPCを設置した。
 - ・ E102教室のプロジェクタが劣化により使用不可となったため、教務第一課と協議のうえ新規取替えを行った。
 - ・ 福祉調査実習室（F207）のスピーカー調整やE102教室等のマイクの修繕を行った。
- ④ 学部日常事務の対応
 - ・ 学部事務職員の協力を得て、寄贈資料・郵便物の整理、回覧などの仕事に対応した。
- ⑤ 『平成27年度社会福祉学部報』発行
 - ・ 平成27（2015）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料）の冊子媒体100部を作成し、関係各所に配布した。
- ⑥ 学生教育用図書・資料等の充実
 - ・ 学部・大学院の学生教育用予算等を活用して、図書館を通して定期購読している研究雑誌の拡充及び研究図書の充実を図った。
 - ・ 国家試験対策用図書や社会福祉に関する基礎文献等学生の教育に資する図書・DVDを選び、福祉実習支援室に配置して資格関係教材・資料等の充実を継続的に図った。
 - ・ 福祉情報資料室で保管している卒業論文の電子化による検索・活用の利便性の向上、学生閲覧用論文資料の充実を引き続き行った。

2. 今後の課題

学部棟内の設備・備品の整備や消耗品補充の対応などについては、予算の執行状況を常に確認しながら、計画的に整備していく必要がある。また教員数の増加に伴い、各委員会の役割分担の調整、教員と事務職員との業務分掌の明確化・効率化などについては引き続き検討していく必要があると考えられる。あわせて今後も引き続き、丁寧な学部運営の補助及び設備・備品管理と、学部で取り組むべき重点事項への適正な予算配分を行っていきたい。

国試対策支援委員会

遠山 真世

○本年度の取り組み

本年度の国試対策支援委員会は、井上講師、遠山講師、加藤助教、鈴木助教、二本柳助教、橋本助教の計6名で構成した。

（1）4回生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②受験対策スケジュールの確認、③模擬試験の実施、④国試対策講座開催への支援、⑤社養協などからの受験情報の周知、⑥国試対策勉強会実施への支援、⑦個別面談などの取り組みを行った。

月	概要	備考
4月	国家試験に関するガイダンス（4/6・4/22）	
5月	学内模擬試験（5/20）	
6月	学内模擬試験（6/17）	
7月	学内模擬試験（7/15）、個別面談	
8月	「受験の手引」解説（8/23）	
9月	「受験の手引」解説（9/24）	
10月	模擬試験（※10/2・10/28-29） 受験対策直前web講座周知	※高知県社会福祉士会 ※社養協・精養協
11月	国試対策講座、個別面談	
12月	国試対策講座、対策講座DVD貸出、個別面談	
1月	国試対策勉強会（1/9-11）、個別面談、自己採点集計	国試当日（1/28-29）
3月	合格発表（3/15）、卒業後の手続きに関する説明（3/21）	

（2）卒業生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②模擬試験などの案内送付、③教科書や参考書などの貸出、④国試対策講座などの情報提供、⑤個別相談の受付などの取り組みを行った。

（3）2016年度の国家試験合格率

1) 社会福祉士の合格率について

委員会活動年度報告書（国試対策支援委員会）

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
96	56	58.3%	70	49	70.0%	26	7	26.9%

〔福祉系大学等ルート：受験者 10 人以上〕

合格順位：全国 15 位（既卒含）、全国 26 位（新卒のみ）／212 校（総数での学校数）
 合格基準点：86 点（満点 150 点）
 全国平均合格率：25.8%
 合格順位：全国 4 位／70 校（受験者 50 名以上・新卒）

2) 精神保健福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
28	28	100%	27	27	100%	1	1	100%

〔保健福祉系大学等ルート：受験者 10 人以上〕

合格順位：全国 1 位（既卒含）、全国 1 位（新卒のみ）／100 校（総数での学校数）
 合格基準点：91 点（満点 163 点）
 全国平均合格率：62.0%

○今後の課題

今年度は、国試対策への意識づけを早い時期に行えるよう、「国試の日」（学内模擬試験）の開始を 1 か月早め、全体で過去問を解く機会を 3 回に増やした。昨年度に引き続き、個別面談を前期・後期とも実施し、必要に応じて定期的に面談し相談・助言を行った。面談担当教員で面談記録を共有し、個別の学習状況を把握できるようにするとともに、学習方法について体系的なアドバイスができるようにした。これまでの面談を通して、点数が伸び悩む学生については、卒業論文とのスケジュール調整に難しさが生じていたり、生活習慣・学習意欲の見直しが必要であることがわかってきた。今後は、ゼミ担当教員との連携も含め、学部全体で働きかける必要があると感じている。加えて、在学中に合格できなかった卒業生への対応も課題であり、キャリア支援委員会と協働しつつ、状況把握や情報・支援提供を行っていききたい。

IV

学生を中心とした活動

社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験に向けての取り組み

国試対策講座について

本年度は、10月の初旬に行われた模試の結果等を踏まえて国試対策講座を開講してほしい科目について学生にアンケートを実施し、要望の多かった科目を中心に、先生方に講座を開講していただきました。これまでの国試の出題傾向を基に、法律や制度・政策の内容が変更した点等を中心に講座をしていただいたことで、個々人の学習だけでは把握することが難しい部分についての理解の一助になりました。さらに講座を受けたことで、これまで学んできた知識の確認を行うことができるだけでなく、理解しているつもりでいた点について知ることができ、その科目について知識を補っていくことができたように感じています。試験の日が近くなる中で焦りや不安もありましたが、国試対策講座で学んだことを踏まえつつ、学習に取り組んだことが試験に向けての自信につながった要因の一つだったのではないかと感じています。

国試対策勉強会について

本年度、私たちは国家試験に向けた国試対策勉強会を2泊3日の合宿形式で高知県の町で行いました。自宅や学校とは違った環境に身をおくことで、勉強のみに集中することができました。勉強中、分からないことがあれば、学部の友達や先生方に質問したりしながら、理解できるまで話し合いました。また、友達の勉強方法を聞き、参考にしたりしながら、自分に合った勉強方法を見出すことができました。朝から深夜まで机に向かい、食事の時はみんなと一緒におしゃべりをしながら息抜きをし、勉強のペースをつかむことができました。

合宿中は多くの先生方から、差し入れや激励の言葉をいただきました。また、合宿先の方々にも多くの気遣いやサポートをしていただき、たくさんの方が私たちを応援して下さいることを実感しながら勉強することができました。

合宿中に一番心強かったことは、一緒に勉強している友達の存在です。長時間の勉強に疲れ、くじけそうになった時には、頑張っている友達の姿を見て、自分も「もっと頑張らなくては」と刺激を受け、集中して勉強に取り組みました。後輩の皆さんのうち、友達と一緒にならより良い勉強のペースがつかめそうだと思う方は、是非合宿に参加して国家試験に向けてのラストスパートをかけてください。

後輩の皆さんへ

「4回生の1年間は早く終わる」とよく耳にすると思いますが、本当にあっという間に終わります。4回生は、国試勉強にのみ集中できるのではなく、同時進行で卒論や就活、実習等を行わなくてはならず、これら一つひとつはどれも重要なことで手が抜けるものではありません。しかし、この大変な1年間を乗り越えた先には、合格や新しいスタートラインが待っています。そして、その時の経験は、貴重なものとなり、今後の自信にも繋がります。

また、時には勉強や就活に焦りを感じることもあるとは思いますが、「周囲は周囲、自分は自分」と割り切って、後悔しなくて済むように全力で取り組んでください。終わりは必ず来ます。今できることに精一杯取り組んでいれば、友達や先生、家族も力になってくれると思います。自分が描く未来に向かって、この1年を力いっぱい走り抜けてください。

国際交流

1. ヴェネチア カ・フォスカリ大学（イタリア）への短期留学

2016年9月1日～13日までの日程でヴェネチア カ・フォスカリ大学短期留学研修（全学で参加者計9名）に社会福祉学部から1名の学生（1回生）が参加した。

（学生による体験記）



○私がこの研修に参加した理由は、主に文化や人間性における海外と日本との違いを実際に自分の目で見ることによって、視点を広げ、今後多く訪れるであろう人と触れ合う場面でそれらを活用しようと思ったからである。まず前半をヴェネツィアで過ごした。「水の都」と言われるだけあって街の景観はととてもすばらしかった。ヴェネツィアでは施設見学として病院を訪れた。そこではヴェネツィアの様々な医療や人々の健康に関する話を聞くことができた。

後半はフィレンツェとローマで過ごした。まず、フィレンツェでは、テロ対策のため、人が多く集まる場所では警察や軍隊が厳しく目を光らせていた。そのような中、ウフィッツ美術館では美術に関する知識が無い私でも知っている作品があり、とても感動した。ローマでは日本でも名が知られているような世界遺産を数多く訪れた。特にコロッセオやバチカン市国が強く印象に残っている。

ヴェネツィアでカ・フォスカリ大学の授業に参加したとき、高知を紹介するためによきこいを披露すると、学生らが暖かい拍手をしてくれた。初めてのヨーロッパであったが、それがイタリアであったことがよかったと思う。人々が明るい性格で、拙い英語でも話そうと思った。安全に研修を行い、無事に帰国できたことを関係者の皆様に深く感謝したい。

2. エルムズ大学（アメリカ）への短期留学

2016年2月19日～3月5日の日程で、エルムズ大学短期留学研修（全学で参加者計9名）に社会福祉学部から1名の学生（1回生）が参加しました。

（学生による体験記）



○私は約2週間アメリカで短期研修を行いました。高校生のときから留学をやりたいと考えて、1回生のうちに何かにチャレンジしてみたいという気持ちからこの研修に応募しました。常に英語に触れることにより、英語でのコミュニケーション能力が上がったのではないかと思います。エルムズ大学では友達もでき、現在もSNSで繋がることができ本当に嬉しいです。また街中では日本とは異なる福祉の設備を発見したり、研修5日目には高齢者福祉施設へ訪問し、その施設について学びました。アメリカの福祉や文化に触れながら、毎日を楽しく過ごすことができました。今後は今回の経験を活かしながら、福祉について学んでいきたいと思っています。

3. 中国語同好会サークルの活動

今年度、中国語同好会サークル（代表者：社会福祉学部3回生李傑，部員計13人）は、顧問であり国際交流センター委員の長澤先生を通して、中国の大学生（山東省荷澤学院の日本語学科の2回生）が高知県立大学生と交流したいという依頼を受けて、交流活動を行いました。交流内容としては、荷澤学院の大学生は日本語で学校・授業などの様子について、県立大学のサークルは文化祭・高知城・商店街について、共にビデオの形式で紹介したことです。

サークルでは中国語を勉強していますが、メンバーは中国についてあまり知る機会がありません。今回の交流活動を通して、サークルメンバーにとっては非常に良い経験になり、中国についてすこしでも知り、中国の大学生の日本語学習の姿勢を見て、良い刺激を与えられたのではないかと感じました。残念なことに、日本の大学での授業の様子とメンバーの専門領域の紹介を伝えることができませんでした。今後は、授業の様子とメンバーの専門の紹介を踏まえて、日中各国の社会問題と対応策などについても意見交換を行っていきたいと考えます。



学外イベントへの参加

障害者スポーツ大会にボランティアとして参加しました

2016年5月29日（日）、高知県立春野総合運動公園およびボウルかつらしまにて開催された第18回高知県障害者スポーツ大会に、社会福祉学部の1回生がボランティアとして参加しました。

毎年開催されるこの大会は、県内から約1,300名の人々が参加しており、学生にとって障害のある方とスポーツを通じて交流する貴重な機会となっています。本学学生は春野総合運動公園会場の担当として、陸上やペタンクなどの競技運営や、表彰式のサポート、駐車場案内など、それぞれの役割を一生懸命こなしていました。誘導をしながら選手と交流したり、大きな声で競技を盛り上げたりと、普段とは違った学生の姿が印象的でした。

あいにくの雨のため、中止となった競技もあり、参加できなかった学生もいましたが、参加した学生から当日の様子を聞くことで、互いにとって更に深い学びとなっていました。



第15回高知ふくし機器展に参加しました

第15回高知ふくし機器展が、高知県ふくし交流プラザで6月25日～26日の二日間にわたって開催されました。社会福祉学部の1～2回生がボランティアとして参加しました。

全国からのたくさんの来場者がいるなかで、学生は、受付や福祉機器の体験コーナーなど、それぞれの担当部署で運営をサポートしました。また、最新の車いすや介助用品、自助具などを体験しながら学ぶ貴重な機会になりました。

2回生のボランティアリーダーは、他の学校も含めた学生ボランティアの代表として開催までの準備にも携わり、当日も学生ボランティアの統括役として活躍しました。



太 鼓 部

太鼓部は現在4年生9名、3年生6名、2年生6名、1年生4名の計25名で活動をしています。練習は週に1~2回、池キャンパスの体育館で行っています。演奏活動では、紅葉祭・入学式等の学校行事での参加や、三里祭りを始めとした地域のお祭り、福祉施設でのイベントに参加等を通し、地域の方々との交流を行いました。

特に昨年度は、初めての試みとして龍馬マラソンでの沿道応援隊として参加させていただきました。初めて2時間という非常に長丁場となる演奏になり、部員一同、一層励んで演奏を行いました。龍馬マラソンではランナーの方々にむけて演奏を行いました。曲が終わるごとにランナーの方々から拍手や声掛けをいただき、お互いに応援し、励まし合うという雰囲気が生まれていました。応援に来ている地域の方々の暖かさを感じたことはもちろん、太鼓の演奏が多くの人に元気と活力を与えることができることを改めて実感しました。また、それに伴ってNHKによる取材を受け、ラジオに出演させていただく等、地域の方々に太鼓部をより知ってもらうことができる非常に貴重な機会となりました。

一つの曲を仕上げる際に、叩き方や口伝だけでなく、「魅せる」演奏ができるように意識しています。そのためにも本番に向けて練習体制を整え反省を繰り返し、日々向上に努めていくことが必要となります。しかし、曲が仕上がったとき、達成した時の感動は非常に大きく部員の一体感がより強くなります。また、訪問先の方々からは「ありがとう。来年も楽しみにしています。」等のお言葉もいただいています。和太鼓という演奏を通して地域と繋がることのできる大切さもまた感じることもでき、より練習の励みとなります。



太鼓部では、楽しく太鼓を叩きながら様々な経験をすることができ、より豊かな学生生活を送ることができます。さらにそれらの経験は大学を卒業した後も必ず役に立ちます。太鼓部の良さをより多くの方に知ってもらい、これからも皆で頑張っていきたいです。

池手話サークル

私たち、池手話サークルは週2回、社会福祉学部棟の一室を使用し、活動を行ってきました。普段の活動内容は、指文字の練習をしたり、日常で使えるような会話文を考え、手話の本を調べて学んだり、発表会に向けた手話コーラスの練習をしています。また、高知県聴覚障害者協会青年部（以下、手話青年部）の方と交流をしながら、楽しく手話を学んでいます。

手話コーラスを披露するのは、2月に行われる耳の日記念集会です。今年度は、耳の日記念集会で「さんぽ」、「島唄」の2曲を手話コーラスで発表しました。手話青年部の方々と一緒に練習を行い、演出なども考えました。発表では、観客の皆さんが手話コーラスを真似して一緒に行ってくれ、温かい雰囲気の中で発表を終えることができました。また、青年部の方々は、毎年交流会を行っており、今年度はバレーボールとドッジボールを行い、昼食やお菓子を食べながらの交流をして楽しみました。さらに、耳の日記念集会に向け、練習を兼ねた交流会も行いました。青年部の方々との交流は、手話の本を使うよりも大きな学びがあり、日常的に手話を用いている皆さんとの関わりから、多くの経験をさせていただいています。そして、耳の日記念集会では、「段また段を成して」という映画を鑑賞し、聴覚障害を持つ人々の思いや葛藤を感じることができました。

手話サークルとして活動していくなかで、多くの方々との出会いがあり、手話でつながる楽しさを感じることができました。今後も、手話を通じたつながりを大切にして活動していきたいと思っています。

また同時に、サークル規模の拡大もできればと考えています。現在、社会福祉学部の学生を中心に活動しています。様々な場所で手話を披露していくことで、手話に興味を抱く学生が増えていくよう、精一杯頑張っていきますので、今後の活動を温かく見守って頂きたいと思っています。よろしくお祈りします。



交流会の様子

いけとべ！

私たちは、日本で使われなくなった車いすを整備し、海外旅行をする旅行者に手荷物として託し、発展途上国の病院や施設に送り届ける活動を行っている認定NPO法人「飛んでけ！車いす」の会の活動に感銘を受け、「いけとべ！」として活動しています。

「いけとべ！」は、「日本で使われなくなった車いすを高知女子大学池キャンパスから発展途上国へ飛ばそう！」という思いから、2006年に結成されたサークルです。

普段は、車いすの整備を中心として活動しています。また、広報活動や活動資金の調達の一環として、福祉系のイベントや学園祭等で出店を行っています。



2015年度は、3月上旬に行われたタイ国際ソーシャルワーク研修において、車いすを必要とする男性に、研修生を通じて数年ぶりに車いすを届けることができました！

現在部員数は4回生3名、3回生1名の計4名で、学生会館2階フリースペースにて活動しています。部員の興味や関心に合わせて、今後より活動の幅を広げていきたいと考えています。

また、世界中で車いすを必要としている方のもとに一台でも多くの車いすを飛ばせるよう、今年度も充実した活動を行っていききたいと思います。

イケあい

イケあい地域災害学生ボランティアセンター（通称：イケあい）は 2011 年 3 月に発災した東日本大震災の復興支援ボランティアに参加した学生によって、来る南海トラフ地震に備えて作られた防災サークルです。（以下ボランティアセンターは VC と表記。）

部員は社会福祉学部、看護学部、健康栄養学部、文化学部の学生計 95 名で構成されています。現在は、普段から顔の見える関係づくりのための地域防災活動、災害時に他大学の学生と上手く連携をとるための大学連携活動、既存の行事以上に学生と地域との関わる場を作るための地域交流活動、そして高知県で震災が起こった際に学生も VC の一員として動けるように人材を育成する VC 運営活動の 4 つの活動を主として取り組んでいます。

メンバーに大学内の 4 つの学部の生徒が所属しているというのもイケあいの特徴です。各学部の特色を活かし、今年度からは社会福祉学部・看護学部は地域の方や学生を交えた手浴教室。看護学部は身近なものを利用して災害時に役立つグッズを作るという企画。健康栄養学部は、ライフラインが途絶えた時に自宅の冷蔵庫やその他に備えてある食料を使って生き抜いていく（=survive）ための食料「サバイバル飯」を体験・調理する「サバイバル飯コンテスト」を実施しました。今後は文化学部の特色も取り入れて活動の幅を広げていきたいと考えています。

また今年度は医療センターとの合同災害訓練も行い、災害における福祉や医療の視点を意識した訓練を行うことができました。学校にいる時に災害が起きたら、というシチュエーションだけでなく、福祉従事者の立場に立って、災害が起こった時とその後に私たちが出来ること、を学ぶことができたとても良い機会となりました。

今後もまだ被災していない地、そしてこれから被災することが考えられる（未災地である）高知で、自分たちが何をすべきかを考え、活動に繋げていきたいと思えます



ハモ☆イケ

ハモ☆イケは高知医療センターでボランティアを行っている「ハーモニーこうち」と共にボランティア活動を行っているサークルです。2016年度のメンバーは社会福祉学部の4回生2名、3回生2名、2回生8名、1回生8名の合計20名で構成されていました。

主なボランティア内容は、

- ・ 正面玄関や花壇の清掃
- ・ 花の植替えや水やり
- ・ 入院患者の入院室までの案内
- ・ 外来患者の案内
- ・ 図書サービス
- ・ 小児の見守りや作業
- ・ 高知工科大学のインターンシップの指導・補助
- ・ 募金の呼びかけ
- ・ バザーの準備、当日の手伝いや片付け
- ・ バザーの反省会兼交流会



などがあります。

同サークルに入会後は、まず車椅子・視覚障害者の手引きの研修と、高知医療センターの方々による研修を受けます。その後一人ひとりボランティアを行うに当たっての目標を決め、心構えを持って活動を始めます。

それぞれのボランティアは活動内容、時間帯、時期が異なるため、メンバーの予定に合わせて各自で積極的にボランティアに行くという、個人参加型のサークルです。そのため集団としての活動というよりも、個人あるいは数人の規模で活動を行っています。

ボランティアを通して、職員やボランティア関係者、患者の方々と交流することができ、自身の考えを深めることができます。また、医療チームの一員として活動を行うという責任を持つことで、責任感と協調性を高めることもできます。

2016年度は初めての試みとして夏季休暇中、高知工科大学のインターンシップに合わせて、ハモ☆イケメンバーがともに活動を行い、指導・補助の役割を果たしました。こうした活動の成果もあり、3月に行われた高知医療センターでのハーモニーこうち総会で、部員4名（代表、副代表、その他2名）が高知医療センター長から特別表彰を受けました。

正面玄関で花の水やりや清掃をしている時には、患者さんから声を掛けて頂くことが多く、とてもやりがいを感じます。今後も更に活動する意欲を持って活動したいと考えています。

2017年度以降は、今年度の反省も活かし、メンバー全員がより積極的に活動に参加できるよう工夫して行きたいと思えます。

かんきもん（土佐弁：元気者）

こんにちは！ボランティアサークル「かんきもん」です。かんきもんは、児童から高齢者まで皆で助け合う『共生社会』を目的に活動しています。かんきもんは「援農隊」「YCPK」「タウンモビリティ」「学習支援」「傾聴」「シグマ」計6つの活動を行っています。

◇援農隊 and 地域交流

四万十市や安芸市などの中山間地域を訪れ、農作業のお手伝いなどの地域貢献に取り組んでいます。また、平成27年から安芸市入河内の特産品を日曜市に出店しており、地域の魅力を発信しています。

◇Young Crime Prevention in Kochi:若者防犯ボランティア in Kochi (YCPK)

三里地区の小学生の登下校時の見守り活動や防犯教室のお手伝いを定期的に行い、地域の活性化や防犯意識の向上に取り組んでいます。平成28年には「防犯かるた」を学生が手作りし、防犯を地域の方との交流にも活かしています！

◇タウンモビリティ

市内中心商店街の一角を拠点とする買い物支援のNPO活動に協力しながら、障害者や要介護高齢者、赤ちゃん連れの母親などの買い物支援を行っています。

◇学習支援

「サポート・スペース」と連携しながら、太平洋学園の教室をお借りして小学生～高校生までの学習支援を行っています。また、「ひろっぱ」を拠点としている学習支援を含んだ子どもの居場所づくりの支援も行っています。

◇傾聴

グループホームや一人暮らしの高齢者・障害者の自宅を定期的に訪問し、コミュニケーションを図ります。話し相手となることで少しでもその方の生きがい、QOLの向上につながればという思いで活動しています。

◇シグマ

女性と子ども達の生活向上を目的に活動しています。DV防止のキャンペーンに参加し、街頭でティッシュを配ったり、子ども達と七草粥を探して交流を図ったりします。



日曜市にて安芸市入河内大根を販売



YCPKの防犯かるたを活用♪

かんきもんでのボランティアを通じて、地域や高齢者、児童など自分の興味・関心のある分野を発見し、将来の進路を考える上での良い経験を得てもらいたいと思います。

ボランティア活動

上田 恵理子

○本年度の取り組み状況

学部教員、福祉実習支援室を通じてボランティアの情報を提供するとともに、学生が参加した実績について情報集約を行った。

○本年度のボランティア参加状況

日 時	種別・主催者・企画名	内 容	人数
4月～3月	教育委員会	プレイセラピーへの参加	16
4月～3月	社会福祉協議会	障害のある人との関わり（傾聴ボランティア）	3
5月7日	津野町船戸地区	茶葉ウオーキング・観光ボランティア	8
5月21日	介護老人福祉施設	開設記念祭のボランティア	12
5月29日	第17回高知県障害者スポーツ大会	運営補助・競技補助	77
5月29日	高知市高須地区	し～さいどかまくら・イベント支援	5
6月5日	津野町郷地区	地域清掃・観光ボランティア	14
6月11日	南海学園	地域交流ボランティア	3
6月12日	南国市稲生地区	集落活動センターイベント・ボランティア	11
6月18日	四万十市西土佐地区大宮地域	集落活動センターイベント・ボランティア	23
6月19日	本山町汗見川地区	集落活動センターイベント・ボランティア	4
6月25～26日	福祉機器展	運営補助・競技補助	73
7月17日	特別養護老人ホーム	夕涼み会ボランティア	2
7月17日	介護老人保健施設	納涼祭のボランティア	2
7月23日	介護老人保健施設	納涼祭のボランティア	2
7月23日	介護老人福祉施設	夏祭りのボランティア	2
8月	津野町社会福祉協議会	わくわくふれあいデー	1
8月11日	土佐町地蔵寺地区	地域交流ボランティア	4
8月13日	高知市永国寺キャンパス	地域福祉研究会ボランティア	1
8月13日	介護老人福祉施設	納涼祭のボランティア	1
8月21日	津野町郷地区	地域づくりワークショップ	5
9月	障害福祉サービス事業所	障害のある子どもたちとの関わり	1
9月3日	障害者支援センター	まつりボランティア	1
9月10日	土佐清水市斧積地区	地域づくりワークショップ	5
9月11日	特別養護老人ホーム	環境整備ボランティア	1
9月18～19日	四万十市西土佐地区大宮地域	集落活動センターイベント・ボランティア	7
10月2日	高知頸損会	焼肉交流会	1
10月9日	障害者支援施設	祭のボランティア	5
10月10日	安芸市東川地区	集落活動センターイベント・ボランティア	3
10月15日	障害者支援施設	涼風祭のボランティア	3

学生を中心とした活動（ボランティア活動）

10月16日	介護老人保健施設	交流会ボランティア	1
10月21日	高知県知的障害者福祉協会	第34回ゆうあいスポーツ四国・よさこい高知こい大会	45
10月18～21日	特別支援学校	修学旅行介助ボランティア	2
10月19～21日	特別支援学校	修学旅行介助ボランティア	2
10月27日	特別支援学校	修学旅行介助ボランティア	1
10月27～28日	特別支援学校	修学旅行介助ボランティア	3
11月6日	介護老人福祉施設	地域感謝祭のボランティア	4
11月8～11日	特別支援学校	修学旅行介助ボランティア	1
11月19日	特別養護老人ホーム	レクリエーション	1
11月26日	特別養護老人ホーム	環境整備ボランティア	1
12月4日	児童家庭支援センター	オレンジリボン運動たすきリレー	2
12月9日	奈半利町平松地区	地域支え合いマップづくりワークショップ	2
12月11日	佐川町佐川地区	地域活動拠点づくりボランティア	3
12月18日	障害者支援施設	クリスマス会の手伝い	4
12月17～18日	キッズ☆バリアフリーフェスティバル	運営補助など	1
12月25日	特別養護老人ホーム	環境整備ボランティア	1
12月27日	特別養護老人ホーム	餅つき大会	1
12月28日	特別養護老人ホーム	餅つき大会のボランティア	3
12月23日	特別養護老人ホーム	レクリエーションのボランティア	1
1月7日	特別養護老人ホーム	レクリエーションのボランティア	1
1月14日	津野町郷地区	地域づくりワークショップ	5
2月18日～19日	高知県教育委員会事務局	龍馬マラソンの運営補助	3
3月3日	本山町汗見川地区	社会福祉協議会イベント・ボランティア	3
3月8～9日	三原村	地域づくりワークショップ	5
合計			392名

延べ 392 名がボランティアに参加した。ボランティア先は入所施設や地域活動が多い。ボランティア内容は、レクリエーションや施設が行っているお祭りの運営補助、地域交流である。また、単発的なボランティア活動だけでなく、定期的に行うボランティア活動もみられた。

特別支援学校修学旅行ボランティア

本年 10 月～11 月、山田養護学校・日高養護学校・高知若草養護学校土佐希望の家分校の 3 校からの依頼で、本学部の介護・社会福祉コース学生がボランティアとして修学旅行に同行しました。この修学旅行は特別支援学校のさまざまな障害をもつ生徒を対象としたもので、4 回の修学旅行に 8 名の学生がボランティアとして参加しました。体験教室への参加や、公共施設の見学、レジャー施設での活動など、特別支援学校を飛び出して生徒と一緒に様々な町や場所に赴きました。

このボランティアに参加するまでは、「学生の私が何をすればよいのだろうか？でも、せっかく参加できるなら、生徒さんと共に楽しもう」など、様々な感情を抱いていました。しかし、事前説明で教職員の方々や生徒のみなさんと接する機会を設けていただいたり、修学旅行当日も先生方や親御さんのサポートがあったおかげで、何の不安もなくこのボランティアを楽しむことができましたと思います。

ボランティアを終えた後、授業や実習ではあまり関わるできない小中高生と関わる事が出来たことは、自分の中でも大きな収穫だったと感じています。特に修学旅行という普段とは全く違う環境で生徒と関わることは、いつも以上に心身に気を配る必要があります。些細なことでも気が付く能力が身についたと思います。また、修学旅行で感じたいくつかの感情を学校での授業に生かすことで勉学に対する姿勢も変化したのではないかと感じています。さらに、生徒たちだけではなく、引率の先生方と一緒に過ごせたことも大きな経験だったと感じています。生徒たちのことを怒らなければいけないときはしっかりと指導し、褒める場面はしっかりと褒めるといったように、教育的な視点もしっかりと学べたと感じました。

このボランティアに参加するまでは、介護や福祉に関する感情が少し一方的だったのではないかと感じました。自分の中にあった介護観や社会福祉に関する考え方を変えることが出来たとともに学びの深いボランティアでした。



V

卒業論文題目一覽(2016年度)

平成28年度社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

教員氏名	題 目
井上 健朗	自殺未遂者とその家族に対するMSWの関わり ～三次救急病院のMSWの聞き取り調査より～
	長期入院患者の生活の質にソーシャルワーカーの支援が与える影響 ―療養型病院における高齢入院患者に焦点を当てて―
	自己決定をめぐるMSWのジレンマと援助姿勢について ―クライアントの不利益に繋がる自己決定をめぐる―
	高次脳機能障害者の障害受容と生活の再構築に影響を与えた要因について 医療現場においてクライアントと他職種間の関係調整をソーシャルワーカーが行う意義と目的
河内 康文	出生前診断をめぐる出産経験者の認識の実態に関する研究 ―出産経験者に対するインタビュー調査の分析―
	障害者施設で生活する知的障害者の個人情報管理の現状 ―マイナンバー制度を通じた―考察―
	重症心身障害児・者の自立に関する―考察 ―介護福祉士が行う自立支援に焦点を当てて―
杉原 俊二	ひきこもり支援における現状と課題 ―A県における調査を通して―
	児童自立支援施設における現状と課題
	スクールソーシャルワーカーによる発達障害児とその保護者に対する支援 ―支援体制とその立場に着目して―
	児童養護施設における家族再統合の―考察
鈴木 孝典	精神障害者の退院時における意思決定に家族関係が与える影響
	障害者ケアマネジメント従事者の成長過程とその促進要因に関する研究 ―地域で展開される勉強会に着目して―
	精神障害者が福祉教育を通して理解してほしいこと
	大規模災害時における被災支援者に対する精神保健福祉士の支援課題
田中 きよむ	若年生活困窮者に対する生活自立および社会自立支援に関する―考察
	中山間地域における高齢者の居場所づくりに関する―考察 ―空家を活用した居場所づくりに着目して―
	不登校児童生徒の義務教育とその後の支援に関する―考察 ―地域における不登校児童生徒の支援ネットワークに焦点を当てて―
	高齢者施設における地震を想定した防災対策の実際と職員の意識 ―高知県内の福祉避難所協定を結んだ施設の場合―
	災害時の要援護者支援に関する―考察 ―ネットワーク形成と住民の意識に着目して―
	放課後等デイサービスと利用者、学校、他機関との連携について
遠山 真世	福祉分野におけるロボットの展望についての一考察
	就労支援における障害者の心理的变化に関する研究 ―ジョブコーチ支援に着目して―
	児童養護施設における児童指導員の省察の意義
長澤 紀美子	ASD児の地域交流に向けた支援について ―放課後等デイサービスの地域交流の活動を対象に―
	企業におけるソーシャルワークの意義と位置づけに関する―考察
西内 章	スクールソーシャルワークにおける「つなぐ」支援の意義と課題に関する―考察 ―不登校児童生徒への支援に焦点を当てて―
	中山間地域における「アウトリーチが必要な高齢者」への支援に関する―考察
	地域の固有性を尊重したコミュニティの仕組みづくり ―近所のつながりを通じた「互助」に着目して―
	中山間地域における高齢夫婦の生活認識に関する研究
	相談援助実習における「学生の学び」と実習担当者の「思い」に関する研究

西梅 幸治	情緒障害児短期治療施設における高年齢児童への自立支援に関する研究 —子どものストレングスに着目して—
	障害者アートをめぐる障害認識に関する研究
鳩間 亜紀子	施設における高齢者虐待防止の取り組みに関する研究
	高齢者施設の介護職員が行うスピーチロックの実態とその要因 ～高齢者の尊厳が守られたケアを目指して～
	高齢者施設入居者と家族とのつながりを保つための支援に関する研究
福間 隆康	地域包括ケア病棟におけるMSWの役割に関する一考察 —病棟担当職員の業務に着目して—
	市民後見人養成講座修了者の支援策 —養成団体と後見支援員を対象としたインタビュー調査—
	農福連携による障害者就労に関する一考察 —就労継続支援B型事業所の工賃向上に着目して—
	殺人事件における加害者支援に関する一考察 —殺人事件の発生要因について—
	社会的養護関係施設の退所者への就労支援 —職場定着を目指して—
	介護労働者の職業コミットメントが離職意向に及ぼす影響 —2次データを用いた定量的分析—
	累犯障害者に対する地域生活支援に関する一考察 —ワーカークライアント関係に着目して—
丸山 裕子	認知症高齢者と介護者への支援におけるソーシャルワーカーの役割と課題 —自分らしい生活を送るために—
	福祉避難所に指定されている高齢者施設での防災対策と介護職員の意識
宮上 多加子	特別養護老人ホームで暮らす高齢者の「役割の再獲得」に関する一考察
	施設職員が行う“ふれる”行為に関する研究
	介護現場における外国人介護者と受け入れ側が抱える課題 —経済連携協定（EPA）によらない外国人介護者に焦点を当てて—
	高齢者虐待発生における養護者の要因と支援方法 —事例集を用いた分析から—
	福祉避難所に指定されている高齢者施設での防災対策と介護職員の意識
三好 弥生	ハンセン病患者・回復者のスピリチュアルペインに関する一考察 —がん患者のスピリチュアルペインと特性を比較して—
	介護福祉士における感情労働に関する研究 —要介護高齢者への感情ワークに着目して—
山村 靖彦	生活経験が地域への愛着に及ぼす影響 —学生へのアンケート調査をもとに—
	高知市における街路市の価値と必要性に関する実践研究
	プラーマックスツェレの有効性と課題 —住民の主体性に着目して—
	ファミリー・サポート・センター事業の副次的意義 —提供会員の「社会的生きがい」に注目して—
	社会福祉を学ぶ学生が地域と関わる意義 —「地域学実習Ⅰ」からの考察—
	高齢者男性の居場所づくりに関する考察 —ニュースポーツの視点から—
	介護福祉士養成課程における看取りケアに関する一考察

編集後記

社会福祉学部報第19号をお届けします。

本学部報は、平成28年度における社会福祉学部の活動や所属教員の教育研究活動、各種委員会や学生による活動の実績などをまとめたものです。ぜひご一読いただければ幸いです。本学部は、これまで定員拡充や共学化をはじめ、いくつもの変革を伴いながら歩みを進めて参りました。学部創設以来19年の歳月が経ち、大学のあり方やシステムの変更、教員の異動などにより、その雰囲気も無自覚ながら変わってきているのではないかと思います。来年度は、創設20年の節目を迎えますので、開設以来の学生の伸び伸びとした気風や、きめ細やかな少人数制教育などのよき伝統を守り続けていくことができるように、改めて見直す機会にしていきたいと感じております。

現在のわが国では、少子高齢化・人口減少が進み、社会福祉をめぐる課題が山積しています。特に高知県は、その最先端で課題解決先進県を標榜しながら様々な取り組みが進められています。社会福祉による対応は求められるものの、その社会的意義を十分に理解されていない現状のなかで、課題解決先進県にある本学部は、学生とともに学びを深め探究し、発信していくことに責務が課されていると考えられます。

本学部は、開設以来、地域の関係機関や多くの関係者のご支援ご協力のもと、高知県はもとより国内外で活躍する社会福祉専門職を養成するという使命を果たしてきました。また、多くの卒業生が様々な現場で活躍し、学部生に卒後の道を拓いてくれています。今後は、さらに卒業生ともネットワークを築き、より良い教育体制や専門職養成のあり方を模索しながら、さらなる工夫を間断なく続けていきたいと思っております。

今後とも、社会福祉学部の教育にご理解ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

社会福祉学部総務委員会 西梅 幸治

高知県立大学社会福祉学部報

第19号

発行日：2017年6月1日

発行者：宮上 多加子（学部長）

編集：社会福祉学部 総務委員会

高知県立大学社会福祉学部
〒781-8515 高知県高知市池2751-1
Tel 088-847-8700（大学代表）
Tel 088-847-8757（学部代表）
Fax 088-847-8672（学部専用）

